

令和2年度 事業報告
社会福祉法人 川福会

目 次

法 人	1
特別養護老人ホーム福寿苑	21
特別養護老人ホームみのわの里	31
特別養護老人ホーム布市福寿苑・真寿庵	47
介護老人保健施設枚岡の里	65
介護老人保健施設長田の里	68
ケアハウスひらおか	74
ケアハウス喜里川	77
小規模多機能ホームごりょうの家	81
介護老人保健施設すいれん	86
ケアフル布施	93
専門会議・専門委員会活動報告	96

創業者の思い

人は幸せになる権利がある

人は他人（ひと）を幸せにする義務がある

人はひとりでは生きていけない

法人の理念

- 一、私たち川福会は、すべての人々の人権が尊重され、皆様が安心を感じられ、生きがいを持てる社会をめざします。
- 一、私たち川福会は、地域の身近な社会資源として活動し、地域社会に貢献することをお約束します。
- 一、私たち川福会は、制度の一步先を行く法人として、新たな価値を創造し、社会福祉の向上に資することを誇りとします。

法人の事業目的

社会福祉法人川福会は、地域における安心の拠点としての公益的役割を果たし、ご利用者が、個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援すること、及び地域で「生きることに困難」を抱えている人々を支援することを目的として、次の事業を行います。

1. 第1種社会福祉事業
2. 第2種社会福祉事業
3. 公益事業
4. 社会貢献事業

法人のビジョン

1. 職員全員が川福会の理念を共有し、理念の実現に向かって、目標が事業・活動ごとに具体的に設定され、目標を達成するために取り組む仕組みができていて、着実にそれを実践している。
2. 社会福祉法人の使命を果たすため、財務基盤の強化とガバナンスを確立し、社会福祉法人として自立した経営を進めている。
3. 職員が、川福会に勤務していることと川福会が実施している事業を誇りとするとともに、他の法人が模範とする法人となっている。

社会福祉法人川福会 令和2年度事業報告

続・新三か年計画は平成30年度から令和2年度までの中期計画となっており、「法人体制の充実—ガバナンス・職員育成」「既存事業の充実と新規事業拡大の成功」「地域医療との連携と地域公益活動の推進」の3つの大項目が計画の柱となっておりました。

令和2年度は、続・新三か年計画の締めくくりに当たりますが、緊急事態宣言発令など全国的な新型コロナウイルス感染拡大を受け、法人内の施設でも感染者の発生などにより事業計画の実行に大きな影響がありました。

本事業報告にて、令和2年度の計画実行状況について総括し、新たな三か年計画の始まりとなる令和3年度につなげていくための課題を的確に抽出する必要があるため、本事業報告は、下記の内容で構成しております。

法人事業報告書	令和2年度事業計画の実施状況 【付表】①稼働率一覧 ②地域の公益的な取り組み ③研修一覧
各拠点事業報告書	【1】施設運営を振り返って 【2】数値目標と実績 【3】事業計画の実施状況 【4】施設の課題 【付表】行事・防災訓練・研修一覧
専門会議・専門委員会 活動報告書	【1】令和2年度総括 【2】検討内容 【3】令和3年度への課題

本事業報告で法人の経営、運営状況をしっかりと把握し、社会、地域、国民の皆様からの要請にしっかりと答えていくため、社会福祉事業の主たる担い手としての組織機能をさらに充実させていきたいと考えております。

1. 法人体制の充実—ガバナンス・職員育成

[1] ガバナンス

(1) 評議員・外部理事の増員

令和2年度 実施状況	当法人の運営の透明性の更なる担保とガバナンスの更なる強化を行うために、8名の評議員を当法人定款の上限である9名に増員したうえで、外部理事を増員することで、理事総数を6名から7名に増員します。令和2年度中には、増員することはできませんでしたが、令和3年度に向けて次期評議員の候補者の調整を行いました。
令和3年度 への課題	法人の運営の透明性の更なる担保とガバナンスの更なる強化を行うために評議員を増員することで、理事の増員につなげていき、透明で公正な組織体制を確立していきたいと考えています。

(2) 会計監査指摘事項の対応

令和2年度 実施状況	<p>会計監査人監査は、令和2年5月14日、5月18日、10月2日、11月20日、12月11日、令和3年1月8日、2月8日、3月5日に実施されました。</p> <p>主な指摘事項の対応は以下のとおりとなっております。</p> <p>(令和元年度分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賞与引当金計上額の修正（布市福寿苑、長田の里、すいれん） ・ソフトウェア1件の減価償却費計上額修正（みのわの里） ・利用者負担軽減額と対応収益の修正計上（布市福寿苑、枚岡の里、長田の里） ・その他の固定資産の建物付属設備一部を基本財産に修正（要；理事会承認） ・法人本部の債務を、勘定科目；その他の未払金→事業未払金に修正 ・役員報酬の3月後半分未払額を取り消し修正 ・役員の社会保険料本人負担額や源泉税などの計上科目を、預り金に修正 ・ケアハウスひらおかの長期預かり金積立資産の利息収入仕訳修正 ・すいれん固定資産（ハイエース1件）の耐用年数5年→6年に修正 ・令和2年夏季賞与の法定福利費を賞与引当金に振替計上 ・人件費（給与関係、法定福利費）未払額の勘定科目；事業未払金→未払費用に修正 ・注記の4か所（リース資産の重要方針2か所、「有形」、建設仮勘定の記載）修正 <p>(令和2年度分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経理規程第6条第1項の「及」を削除、第24条第2項の「郵便局」を削除 ・顧問弁護士と税理士の報酬費用を各拠点に按分 ・ケアハウスひらおかのエアコン工事の仕訳伝票の修正 ・布市福寿苑の介護報酬等の返還にかかる貸方勘定科目は事業未払金でなく、事業未収金に修正
令和3年度	法人のガバナンスを確保するために、支払資金の収支の状況、適切な会計処理と適正

への課題	な計算書類等の作成を行うことが必要であり、独立した立場である会計監査人による監査を受け、継続的に法人の管理体制を見直していきます。
------	---

(3) 第三者評価受審結果の水平展開（施設運営管理・利用者処遇の向上）の検討

令和2年度 実施状況	前年度までに、3つの特別養護老人ホームの受審を終え、各施設の結果を施設の運営管理に関しては、施設長部長会議において、利用者処遇についてはサービス向上委員会において、比較・検証する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、会議、委員会での比較・検証は、未実施となりました。
令和3年度 への課題	第三者評価受審結果の水平展開が行えることは、川福会のスケールメリットであり、またその結果を比較する事で、それぞれの強みと弱みが明らかになり、強みの更なる強化と弱みの改善を行っていきます。

(4) 組織マネジメント力の向上と周知

令和2年度 実施状況	組織マネジメント力の向上を図るため、例年、管理職に対して、上半期と下半期に、管理職に対し研修会を開催してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、未実施となりましたが、内部監査を1月から実施し各拠点の組織マネジメントの実態把握を行い、組織マネジメントの向上への取り組みを開始しました。
令和3年度 への課題	コロナ禍においても定期的に管理職に対しての研修会を実施できるようにすること。また内部監査により、事業の各部門の状況について法人が一元的に把握し、指導することで組織マネジメント力の向上、ガバナンスを強化していきたいと考えます。

(5) ガバナンスコンサルティング受審・指摘の実行

令和2年度 実施状況	組織のガバナンスの運用をより円滑にするため、外部のガバナンスコンサルティング・組織風土診断については、未実施となりましたが、第三者評価については、グループホーム布市真寿庵において受審いたしました。
令和3年度 への課題	ガバナンスのさらなる強化を図るための方法として、新たに外部のガバナンスコンサルティングの受審等も検討したいと考えます。

[2] 職員育成

(1) 目標管理から人事考課への移行

令和2年度 実施状況	<p>令和2年4月に管理栄養士（栄養士）、令和2年10月に看護師長・介護長・主任看護師・副主任看護師・主任介護士・副主任介護士を対象に人事考課を開始しました。</p> <p>アセッサーに制度・シート・解釈説明と理解を深めるための教育を実施しました。その後、対象職員に面談で評価項目の説明を行い、具体的な目標を立案し、アセッサーと被考課者で理解の共有を行いました。</p> <p>人事考課の面談はこれまでの目標管理やOJTの内容とは異なるため、面談内容につ</p>
---------------	---

	いて職員から少し戸惑いを感じるなどの意見もありました。人事考課と目標管理（人財育成）はリンクするが人事考課の意味と目的を今後も継続して教育する必要性があることを課題として取り組み、下半期の令和3年1月・2月に1次考課、2月・3月に2次考課の面談を実施いたしました。
令和3年度への課題	今後、人事考課はすべての正職員に対して行っていくため、考課者及び被考課者に人事考課制度・評価基準・基準の解釈等理解を深めるための教育を実施しなければならないと考えます。

(2) 教育体系の完遂

令和2年度実施状況	<p>今年度は新型コロナウイルス感染予防のため多くの研修計画や法人研修、人財採用育成会議や職場研修担当者会議の開催が延期、中止となりました。</p> <p>資格取得支援について介護支援専門員の受験者にケアマネ受験サポートチームから受験までの期間に講師を招いて講義を開催することや複数回の模擬試験を実施していましたが今年度は講師の方から資料をいただき受験者へ配布や模擬試験資料を自宅に持ち帰って実施するように例年とは違った方法で支援いたしました。</p> <p>短期大学や専門学校とタイアップして初任者研修や実務者研修の取得の増加を目指しましたがタイアップした試みができなかつたため、各々の拠点で支援することになりました。</p> <p>管理職は理事や執行役員をはじめ面談による目標管理の実施や法人から労務管理について自己啓発によるレポート作成を実施しました。</p>
令和3年度への課題	コロナ禍等においても計画した研修等が実施できるよう教育体系を構築し、実施しなければならないと考えます。

(3) 法人ビジョンの未達の実行

令和2年度実施状況	<p>利用者処遇の向上や地域支援にさらに注力するための職員教育を行うためには、法人の現在の研修体系を再構築することが必要と考え、法人のキャリアパスについても等級ごとの職責、職能の見直し、等級概念の再整理を開始しているが、新型コロナウイルスの影響により協議を進めることができませんでした。</p> <p>人事考課については、専門職「栄養士」から開始し「主任看護師」「副主任看護師」「主任介護士」「副主任介護士」へ対象者の拡大を実施しました。</p>
令和3年度への課題	利用者処遇の向上や地域支援にさらに注力するための職員教育を行うこと、法人のキャリアパスについても、等級ごとの職責、職能を見直し、等級概念の再整理を進めていくこと、人事考課対象者の拡大することにも注力していき、他の法人の模範となるような事業運営が行える職員育成に注力したいと考えます。

(4) 外国人留学生支援の実行

令和2年度	令和2年4月のベトナム人留学生の入国に向け、サポートする準備を進めましたが、
-------	--

実施状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入国が制限されたため11月に入国が遅れましたが、外国人留学生の支援を開始することができました。12月から枚岡の里・みのわの里・長田の里でアルバイトとして受け入れを行い、学業の支援だけでなく、生活面のサポートも行っています。
令和3年度への課題	外国人留学生が、安心して介護福祉の知識や技術を学べるよう支援して未来の介護福祉士の育成に貢献していきます。

2. 既存事業の充実と新規拡大の成功

[1] 既存事業の充実—財務基盤の充実強化

(1) 法人事業活動資金収支差額2億7千万円の黒字

令和2年度 実施状況	<p>法人事業活動資金収支差額は、95,310千円で未達成となりました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症クラスターの発生による福寿苑と枚岡の里の収入減少が大きく、その後に職員の感染のあった布市福寿苑も収入減となりました。その他、すいれん、ごりょうの家、ケアフル布施などでも当初予算に対する達成率が低くなりました。</p> <p>法人全体として、特に短期入所系や通所系に対して、利用控えなど新型コロナウイルス感染症が大きく影響を受けました。</p> <p>支出では、政府の「新型コロナウイルス感染症対策支援金」の補助を受けましたが、超過勤務手当の増加、夏季賞与支給率の増加などにより人件費率が上昇し、新型コロナウイルス感染症対策関連での保健衛生費や人材紹介手数料などの増加により経費率も上昇しました。</p>
令和3年度 への課題	<p>稼働率・利用者1人あたりの単価を改善させるとともに、人件費率・経費率も併せて改善する必要があります。</p> <p>収入における稼働率については、営業・広報・ベッドコントロールのツール検討・入所日までの日数短縮で改善していきます。</p>

(2) 人件費率と経費率の改善

令和2年度 実施状況	<p>法人全体の人件費率は、前年度67.7%に対して令和2年度70.1%となっております。夏季賞与の支給率増加、看護師や介護士の補充、超過勤務手当の増加などにより上昇しております。</p> <p>既存施設での人件費率が福寿苑で73.2%、布市福寿苑で77.4%と特に高くなっております。福寿苑は、職員給料の減少以上に派遣職員費用などが増加しております。布市福寿苑は、前年度と比べて非常勤職員と派遣職員の増加などにより今年度の人件費が3,800万円増加しております。併せて、両施設ともに収益の落ち込みが大きいこともあり人件費率が上昇しております。ごりょうの家は、大幅な赤字が続いており、人件費率が103%と高くなっております。</p>
---------------	--

	<p>経費率は法人全体として、新型コロナウイルス感染症対策関連での保健衛生費、人材紹介手数料など経費の増加傾向があり、前年度決算に比べて0.1%増の27.1%となっております。</p>
令和3年度への課題	<p>人件費比率については、健全なサービス提供体制を維持しつつ、業務を見直し改善をさらに進めることや、パート職員・派遣職員の有効な活用により、各事業規模等に応じた人件費率にする必要があります。また、経費率については、スケールメリットを生かした業者の見直しや新型コロナウイルス対策の備品購入等も併せて、各事業規模等に応じた経費率を検討し定率化する必要があります。</p>

(3) 赤字事業の改善の促進

令和2年度実施状況	<p>小規模多機能型居宅介護・訪問介護・地域密着型通所介護については、共生型サービスの検討も始めているが、地域の障がい者のニーズ把握ができておらず、赤字事業の収支改善に至っていない状況となりました。</p> <p>訪問介護事業所において、介護保険で対応できない院内付き添いや年末大掃除、庭掃除等、介護保険適応外サービス（自費サービス事業）を開始いたしました。</p>
令和3年度への課題	<p>赤字事業のありかたや社会福祉法人だからこそ行わなければならない事業についてさらに検討し、事業統廃合計画（第3版）を策定したいと考えています。</p>

【2】新規事業の検討と既存サービスの見直し

(1) アウトリーチ型サービスの展開と加算取得推進

令和2年度実施状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、地域関係機関からのニーズ抽出が、進められず、介護老人保健施設において、訪問看護や訪問リハビリ等のサービスの検討は、未実施となりました。特別養護老人ホーム併設の訪問介護において、障がい福祉サービスの開始についてもニーズ抽出など行えず、未実施となりました。</p> <p>新規加算取得に関しては、法人としての加算取得計画にある加算取得に取り組みましたが、人員の確保等が思うようにできず、加算取得に至っていない状況ですが、すべての介護老人保健施設においては、在宅復帰支援加算の取得ができました。</p>
令和3年度への課題	<p>地域包括ケアシステムの構築を推進するため地域ニーズを抽出し、そのニーズに合うアウトリーチ型サービスを検討する。また利用者処遇を向上させ、サービスの質の改善につながる加算取得の推進に取り組みます。</p>

(2) サービス向上アンケート・第三者評価受審結果に現れた課題の解決

令和2年度実施状況	<p>第三者評価の水平展開を実施するために福寿苑、みのわの里、布市福寿苑で評価結果の見直し（特にC、B判定について）行い優先順位をつけて目標を挙げ、その目標に期限と実施対象者を明確にするように準備しました。サービス向上委員会と介護士連絡会で明確にして計画と周知を行い令和3年度から実施する準備を始めました。</p>
-----------	---

	ご利用者満足度アンケートは各専門職、事業者連絡会が準備を行い12月にはご利用者やご家族へアンケートを配布、令和3年2月にアンケート結果を開示して各事業所や専門職にて改善、向上に取り組みました。
令和3年度への課題	サービス向上委員会・介護士連絡会で受審結果や各施設の現状について協議、検討し、明らかになった課題に対して、施設運営管理、利用者処遇それぞれに施設ごとの改善計画を策定していきたいと考えています。

[3] 小規模多機能ホームごりょうの家

(1) 拠点の通年黒字化

令和2年度実施状況	新型コロナウイルスによる利用控えの影響も受け、拠点の黒字化は、未達成となりましたが、ケアプランセンターを併設したことにより、介護相談は、増えており、ケアプラン作成件数は、増加しました。小規模多機能居宅介護は、徐々に登録者数が増加しており、地域密着型サービス拠点として大東市域での認知度も上がってきました。また、認知症対応型通所介護は、一般通所介護との違いや認知症の方に対して柔軟な対応を行うことやその特色を打ち出すことで、利用者の獲得を進めており、稼働率も60%を超えてきています。徐々に実績は伸びてきました。
令和3年度への課題	収支改善については、利用者数の増加、介護度の上昇、加算取得、人員配置の工夫など実施していくこと、さらに地域との連携を進めていかなければならないと考えています。

[3] 介護老人保健施設すいれん

(1) 拠点の通年黒字化

令和2年度実施状況	ご利用者の在宅復帰を進めて、在宅復帰支援加算型の老健への移行しました。在宅復帰者には退所前の自宅訪問及び自施設の居宅介護支援事業所との連携を行って在宅復帰後もご利用者の支援に努めてまいりました。下半期には、入所稼働率90%を超え、収支状況も改善し拠点の黒字化を図りました。
令和3年度への課題	在宅復帰強化型の老健をめざし、加算取得、さらなる稼働率の向上により拠点経営の安定をめざします。

(2) アウトリーチ事業の開始

令和2年度実施状況	地域におけるニーズ抽出に関しましては、コロナの影響により祭りや、地域の行事が中止となり、未実施となり、アウトリーチ事業の検討に至りませんでした。訪問による家屋調査等の対応は慎重に行っておりますが、療法士等が自宅を訪問し在宅復帰後の注意点等を助言、提案行っております。
令和3年度	地域包括ケアシステムの構築に向けて、その役割を果たす施設として、地域のニーズ

への課題	に適したアウトリーチ事業の開始計画を立てる。
------	------------------------

3. 地域医療の連携と地域公益活動の推進

[1] 医療との連携

(1) 2 医療法人との連携強化による地域包括ケアシステムの推進

令和2年度 実施状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、枚岡病院との協議の延期や、枚岡健康祭りの中止。地域包括支援センター主催の地域ケア会議等についても開催を見合わせるなどの影響が生じております。</p> <p>また、8 月末には双方の事業所にて新型コロナウイルス感染症が発生。実質的な協議・活動の休止を余儀なくされましたが、その渦中においても現場サイドにおける連携として、枚岡病院による福寿苑全職員へのPCR検査などの協力が実施されました。</p>
令和3年度 への課題	<p>今後、国民の高齢化の進展に伴い、自宅で暮らしながら医療を受ける患者数の増加等、医療・介護ニーズが大きく変化していく中で、地域包括ケアシステム構築に向けて、その活動をさらに推進していく必要があります。</p>

(2) 新規事業地における地域包括ケアシステムの強化

令和2年度 実施状況	<p>地域における医療機関との連携を継続し情報交換等積極的に行うなど、新型コロナウイルス感染防止に取り組みました。</p> <p>「ごりょうの家」では、大東四条曙医療・介護連携会議のグループ長として施設と医療機関との連携シート普及させるため研修会の企画、開催し多職種連携をより深めることに取り組みました。</p>
令和3年度 への課題	<p>今後、国民の高齢化の進展に伴う慢性疾患や複数疾患を抱える患者の増加、リハビリテーションニーズの増大、自宅で暮らしながら医療を受ける患者数の増加等、医療・介護ニーズが大きく変化していく中で、地域包括ケアシステム構築に向けて、その活動をさらに推進していく必要があります。</p>

[2] 地域公益活動の推進

(1) 東大阪地域における新しい地域公益活動の推進

令和2年度 実施状況	<p>毎月実施していたサロンや、隔月開催の買物ツアー等の地域公益活動の定期開催についても新型コロナウイルス感染症の影響により休止状態が継続しました。目標としていた地域防災への取り組みについても、自治会の会合が見合わせとなるなど協議ができず、ニーズ把握や情報収集などが未実施となりました。</p>
令和3年度 への課題	<p>コロナ禍における地域公益活動のありかたの検討は必須であり、住民向け広報誌の作成、オンラインによる相談支援体制の構築等、様々な角度から当法人で行える地域公</p>

	益活動を検討します。
--	------------

(2) 大東市・近隣地域における地域公益活動の推進

令和2年度 実施状況	地域公益活動の拠点化をはかるため軌道にのっていた「元気でまっせ体操」や「認知症カフェ」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、近隣地域の関係機関と協議して、開催を見合わせました。御領サロンは共同で実施しましたが、ごりょうの家の会議室の地域に開放や地域におけるニーズ抽出、自治会との協議サロン活動の際のアンケートなどによる情報収集や実態把握を行う計画をしていたが、未実施となりました。地域や近隣の関係機関との関係性は、オンライン等を活用して継続しました。
令和3年度 への課題	オンライン等を活用した地域や関係機関との関係性の継続をはかり、コロナ禍における地域公益活動のありかたの検討を行う必要があります。

(3) 大阪市鶴見区域における地域公益活動の推進

令和2年度 実施状況	施設独自の祭りや、地域に向けての研修や相談につきましても、新型コロナウイルス感染症の影響により自粛せざるを得ない状況となり積極的な活動は、できませんでした。
令和3年度 への課題	コロナ禍における地域公益活動のありかたの検討は必須であるが、まだまだ、地域や関係機関との関係性を深めていく必要がある。地域の実態把握を行い、地域のニーズに合った活動を行う必要があります。

社会福祉法人 川福会 令和2年度 各事業 稼働率一覽表

拠点区分	サービス区分	定員	年度	項目	年間目標	単月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考 (黄色網掛け部分)	
福寿苑	特別養護老人ホーム	50	R2年度	稼働率	93.0 %	単月稼働率	92.3	90.3	90.0	86.6	88.3	76.3	85.0	91.7	97.2	96.8	97.7	97.4		
			平均稼働率			92.3	90.9	89.8	89.5	87.3	87.0	87.6	88.7	89.5	90.2	90.8				
			R1年度			単月稼働率	87.5	90.4	91.4	86.5	89.0	89.1	88.2	87.4	89.1	91.2	94.4	89.1		
		H30年度	平均稼働率		87.5	89.0	89.8	89.0	89.0	89.0	88.9	88.7	88.7	89.0	89.5	89.4				
		短期入所生活介護	4		R2年度	単月稼働率	89.9	91.5	86.6	90.8	92.6	87.5	88.0	92.8	93.4	87.7	84.2	82.5		
					平均稼働率	89.9	90.7	89.4	89.7	90.3	89.9	89.6	90.0	90.4	90.1	89.6	89.0			
					R1年度	単月稼働率	110.8	122.6	144.2	157.3	148.4	45.8	33.1	105.8	89.5	116.1	100.9	81.5		
		H30年度	平均稼働率		110.8	116.8	125.8	133.8	136.8	121.9	109.0	108.6	106.5	107.4	106.9	104.7				
		通所介護	25		R2年度	単月稼働率	125.0	113.7	123.3	112.1	149.2	105.0	154.8	124.2	125.8	119.4	122.4	129.8		
	平均稼働率			125.0	119.3	120.6	118.4	124.7	121.4	126.3	126.0	125.3	125.1	125.5						
	H30年度			単月稼働率	78.3	78.2	70.0	70.2	93.5	118.3	106.5	95.8	79.8	125.0	174.1	143.5				
	H30年度	平均稼働率	78.3	78.3	75.5	74.2	78.1	84.7	87.9	88.8	87.8	91.6	98.5	102.3						
	認知症対応型通所介護	10	R2年度	単月稼働率	62.5	59.4	65.1	65.6	64.0	44.0	54.7	59.7	62.5	61.5	60.3	62.4				
			平均稼働率	62.5	60.9	62.3	63.2	63.3	62.6	62.0	61.6	61.7	61.7	61.6	61.7					
			R1年度	単月稼働率	69.2	71.4	75.7	78.1	77.3	79.0	74.8	77.7	73.6	73.5	72.3	71.2				
	H30年度	平均稼働率	69.2	70.3	72.1	73.6	74.4	75.1	75.1	75.4	75.2	75.0	74.8	74.5						
	訪問介護	—	R2年度	単月稼働率	71.4	67.6	66.8	66.5	67.0	67.5	61.6	62.5	65.8	64.8	63.3	69.4				
			平均稼働率	71.4	69.4	68.5	68.0	67.8	67.7	66.8	66.3	66.2	66.1	65.9	66.2					
R1年度			単月稼働率	61.2	59.2	58.1	63.0	60.4	48.0	53.3	36.8	33.8	32.5	35.4	45.9					
H30年度	平均稼働率	61.2	60.2	59.5	60.4	60.4	59.9	59.4	56.1	53.2	51.0	49.5	49.1							
居宅介護支援事業所	—	R2年度	単月稼働率	58.1	63.7	73.2	67.0	63.0	68.4	61.2	62.3	63.2	67.5	72.8	64.6					
		平均稼働率	58.1	60.9	64.9	65.4	64.9	65.5	64.9	64.5	64.4	64.7	65.4	65.3						
		R1年度	単月稼働率	48.2	45.6	43.5	31.5	34.8	41.3	39.3	46.2	49.6	54.6	62.1	58.5					
H30年度	平均稼働率	49.2	47.3	46.0	42.4	40.8	40.9	40.7	41.3	42.2	43.4	45.0	46.1							
訪問介護	—	R2年度	単月稼働率	11.1	8.9	7.6	7.4	7.3	8.0	7.4	7.8	7.8	7.3	7.6	8.0					
		平均稼働率	11.1	10.0	9.2	8.7	8.5	8.4	8.3	8.3	8.2	8.1	8.1	8.1						
		R1年度	単月稼働率	8.2	9.2	9.2	9.0	8.8	8.9	10.0	10.3	10.8	11.9	11.3	11.0					
H30年度	平均稼働率	8.2	8.7	8.9	8.9	8.9	8.9	9.0	9.2	9.4	9.6	9.8	9.9							
居宅介護支援事業所	—	R2年度	単月稼働率	8.7	8.6	8.0	8.6	9.5	9.4	9.1	9.1	9.7	10.3	9.4	9.4					
		平均稼働率	8.7	8.7	8.4	8.5	8.7	8.8	8.9	8.9	9.0	9.1	9.1	9.1						
		R1年度	単月稼働率	38.9	40.1	39.9	41.6	40.1	41.4	43.3	41.8	41.8	40.7	38.7	39.0					
H30年度	平均稼働率	38.9	39.5	39.6	40.1	40.1	40.3	40.7	40.9	41.0	40.9	40.7	40.6							
居宅介護支援事業所	—	R2年度	単月稼働率	31.0	31.8	31.7	33.2	34.6	35.3	36.0	37.5	37.2	37.6	39.3	40.8					
		平均稼働率	31.0	31.4	31.5	31.9	32.5	32.9	33.4	33.9	34.3	34.6	35.0	35.5						
		R1年度	単月稼働率	39.3	38.3	36.8	37.8	36.6	38.4	38.9	39.2	39.5	39.2	40.5	40.8					
H30年度	平均稼働率	39.3	38.8	38.2	38.1	37.8	37.9	38.0	38.2	38.3	38.4	38.6	38.8							

みのわの里	特別養護老人ホーム	110	稼働率	R2年度	95.5 %	単月稼働率	93.4	92.2	91.7	91.4	94.8	96.0	92.5	94.8	93.3	91.6	92.9	91.4	
				R1年度		平均稼働率	93.4	92.8	92.4	92.2	92.7	93.2	93.1	93.3	93.1	93.0			
				H30年度		単月稼働率	94.4	92.3	93.4	96.2	98.4	94.2	97.5	94.5	90.0	93.6	94.1	92.1	
						平均稼働率	94.4	93.4	93.4	94.1	95.0	94.8	95.2	95.1	94.6	94.4	94.2		
						単月稼働率	89.2	92.7	88.2	92.7	96.2	96.0	95.8	96.2	94.0	93.3	93.4	95.9	
						平均稼働率	89.2	91.0	90.1	90.7	91.9	92.5	93.0	93.4	93.5	93.5	93.7		
	短期入所生活介護	20	稼働率	R2年度	88.0 %	単月稼働率	85.3	88.2	88.2	79.0	89.5	85.7	80.6	76.8	85.5	83.7	94.6	78.2	
				R1年度		平均稼働率	85.3	88.9	88.7	86.2	86.9	86.7	85.8	84.7	84.8	85.7	86.5	85.8	
				H30年度		単月稼働率	72.3	86.0	84.0	80.6	84.4	79.0	83.7	89.8	89.2	93.7	96.4	83.7	
						平均稼働率	72.3	79.3	80.8	80.8	81.5	81.1	81.5	82.5	83.3	84.3	85.4	85.2	
						単月稼働率	101.0	82.7	92.5	84.7	94.8	90.7	78.9	83.5	90.6	83.4	86.8	76.0	
						平均稼働率	101.0	91.7	92.0	90.1	91.1	91.0	89.3	88.5	88.8	88.2	88.1	87.1	
通所介護	35	稼働率	R2年度	85.0 %	単月稼働率	72.6	71.1	81.1	84.0	82.4	82.0	86.0	86.7	79.9	75.6	79.9	80.8		
			R1年度		平均稼働率	72.6	71.9	74.9	77.3	78.3	78.9	80.0	80.8	80.7	80.2	80.2	80.2		
			H30年度		単月稼働率	80.0	79.4	86.6	81.9	81.4	81.5	82.1	82.4	84.3	85.6	83.9	78.0		
					平均稼働率	80.0	79.7	81.9	81.9	81.4	81.5	82.0	82.1	82.3	82.6	82.7	82.3		
					単月稼働率	79.4	82.5	82.2	81.8	83.1	86.2	82.5	80.4	80.2	79.9	73.6	80.5		
					平均稼働率	79.4	81.0	81.4	81.5	81.8	82.5	82.5	82.3	82.0	81.8	81.2	81.1		
認知症対応型通所介護	12	稼働率	R2年度	75.0 %	単月稼働率	46.8	44.9	47.4	58.0	56.4	56.1	54.6	53.7	61.9	60.1	62.5	61.7		
			R1年度		平均稼働率	46.8	45.8	46.4	49.4	50.8	51.6	52.1	52.3	53.3	54.0	54.7	55.3		
			H30年度		単月稼働率	73.1	74.4	69.3	65.7	64.8	59.3	56.2	61.2	71.0	71.2	63.7	60.6		
					平均稼働率	73.1	73.7	72.3	70.6	69.4	67.8	66.1	65.5	66.1	66.6	66.3	65.8		
					単月稼働率	75.3	63.6	70.8	85.3	83.3	79.9	84.9	84.6	83.0	74.3	71.2	68.3		
					平均稼働率	75.3	69.2	69.8	73.6	75.6	76.3	77.6	76.4	78.9	76.5	77.9	77.1		
訪問介護	-	1日あたり	R2年度	15.0 件	単月稼働率	13.3	13.2	13.5	13.7	13.7	13.7	13.5	13.6	13.7	13.7	13.7	13.7	13.7	13.7
			R1年度		平均稼働率	13.3	13.2	14.2	14.2	13.5	13.7	13.7	13.5	14.0	13.6	13.8	13.8		
			H30年度		単月稼働率	14.0	13.6	13.7	14.4	13.9	13.6	13.8	13.6	12.9	13.3	14.5	13.5		
					平均稼働率	14.0	13.6	13.6	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.7	13.6	13.7	13.7		
					単月稼働率	11.6	12.4	13.3	14.5	14.1	13.3	13.4	14.2	13.4	14.7	14.0	15.0		
					平均稼働率	11.6	12.0	12.4	13.0	13.2	13.2	13.2	13.3	13.4	13.5	13.5	13.7		
居宅介護支援事業所	-	常勤1あたり	R2年度	38.0 件	単月稼働率	38.1	37.7	40.0	40.5	39.6	39.3	39.5	38.8	38.2	36.0	35.4			
			R1年度		平均稼働率	38.1	37.9	38.6	39.1	39.2	39.2	39.2	39.2	39.1	39.0	38.7			
			H30年度		単月稼働率	34.2	36.0	36.4	36.7	37.6	33.8	37.3	37.6	38.7	38.7	39.6			
					平均稼働率	34.2	35.1	35.5	35.8	36.2	35.8	36.0	36.5	36.8	37.0	37.2			
					単月稼働率	31.4	30.7	30.2	30.2	31.7	31.6	33.3	31.8	32.5	34.0	34.4			
					平均稼働率	31.4	31.0	30.7	30.6	30.8	30.9	31.3	31.3	31.5	31.7	31.9			
訪問入浴	-	1日あたり	R2年度	3.0 件	単月稼働率	2.9	3.0	3.3	3.5	3.3	3.9	3.7	3.6	3.5	2.6	2.5	2.6		
			R1年度		平均稼働率	2.9	3.0	3.1	3.2	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.3				
			H30年度		単月稼働率	2.9	3.0	3.0	2.4	1.9	2.4	1.7	2.2	2.5	2.6	2.7			
					平均稼働率	2.9	3.0	3.0	2.8	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.5	2.5			
					単月稼働率	3.0	2.8	3.2	2.8	3.0	3.1	3.5	3.6	3.3	3.7	3.3			
					平均稼働率	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2			

布市福寿苑	特別養護老人ホーム	80	稼働率	R2年度	95.5 %	単月稼働率	94.5	91.3	91.9	91.5	89.6	88.1	94.0	94.7	94.4	86.7	88.4	92.3	
				R1年度	95.5 %	平均稼働率	94.5	92.9	92.5	91.7	91.1	91.6	91.9	92.2	91.7	91.4	91.5		
				H30年度	95.5 %	単月稼働率	98.8	95.0	92.1	92.3	89.9	90.8	96.3	91.5	89.2	86.8	92.2	96.9	
	短期入所生活介護	20	稼働率	R2年度	96.0 %	単月稼働率	91.8	94.2	92.9	94.2	94.8	97.0	95.0	96.1	96.0	97.5	97.1	95.1	95.1
				R1年度	84.0 %	平均稼働率	70.0	52.7	60.8	78.1	80.0	84.0	76.0	86.7	80.0	63.9	63.4	66.9	
				H30年度	84.0 %	単月稼働率	69.5	74.0	74.5	75.4	78.6	78.8	79.9	80.3	79.8	79.5	79.6	78.7	
	通所介護	35	稼働率	R2年度	85.0 %	単月稼働率	83.3	67.1	82.0	78.4	80.5	79.5	84.4	87.3	90.5	85.6	82.7	84.7	
				R1年度	86.0 %	平均稼働率	75.4	77.5	79.2	79.9	79.7	80.1	80.1	79.4	78.3	76.8	75.9	75.3	
				H30年度	86.0 %	単月稼働率	87.8	83.4	85.6	91.0	87.2	85.7	85.1	83.5	85.3	81.4	84.0	76.5	
	認知症対応型通所介護	10	稼働率	R2年度	90.0 %	単月稼働率	74.1	78.6	79.6	83.3	81.1	79.6	80.4	85.1	89.9	86.2	80.5	83.8	
				R1年度	60.0 %	平均稼働率	36.5	45.0	54.6	52.6	49.2	48.5	50.4	46.4	32.4	17.7	21.7	25.6	
				H30年度	60.0 %	単月稼働率	36.5	40.8	45.4	47.2	47.6	47.8	48.2	47.9	46.3	44.8	42.7	41.2	
訪問介護	—	稼働率	R2年度	60.0 %	単月稼働率	55.0	57.8	55.6	40.7	42.2	49.2	50.8	50.8	55.1	43.2	44.2	44.4	36.9	
			R1年度	50.0 %	平均稼働率	28.4	27.0	28.5	24.6	30.7	34.6	38.9	49.8	50.2	49.5	49.0	48.6	47.6	
			H30年度	50.0 %	単月稼働率	28.4	27.7	27.9	27.1	27.9	28.9	30.4	32.3	33.9	34.8	42.1	43.5		
居宅介護支援事業所	—	稼働率	R2年度	15.0 件	単月稼働率	10.4	10.3	11.0	9.9	10.9	10.7	10.1	10.5	9.3	9.5	7.0	7.1		
			R1年度	15.0 件	平均稼働率	10.4	10.4	10.6	10.4	10.5	10.5	10.5	10.5	10.3	10.3	10.0	9.7		
			H30年度	14.0 件	単月稼働率	14.0	15.0	14.0	13.5	14.4	14.9	14.8	14.7	15.2	14.7	14.9	11.3		
グループホーム	9	稼働率	R2年度	14.0 件	平均稼働率	14.0	14.5	14.3	14.1	14.2	14.3	14.4	14.4	14.5	14.5	14.5	14.5	14.3	
			R1年度	14.0 件	単月稼働率	14.6	14.1	16.1	15.2	15.3	14.9	16.4	15.1	15.4	14.9	14.8	14.2		
			H30年度	38.0 件	平均稼働率	14.6	14.3	14.9	15.0	15.1	15.0	15.2	15.2	15.2	15.2	15.2	15.1		
居宅介護支援事業所	—	稼働率	R2年度	38.0 件	単月稼働率	37.4	38.2	38.9	39.1	39.4	39.3	39.3	39.3	38.2	39.1	37.9	36.9	36.3	
			R1年度	38.0 件	平均稼働率	36.4	36.4	35.0	34.5	34.3	36.6	37.1	37.9	39.2	38.7	38.2	38.4		
			H30年度	38.0 件	単月稼働率	36.4	36.4	35.9	35.6	35.3	35.5	35.7	36.0	36.3	36.6	36.7	36.8		
グループホーム	9	稼働率	R2年度	38.0 件	平均稼働率	39.2	38.5	38.7	38.2	37.7	38.2	38.5	38.5	38.7	37.4	37.0	31.7		
			R1年度	98.0 %	単月稼働率	39.2	38.8	38.8	38.7	38.5	38.6	38.6	38.7	38.7	38.6	38.4	37.8		
			H30年度	98.0 %	平均稼働率	100.0	97.5	91.9	100.0	100.0	100.0	97.8	97.5	100.0	100.0	100.0			
グループホーム	9	稼働率	R2年度	98.0 %	単月稼働率	100.0	98.7	96.5	97.4	97.9	98.2	98.5	98.4	98.3	98.5	98.6	98.7		
			R1年度	98.0 %	平均稼働率	97.8	88.9	92.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
			H30年度	98.0 %	単月稼働率	97.8	93.3	93.0	94.8	95.9	96.5	97.0	97.4	97.7	97.9	98.1			
グループホーム	9	稼働率	R2年度	98.0 %	平均稼働率	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	97.8	98.9	100.0	100.0	100.0	100.0			
			R1年度	98.0 %	単月稼働率	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	97.8	98.9	100.0	100.0	100.0				
			H30年度	98.0 %	平均稼働率	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	97.8	98.9	100.0	100.0	100.0				

枚岡の里	介護老人保健施設	90	R2年度	稼働率	94.5 %	単月稼働率	94.2	96.3	94.8	92.2	88.3	80.1	84.0	84.3	81.0	84.3	89.0	87.3	
			R1年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	95.1	93.2	89.9	90.2	93.8	94.7	94.3	94.2	92.9	90.5	92.6	93.4	
			H30年度	稼働率	96.0 %	単月稼働率	88.0	90.8	92.4	90.1	92.6	94.3	98.3	92.1	89.4	86.3	87.0	91.0	
長田の里	介護老人保健施設	99	R2年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	93.0	96.1	96.6	96.3	98.5	96.9	97.5	94.0	95.6	93.9	94.8	95.4	
			R1年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	90.9	89.9	93.5	96.8	94.4	93.7	92.8	89.0	93.6	95.9	96.9	95.7	
			H30年度	稼働率	97.0 %	単月稼働率	93.7	90.8	87.4	91.1	90.3	88.6	91.5	94.7	94.9	93.3	93.8	91.7	
ひらおか	軽費老人ホーム	60	R2年度	稼働率	83.0 %	単月稼働率	76.7	76.9	78.4	79.5	79.6	79.1	78.9	78.4	74.1	61.9	63.6	70.0	
			R1年度	稼働率	85.0 %	単月稼働率	83.1	81.1	81.6	78.9	74.6	81.7	78.5	79.0	76.7	75.3	79.3	80.8	
			H30年度	稼働率	85.0 %	単月稼働率	84.3	77.9	80.1	80.9	78.5	78.5	81.9	86.4	81.5	82.6	85.0	83.8	
喜里川	通所介護	18	R2年度	稼働率	39.6 件	単月稼働率	38.8	38.8	39.3	39.5	39.7	39.7	39.7	40.5	40.3	39.8	39.8	39.7	39.8
			R1年度	稼働率	38.0 件	単月稼働率	38.7	41.2	40.7	41.8	39.3	38.2	40.0	42.2	41.2	39.7	40.7	39.7	
			H30年度	稼働率	32.1 件	単月稼働率	30.5	31.7	33.3	34.2	34.2	35.3	34.7	36.0	35.7	37.2	37.7	37.0	
喜里川	通所介護	18	R2年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	99.9	98.2	98.7	96.7	98.3	96.9	98.1	95.0	96.6	95.1	95.1	96.7	
			R1年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	96.6	94.3	91.6	90.0	92.3	92.1	99.9	98.3	99.9	98.4	98.3	100.0	
			H30年度	稼働率	95.0 %	単月稼働率	97.9	95.4	93.7	93.3	94.9	96.7	96.5	90.2	94.1	94.1	96.6	97.7	
喜里川	通所介護	18	R2年度	稼働率	93.0 %	単月稼働率	93.9	89.8	88.3	89.4	90.7	93.5	94.1	94.4	92.8	91.4	89.4	89.2	
			R1年度	稼働率	94.0 %	単月稼働率	93.8	91.2	91.9	93.0	91.4	93.2	95.2	94.7	93.6	92.5	94.7	93.9	
			H30年度	稼働率	94.0 %	単月稼働率	93.8	92.5	92.3	92.5	92.3	92.4	92.8	93.0	93.1	93.0	93.2	93.2	
喜里川	通所介護	18	R2年度	稼働率	68.0 %	単月稼働率	91.1	92.1	92.4	92.4	93.7	96.8	97.0	96.1	93.2	91.3	95.0	93.6	
			R1年度	稼働率	73.0 %	単月稼働率	60.7	61.3	69.2	67.5	67.7	65.8	68.3	62.7	60.3	58.3	56.5	53.1	
			H30年度	稼働率	70.0 %	単月稼働率	60.7	61.0	63.7	64.7	65.3	65.4	65.8	65.4	64.9	64.3	63.6	62.7	
喜里川	通所介護	18	R2年度	稼働率	73.0 %	単月稼働率	53.4	56.8	56.2	53.3	44.2	55.1	57.8	63.7	65.8	67.4	68.7	66.9	
			R1年度	稼働率	70.0 %	単月稼働率	53.4	55.1	55.5	54.9	52.7	53.1	53.8	55.0	56.2	57.2	58.2	58.9	
			H30年度	稼働率	70.0 %	単月稼働率	67.3	70.6	72.6	74.6	72.2	66.4	72.2	68.6	64.5	57.2	51.2	54.5	
喜里川	通所介護	18	R2年度	稼働率	70.0 %	単月稼働率	67.3	69.0	70.2	71.3	71.5	70.7	70.9	70.6	70.0	68.8	67.3	66.2	
			R1年度	稼働率	70.0 %	単月稼働率	67.3	69.0	70.2	71.3	71.5	70.7	70.9	70.6	70.0	68.8	67.3	66.2	
			H30年度	稼働率	70.0 %	単月稼働率	67.3	69.0	70.2	71.3	71.5	70.7	70.9	70.6	70.0	68.8	67.3	66.2	

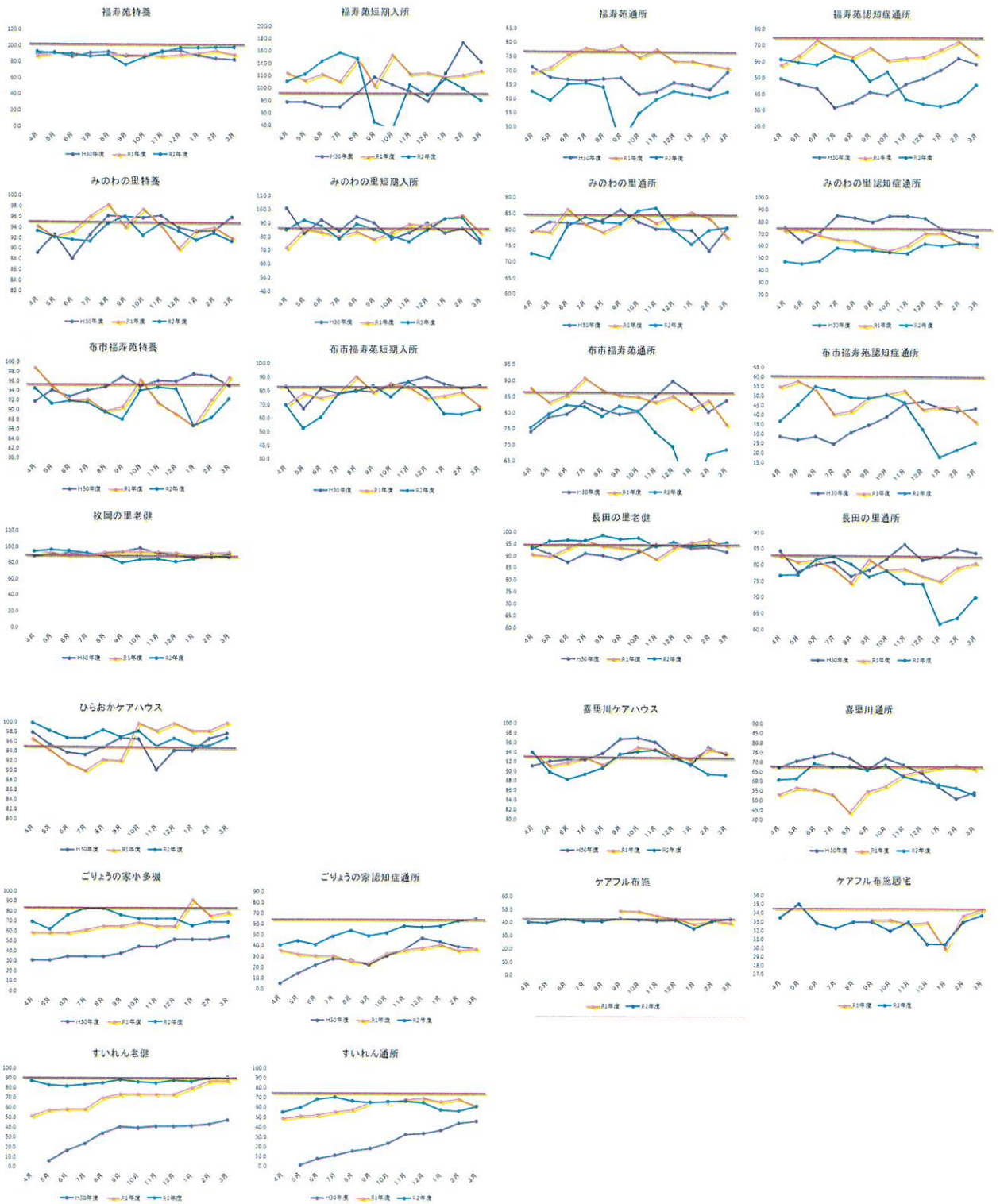
ごりよの家	小規模多機能型居宅介護	29	R2年度	稼働率	84.5 %	単月稼働率	69.0	62.1	75.9	82.8	82.8	75.9	72.4	72.4	72.4	65.5	69.0	69.0	
			R1年度	稼働率	66.1 %	単月稼働率	56.6	58.6	62.1	69.0	72.4	74.5	74.7	74.4	74.1	73.9	73.1	72.7	72.4
			H30年度	稼働率	33.9 %	単月稼働率	31.0	31.0	34.5	34.5	34.5	34.5	37.9	44.8	44.8	51.7	51.7	51.7	64.9
	認知症対応型通所介護	12	R2年度	稼働率	67.3 %	単月稼働率	41.0	44.6	41.3	49.1	54.2	49.7	52.5	58.7	58.0	59.0	59.0	63.5	65.7
			R1年度	稼働率	55.5 %	単月稼働率	36.4	33.0	31.7	31.5	25.2	24.7	33.3	36.9	39.0	42.0	42.0	36.3	37.8
			H30年度	稼働率	37.6 %	単月稼働率	5.2	14.5	22.2	28.0	27.0	27.0	22.8	31.2	36.7	47.5	44.2	39.6	38.1
	すいれん	介護老人保健施設	100	R2年度	稼働率	90.5 %	単月稼働率	86.9	82.9	82.0	83.2	85.2	88.3	85.8	85.1	87.7	86.7	90.5	90.6
				R1年度	稼働率	78.0 %	単月稼働率	51.9	57.7	58.9	59.1	70.8	74.5	74.4	74.3	74.3	80.8	87.7	87.4
				H30年度	稼働率	43.0 %	単月稼働率	6.4	17.0	24.0	34.4	40.6	39.9	41.4	41.5	41.5	41.9	43.4	47.6
		通所リハビリ	30	R2年度	稼働率	73.8 %	単月稼働率	55.1	57.6	61.3	63.7	64.3	64.5	64.8	65.1	65.1	64.4	63.8	63.6
				R1年度	稼働率	64.0 %	単月稼働率	49.1	51.9	52.8	55.9	58.1	65.6	65.3	69.2	69.9	67.1	69.6	62.4
				H30年度	稼働率	40.0 %	単月稼働率	1.7	8.2	11.5	16.2	18.8	24.0	24.4	27.0	29.1	30.6	31.9	32.9
ケアフル布施	居宅介護支援事業所	-	R2年度	常勤1あたり	27.0 件	単月稼働率	33.5	33.0	33.5	34.5	35.0	39.5	41.5	40.5	42.0	42.5	42.0	43.0	
			R1年度	常勤1あたり	20.4 件	単月稼働率	20.0	22.0	20.0	23.0	25.0	25.5	27.5	29.0	30.0	31.0	32.5	33.0	
			H30年度	常勤1あたり	16.0 件	単月稼働率	20.0	21.1	20.7	21.3	22.1	22.7	23.4	24.1	24.8	25.4	26.1	26.7	
	訪問介護	-	R2年度	稼働率	43.8 件	単月稼働率	40.5	40.0	42.8	41.2	41.1	43.5	42.4	41.4	42.0	35.5	41.2	43.0	
			R1年度	1日あたり	44.3 件	単月稼働率	40.5	40.3	41.1	41.1	41.1	41.5	46.0	46.0	43.3	39.6	41.7	40.4	
			H30年度	稼働率	件	単月稼働率	49.5	49.5	49.2	48.1	46.9	45.4	44.8	44.2	44.2	44.2			
居宅介護支援事業所	-	R2年度	常勤1あたり	34.5 件	単月稼働率	33.5	35.0	32.8	32.3	33.0	33.0	32.0	33.0	30.5	30.5	33.0	33.8		
		R1年度	常勤1あたり	30.0 件	単月稼働率	33.5	34.3	33.8	33.4	33.3	33.3	33.1	33.1	32.8	32.6	32.6	32.7		
		H30年度	常勤1あたり	件	単月稼働率	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.1	32.5	32.7	32.9		

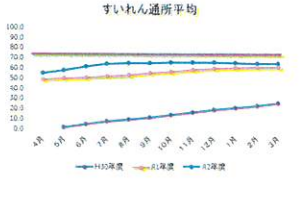
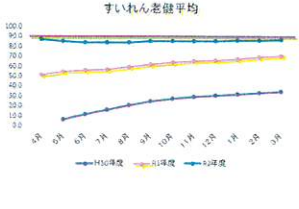
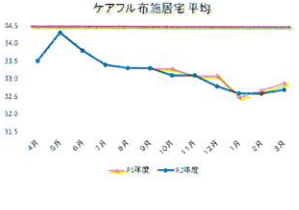
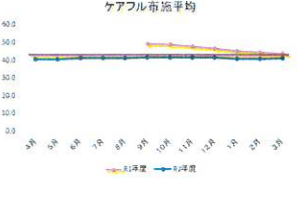
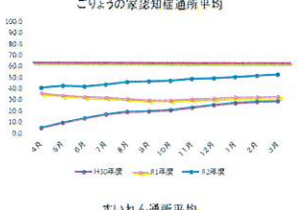
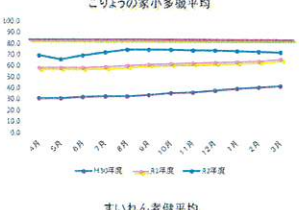
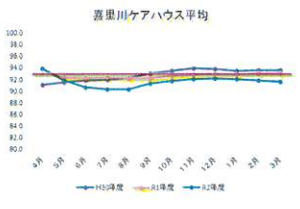
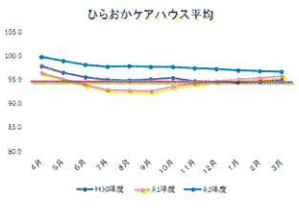
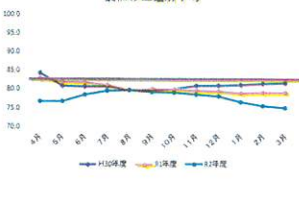
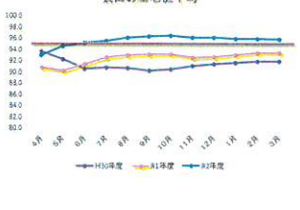
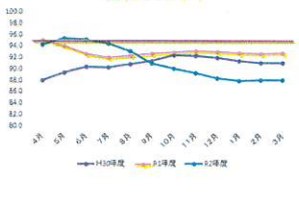
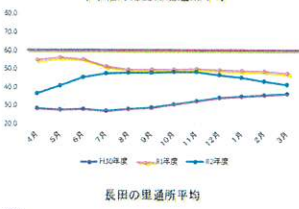
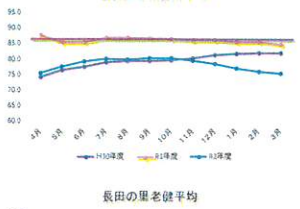
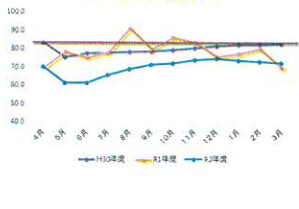
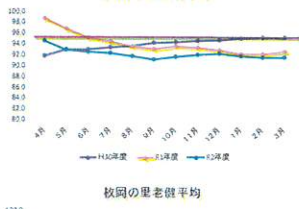
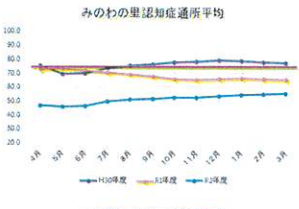
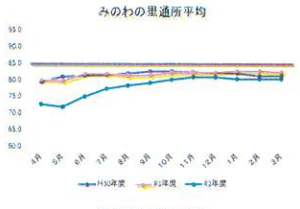
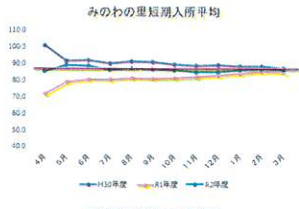
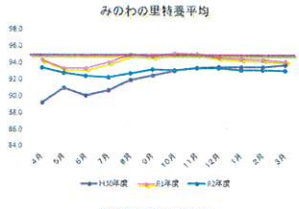
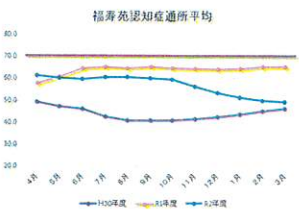
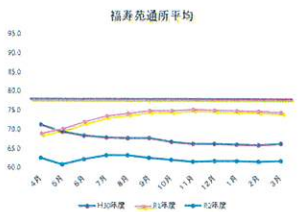
H29年12月18日開設

H30年5月1日開設

H30年6月1日開設

R1年9月1日





令和2年度 川福会の地域・社会貢献活動

川福会の地域における公益的な取組み

実施施設	取組	取組内容	開催時期
特養 ケアハウス	大阪府社会貢献事業	生活困窮者リスク事業として制度の狭間などで生活を抱える方への総合生活相談と緊急支援を行う。	随時
各施設	就労訓練事業 (都道府県認定事業)	自立相談支援機関からの紹介により就労に困難を抱える方を受け入れ、就労の機会の提供と生活面や健康面での支援を行う。	随時
各施設	社会福祉法人減免	生計の困難な方等に介護保険サービスの利用者負担額の軽減を行う事業。	年1回
各施設	職場体験	大阪府社会福祉人材支援センターに登録。 施設の近隣中学の職業体験を受入れする。	随時
各施設	大阪府広域就労支援事業	就労訓練事業と内容は同様（大阪地域職業訓練センターや福祉事務所からの紹介による）	随時
ごりょうの家	御領サロン	御領地区の地域住民と、事業所、地域包括、社協等が共同でサロンを運営。	年4回
各施設	地域の見守り活動	各車両に「こども110番」のステッカーを張り、施設の玄関に「こども110番の家」のぼりを立て啓発活動を行っている。	随時
各施設	地域清掃	各施設のまわり、公園等の清掃を実施。	随時
各施設	夢の貯金箱	日本財団の社会貢献自動販売機の設置。	随時
各施設	各施設会議室等の活用	地域自治会、婦人会、各種団体施設の会議室等での会議や活動等に場所の提供。 長田の里：大阪介護老人保健施設協会 中河内ブロック会会場	随時
みのわの里	介護予防教室	地域包括支援センター主催でリハビリ体操や3B体操を地域向けに開催。	随時
喜里川	会場提供	地域を担当する地域包括支援センターの様々な取り組みに対する会場提供。	随時
みのわの里	車いす無料貸出し事業	貸出し専用の車いすを3台確保し必要な地域の方に貸与。	随時

付表③

法人内部研修一覧表

月日	研修名	参加者
4/1	理念・ビジョン・経営方針について	令和2年度新卒採用職員
	就業規則について	
	接遇マナーについて	
4/2	認知症サポーター研修	
	事故発生防止について	
	ご利用者体験・グループワーク	
4/3	映画から気づきを学ぶ	
	人権研修	
	絵画から気づき、疎通を学ぶ	
	感染症予防について	
4/4	介護の心得	
	救急救命講習	
4/6	認知症と介護の基本	
	身体拘束と虐待	
	口腔ケア、誤嚥性肺炎の予防	

本部職員研修参加一覧表

月日	研修名	研修主催機関	参加者
9/10	エン・ジャパン求人広告オンラインセミナー	エン・ジャパン	事務員
11/11	一歩先を行く！Microsoft Teams の活用 オンラインセミナー	大塚商会	事務員
11/30	ココでしか聞けない大学向け求人票のノウハウ！求人票配信サービス<キャリアタス UC> 利活用オンラインセミナー	株式会社ディスコ	事務員
1/19	学校担当に聞く、最新の学校利用状況 オンラインセミナー	株式会社ディスコ	事務員
1/20	学生の共感を集める！「採用サイト」 最新トレンドオンラインセミナー	株式会社ディスコ	事務員
1/20	テレワーク向けセキュリティ強化 オンラインセミナー	大塚商会	事務員
1/21	Windows 10 導入後のアップデート管理 と対策オンラインセミナー	大塚商会	事務員
2/2	オンライン採用時代を勝ち抜く 『LINE』活用事例オンラインセミナー	株式会社ディスコ	事務員
2/4	中途採用人事のための Web 面接のコツ オンラインセミナー	エン・ジャパン	事務員
2/25	LINE 公式アカウント活用 オンラインセミナー	LINE 株式会社	事務員
3/9	Microsoft Teams 活用における効果と課題 オンラインセミナー	大塚商会	事務員
3/10	Microsoft Team セキュリティアップ オンラインセミナー	大塚商会	事務員
3/23	Microsoft Teams 活用術 オンラインセミナー	大塚商会	事務員

【1】施設運営を振り返って

- (1) 地域共生社会の実現に向け、地域包括ケアの理念である「必要な支援を包括的に確保する」という理念を普遍化して行けるよう、事業所運営を実施して参ります
- (2) 地域との連携・協力体制強化や事業の共同実施など様々な方法にて、更なる公益的取り組みを推進します
 - ・地域包括ケア実施の為、当施設が有する事業や機能を介して、実施可能な範囲において、地域行事への協力や社会貢献事業などを実施致しました。
 - しかし、この度のコロナ渦の中においては、今までの経験やセオリーでは限界があり、新たな方法での情報提供や協力・機能提供を模索し構築してゆく途上段階にあると言えます。
- (3) 資格取得支援・内外における研修機会の確保・充実により職員の資質の向上を図ります
 - ・受講を予定していた多くの外部研修等が、残念ながら延期や休止を余儀なくされ、計画通りの研修機会の確保は果たせておりません。
 - ・施設内での内部研修については、集団での実施や技術講習等の密になる研修は避け、講習を中心とした形式で実施致しました。
- (4) 介護機器の導入や業務委託先の見直し、業務オペレーションの修正などによって入所者、利用者の処遇向上を図ります
 - ・当施設においても年度内において、コロナ感染症が発生したことから対策として、業務オペレーションの変更や、ディスプレイ品への切替等により衛生管理の向上を実施。
 - ・次年度より提供開始を目指し、新たな厨房業務委託先を選定。提供される食事の内容及び提供形態の改善や衛生面の向上を目指します。
- (5) 短時間労働や業務特化での就労など様々な雇用スタイルを実施し介護人材確保に努めます
- (6) 外国人採用に向けた事業所の整備を進め、環境、指揮命令、教育方法などについて更に改善を実施して参ります
 - ・短時間労働者の採用や外国人の派遣職員の雇用、外国籍の職員採用などを実施。
 - ・ハローワーク等の通常の採用に加え、職員からの紹介や新たな募集媒体の発掘等を実施し人材確保に努めております。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入 達成率	人件 費率	経費率	償却 費率	利益率
拠点	目標	—	100%	67.8%	23.1%	9.0%	0.1%
	実績	—	94.2%	73%	24.4%	11.3%	△8.7
特養	目標	93.0%	100.0%	67.5%	30.0%	11.8%	△9.3%
	実績	90.8%	99.2%	69.4%	31.7%	14.4	△15.5%
短期	目標	95.0%	100.0%	32.2%	14.9%	2.0%	50.9%
	実績	104.7%	108.5%	38.9%	14.5%	1.9%	44.7%
通所	目標	77.0%	100.0%	61.9%	19.0%	15.0%	4.1%
	実績	61.7%	73.5%	79.6%	23.5%	22.9%	△26%
通所認知	目標	71.0%	100.0%	73.7%	13.8%	6.9%	5.7%
	実績	49.1%	68.4%	93.7%	18.2%	9.3%	△21.2%
訪問介護	目標(月)	308件	100.0%	94.9%	12.2%	2.4%	△9.5%
	実績	188件	72.6%	153.4	11.4	2.9%	△67.7%
居宅	目標(月)	179件	100.0%	74.2%	4.1%	1.2%	20.5%
	実績	191件	105.5%	72.9%	3.2%	1.0%	22.9%
介護予防 支援	目標(月)	210件	100.0%	40.8%	44.0%	—	15.2%
	実績	207.5件	89.7	45.4%	38.7%	3.6%	12.3%
地域 包括	目標(月)	100件	100.0%	90.2%	13.4%	2.3%	△5.9%
	実績	115件	97.7%	89.0%	11.9%	2.3%	△3.2%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) 特別養護老人ホーム

- ・コロナウイルス蔓延により外部研修の実施が激減した。WEBで実施する研修を柔軟に取り入れることで研修実施方法において新たな取り組みとなり安全に開催ができ、研修参加等の管理もしやすくなった。定期開催の「口腔衛生研修」をWEB研修として確立しております。内部研修についても実施をしておりますが、まだまだ浸透しきれていない面もあります。引き続き研修の充実と学習後のフォローを丁寧におこなってまいります。
- ・多彩な雇用形態の導入により非常勤スタッフを雇用することができました。短時間労働者の雇用の実現は介護職人材不足の中、職員がより入所者の処遇改善に目を向けて取り組む時間となりました。今後も専門性の高いスタッフ育成を目指し取りくんでまいります。
- ・入所者の生活環境整備を目標に5S活動の取り組みをおこなってまいりました。特に衛生環境を維持する事と内容を見直しながら実施状況を確認すること。

記録物の電子化促進等も取り組みの一つであり、記録等の書類の見直しと整理までは確立しましたものの十分におこなえず引き続きの課題であります。

- ・業務効率を向上させるべく、マニュアルの見直し及び整備を実施。記録や提出物をデータ化してきました。サマリー等の提出物はデータ化を完了しており、その他についても徐々に増加させています。

(2) 短期入所

- ・コロナウイルスによるご利用への影響はあったが、その後の回復に力を注ぐ事とご依頼には迅速に対応しサービスの提供を行ったことで稼働率の維持向上につながった。稼働には影響のあったものの大きく信頼を失うことなく事業を進めることができた。
- ・ご利用後の忘れ物が減らず、ご利用にあたり信頼を低下させることから、荷物チェックの方法を写真で記録するように確立。しっかりと記録することで処遇改善と業務効率の向上となりました。

(3) 通所介護（認知症対応型を含む）

- ・コロナ禍で外部研修参加は困難な状況でしたが、介護度の高いご利用者に利用いただける食事提供内容と入浴サービス方法、職員配置と介護技術等を見直しいたしました。
- ・個別ニーズに対応のできる体制整備と質の向上のため、各種提供メニューを見直し実施いたしました。また個別機能訓練加算のサービス提供開始することが出来ました。

(4) 訪問介護

- ・外部研修はコロナウイルスの影響で参加しなかったが、毎月の勉強会を開催し、職員の資質向上に努めた。
- ・職場環境の整備やOJTの活用、定期的な職員へのヒヤリングなど実施し定着に努力したが、今年度2名の退職者があった。
- ・人員の充足を目指し募集を行い、紹介会社、職員の紹介で人員を確保することができた。人員の増減にかかわらず、常に効率的な人員配置を実施し、出来る限りのコスト削減を行った。
- ・当事業所の取り組みである利用者宅での防災点検を行い、防災意識の啓発を行った。
- ・2月に正職1名の退職があったが、利用者を減らすことなく、職員全員で不測の事態を乗り切る事が出来た。

(5) 居宅介護支援事業

- ・コロナ禍により対面での研修がほとんど行われていないが、オンラインでの研

修などには積極的に参加し、事業所内の伝達研修にて共有ができた。

- ・コロナ禍により地域医療や地域包括支援センター、各サービス事業所などの機関と直接会って連携する機会は減ったが電話やFAX等で利用者のニーズに的確に対応できるように支援し体制を構築できた。
- ・担当上限枠の遵守と、特定事業所加算の維持継続ができた。

(6) 地域包括支援センター

- ・地域包括ケアシステム構築の一端である民生委員とケアマネジャーとの連携ツールについて、広く活用していけるよう9月に地域のケアマネジャーへ説明会を実施しました。民生委員へは会合が開催されず、十分な周知に至りませんでした。説明会后1件も連携ツールを使用する利用者がなかったため、今後も定期的に説明会を開催し、活用を勧めていきます。
- ・高齢者生活支援等会議は予定通り開催できましたが、「縄手北いきいきマップ」は新型コロナウイルス感染症の影響により、各つどいの場が停止したこともあり、今年度作成配布は一旦中止となりました。令和3年度に完成させ地域の高齢者に配布できるよう取り組んでいきます。
- ・共助のまちづくりのための「認知症サポーター養成講座」は感染症対策を行い年3回実施いたしました。令和3年度も定期開催を行っていきます。小学校に対しては、縄手北小学校で「キッズサポーター養成講座」を実施しました。しかし、縄手東小学校は日程が合わず、開催できなかったため、令和3年度に2つの学年合わせて開催する予定となっています。その他、商店や銀行などにおいても開催できるよう取り組んでいきます。
- ・高齢化が進む12階建てのファミリーマンションについて、高齢者における課題抽出や課題解決に向けて、自治会や老人クラブと連携し、また地域のケアマネジャーの協力も得て、「瓢箪山マンション高齢者支援プロジェクト」を3月から始動しました。

【4】施設の課題

(1) 事業運営を安全に継続し稼働率向上と維持を行う

- ・コロナ禍において感染症対策強化とその周知を職員に継続的にする。
- ・サービス提供する職員の健康を維持し続ける為、高齢者施設従事者に対する集団検査等の受検を行い蔓延防止に努め、事業継続すること。
- ・新型コロナウイルス感染症発生に伴い、通常サービス提供体制といかず稼働率低下につながった期間があった為、日々の感染症対応や衛生管理について取り組み続ける必要がある。

(2) 各事業の収益構造の改善

- ・収益構造改善のための課題は各事業の稼働改善が大きな目標となっています。各

部門の業務内容の見直しとその改善により質の高いサービス内容を適正な人員配置で提供していくことが課題となっています。

(3) 介護人材確保と職員の資質向上

・介護人材の確保は大きな課題ではありますが、求職者ニーズを把握しスポット的な採用と専門職でないものにおいても行える業務構築を行うことで人材確保に結びつけていく。また研修の機会は外部参加のみならず内部でも機会を失うことなくし続けることが必要。

【5】付表

(1) 行事

年間行事実施報告：特別養護老人ホーム福寿苑

月	行事内容
4	お花見として外出し、花園駅～山本駅～池島～額田駅～枚岡公園付近の桜並木や菜の花畑を車両でドライブしました。
5	母の日&父の日のイベントとしてお花をプレゼントして写真撮影し、心ばかりのプレゼントを贈りました。
6	
7	七夕の日に笹を飾り、今年一年の願い事をお祈りしました。
8	夏祭りの出店をイメージしたゲームを作り提供しました。
9	※コロナウイルス蔓延により自粛。
10	
11	
12	クリスマス会として行事食を提供し、皆さんをサンタクロースに見立てて写真撮影会を実施。写真を家族様へプレゼントしました。
1	元旦祭として、入所者様と新年のお祝いを致しました。 初詣の企画として、おみくじを行いました。
2	節分祭として、職員が鬼や福の神に扮装し、入所者様に無病息災を祈願して頂きました。
3	ひな祭りを実施。職員がお内裏とお雛様に扮装し、甘酒や雛あられを提供致しました。
その他	・誕生日会（毎月）・ホーム喫茶（毎月）・ビデオ観賞会（毎月）

年間行事実施報告：福寿苑デイサービスセンター

月	行事内容	定期行事
4	お花見ドライブ・おやつ作り (認知症対応型限定)	ごちそうの日 (月2回)
5		ごちそうの日 (月2回)
6	金魚飾り作品作り	ごちそうの日 (月2回)
7	七夕飾り・草染めハンカチ作り (認知症対応型限定)	ごちそうの日 (月2回)
8		ごちそうの日 (月2回)
9		ごちそうの日 (月2回)
10		ごちそうの日 (月2回)
11	焼き芋行事	ごちそうの日 (月2回)
12	名札作り・GO TO 福寿苑 第1回)	ゆず風呂 ごちそうの日月2回)
1	新年会・GO TO 福寿苑 第2回)	松湯 ごちそうの日 (月2回)
2	節分祭	大根湯 ごちそうの日 (月2回)
3	ひな祭り	ごちそうの日 (月2回)
その他 (毎月実施)	誕生日会 ※3月以降は感染予防の為中止	

(2) 防災訓練

年間防災訓練実施報告：特別養護老人ホーム福寿苑

月日	種別	内容
11月7日	避難訓練	地震及び地滑り発生時における避難方法と被害想定規模の説明会。
2月27日	避難訓練	火災及び地震発生時における避難方法と被害想定規模の説明会。

(3) 研修

年間研修実施報告：特別養護老人ホーム福寿苑

	研修内容（テーマ）	参加職種
4	事故・リスクマネジメントに関する研修	介護員 生活相談員
5	事故・リスクマネジメントに関する研修	介護員 生活相談員
7	感染症に関する研修	介護員 看護師 生活相談員
8	顧客満足と苦情対応について	介護員 生活相談員
9	顧客満足と苦情対応について	介護員 生活相談員
10	感染症に関する研修	介護員 看護師 生活相談員
11	事故対策危険予知トレーニング（KYT）	介護員
12	人権と高齢者虐待についての研修 褥瘡に関する研修	介護員 看護師
1	認知症ケアに関する研修	介護員
2	身体拘束と虐待についての研修	介護員

年間研修実施報告：福寿苑デイサービスセンター

	研修内容（テーマ）	参加職種
5	認知症と混同しやすい正常圧水頭症について 施設内研修)	全職種
6	リスクマネジメント研修（施設内研修）	全職種
9	通所介護における個別機能訓練加算（施設内研修） 通所介護計画書作成について（施設内研修）	全職種
	新型コロナウイルス感染拡大防止研修（施設内研修） 口腔ケアについて（施設内研修）	全職種
11	人権研修（施設内研修）	全職種

1	高齢者虐待研修（施設内研修）	全職種
2	身体拘束研修（施設内研修）	全職種

年間研修実施報告：福寿苑ヘルパーステーション

	研修内容（テーマ）	参加職種
4	認知症の方の尊厳と家族の対応	全職員
5	新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』における熱中症予防	全職員
6	食中毒を防ぐ3の原則・6ポイント	全職員
7	訪問介護の接遇マナーは大切～言葉遣いと服装だけじゃない～	全職員
8	介護事故を防ごう～介護現場でよくあるヒヤリ・ハット～	全職員
9	救急救命～あなたの力で救える命があります～	全職員
10	高齢者虐待と人権	全職員
11	介護職員の為の感染症対策（訪問系）	全職員
12	個人情報とプライバシー	全職員
1	介護現場で必要な介護術の基本	全職員
2	介護職員のストレスの原因とメンタルヘルスのやさしい方法	全職員
3	令和3年度介護報酬改定の概要	全職員

(4) 地域包括支援センター実績集計

地域包括支援センター事業実績報告書														
令和2年度年間分	支援センター名	福寿苑			今年度新規相談実人員	431								
	担当者名	山口												
相談件数	相談者と相談方法			身体状況										
実態把握加算対象	本人	家族	OM	その他	計	不明	未申請	申請中	自立	要支援	要支援計			
加算対象外件数	233	176	45	934	1388	8	169	113	3	1	2			
相談件数合計	1388					421	607		928					
認知症相談件数	訪問	来所	電話	計		要介護度					要介護計			
	1295	89	4	1388		1	2	3	4	5	6			
権利擁護援助件数	家族形態			相談内容及び申請代行										
うち虐待関連件数	同居	独居	計	介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係						
	613	775	1388	相談内容	1236	90	10	26	20					
				申請代行	154		3							
				介護予防		基本チェック	その他	計						
				相談内容	58	5	241	1888						
				申請代行				157						
サービスの状況と利用希望														
現利用	ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ					
利用希望	54	108	20	2	128	5	18	8						
現利用	配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中	計				
利用希望	11	93	17	88	16	5	4	3	590					
単位地域ケア会議														
介護支援専門員			サービス事業者			医師			会議出席者					
医療機関職員			自治会			民生委員			単位地域ケア会議加算対象					
校区福祉役員			関係機関			知人								
地域ケア支援・生活支援コーディネーター内訳														
相談方法				個別加算対象				認知症支援						
訪問	来所	電話	FAX	計	個別加算対象外	地域ケア支援個別計	集団加算対象	地域ケア支援加算合計	生活支援集団加算対象	認知症力フェ(主権)	認知症カフェ(その他)	認知症本人活動支援	認知症あんしん声かけ研修	計
		29		29		29	11	40	25	8	3			11
相談者				虚構関連相談件数				高齢者生活支援等会議						
				23						地域活動団体				
					福祉・介護職									
					自治会					校区福祉委員				
					民生委員					老人クラブ				
					居宅介護支援					訪問介護				
					通所介護									
					2					3				
					3					3				
					3					3				
					1					1				
					2					2				
					4					4				
					1					1				
					9					9				
					15					15				
実施した支援・内容														
地域ケア支援(個別・集団)														
ケアマネジメント支援	ソーシャルワーク援助	情報提供	迎援支援	その他	計	生活支援コーディネーター活動(集団)								
個別	2	1	2	26	29	生活支援の担い手の活動状況確認								
集団	2	1	6	2	11	生活支援の担い手の養成支援								
						総合事業の制度説明等								
						取組の事例発表								
						計								
						25								
生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援)														
担い手支援(社会資源マップ作成)														
第1層への課題提示														
第1層への課題提示加算対象														
担い手種別				マップ計										
助け合い				つどい				計						
立ち上げ担い手支援				担い手支援				計						

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和2年度年間分

支援センター名	福寿苑
担当者名	山口

地域介護予防活動支援

相談・支援件数	
総件数	
	うちグループ活動支援
2	2

グループ種別					
老人クラブ	校区福祉委員会	自治会	老人Gボランティア	その他	計
				2	2

相談方法				
訪問	来所	電話	その他	計
2				2

教室実施状況

開催件数	
介護予防教室開催件数	29
家族介護教室開催件数	3
リモート型教室立ち上げ件数	1

【1】施設運営を振り返って

- (1) 収支について、拠点ベースの収益は黒字となりましたが、目標予算に届きませんでした。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年度となり、利用控えをされた通所介護（認知症対応型含む）事業の稼働率低下につながりました。また、支出につきましては、残業代が増えたこと、採用に紹介会社の活用と派遣職員の活用により、人件費があがりました。来年度も、新型コロナウイルス感染症の影響は継続して大きいと予測されますので、しっかりと、感染予防対策を講じて安心と安全なサービス提供に努めます。引き続き収支改善のために稼働率、利用数の向上を図るとともに人件費の適正化、事業費、事務費の抑制化の実効により、収支バランスの安定化を図ります。
- (2) 介護記録システムの活用について、特養・通所介護において活発に活用することができました。システムに入力すれば帳票等の作成が行え、記録の簡素化につながり、職員間の情報共有が円滑に行えたこと、利用者様に対する対人支援時間が増えたことで利用者処遇の向上になりました。新型コロナウイルス感染症の状況により、ウェブ研修の参加や法人内の委員会や会議の開催をウェブで行われたこと、テレワークの実施等、想定以上にICT化が進んだと思います。来年度も、継続して介護システム活用、ウェブ研修や会議に積極的に参加を行うことで更なるICT化の向上に努めます。
- (3) 地域の身近な社会資源として、地域社会に貢献できるように、地域へのアウトリーチ活動の推進を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症状況により、ほぼ実行できませんでした。自施設の福祉祭が開催できず、今まで交流を行ってきた、「保育所」「障がい者施設」「学校関係」とも交わることができませんでした。地域包括支援センターが主体となり、多職種連携による広報誌の作成と地域への配布を行いました。引き続き、このコロナ過で、どのようにすれば地域社会に貢献できるのか、重要な課題となりました。
- (4) 職員教育としての研修参加について、年度当初は新型コロナウイルス感染状況により開催が中止となり積極的な参加は出来ませんでした。後半より、研修がウェブ開催されることも増え、施設のWi-Fi環境を整え、タブレットパソコンの導入を行うことで研修参加が徐々に増えました。今後も、ウェブ研修が主流となり開催されることが予測されますので、職員がパソコンに触れる機会が必然と増える良い機会として、積極的に参加するようにします。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	—	65%	23%	5%	7%
	実績		99.3%	67%	24%	5%	4%
特養	目標	95.5%	—	61%	29%	6%	5%
	実績	93%	100.8%	61%	29%	6%	4%
短期	目標	88%	—	59%	19%	5%	16%
	実績	85.8%	93.2%	59%	22%	7%	12%
通所 (障害含)	目標	85%	—	76%	14%	3%	6%
	実績	80.2%	97.4%	84%	14%	5%	△3%
通所 (認知症型)	目標	75%	—	51%	15%	2%	33%
	実績	55.3%	96%	73%	16%	3%	7%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

訪問入浴	目標	780	—	119%	6%	9%	△34%
		3					
訪問入浴	実績	829	109%	113%	6%	9%	△28%
		3.3					
訪問介護	目標	4800	—	97%	4%	1%	△1%
		3.9					
訪問介護	実績	4246	101%	111%	3%	1%	△15%
		3.2					

※訪問入浴の訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と1日あたりの訪問件数（下段）

※訪問介護の訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1日あたりの訪問件数（下段）

居宅介護	目標	2598	—	67%	3%	1%	30%
		38					
居宅介護	実績	2630	99.9%	68%	4%	1%	28%
		38.5					
介護予防	目標	2040	—	60%	42%	0%	△3%
		31					
介護予防	実績	2177	101.7%	58%	43%	0%	△1%
		32.9					

※担当件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1日あたりの訪問件数（下段）

地域包括	目標	137	—	94%	8%	1%	△3%
	実績	80	93.5%	98%	13%	2%	△13%

※開催件数は介護予防教室・家族介護教室・グループ活動支援・地域ケア支援集団・認知症カ

【3】事業計画の実施状況

（1）特別養護老人ホーム

- ① ワークエンゲージメントを持てる環境を構築します。
 - ・介護度の高いご利用者には 2 人介護を徹底し、ご利用者の安心・安全や身体の小さな変化に気付けるように取り組みました。
 - ・職員が主体となり、感染予防するための啓発ポスターを作成しました。
 - ・業務の切り分け（掃除・食事の準備等）を行い介護職員が、介護士としてご入居者と関りが持てるように体制整えました。
 - ・職員が主体となり、日々の体温チェック表を作成し、健康管理に努めました。
 - ・リーダー制を取り入れ、主任、副主任が不在でも、状況を把握し、ご入居者の状況把握及び提案が出来るように取り組みました。
- ② ご利用者、ご家族の要望に応えるため、個別支援の充実を図ります。
 - ・新型コロナの影響により、外出等は行えていません。近隣のスーパーへは職員のみで買い出しを行いました。
 - ・ご利用者、ご家族のご意向を聞き、感染症対策を実施した上での入居者のニーズ（何がしたいか）に沿った支援を実施しました。
 - i. 看取り介護実施者には、感染症予防を実施した上で、出来る限りの面会を実施しました。
 - ii. お盆、正月には自宅へ帰れない方への、施設のスペースを活用した憩いの場の提供を実施しました。
- ③ ICT 化への取り組みを推進し、業務効率化を図ります。
 - ・ICT 推進委員会を開催し、システムについての使用方法を取り決め、帳票類の確認を行ってきました。
 - ・全職員が介護記録システムを使用し、ご利用者の記録を行っています。
 - ・介護記録・看護記録の 2 重帳票を廃止。共通の介護記録システムを使用することで、情報の共有化を図りました。
- ④ 施設の透明性を図るため、ご家族またケアマネジャーに向けて懇談会を行います。
 - ・新型コロナの影響により、未実施です。
 - ・透明性を図るため、教職員の実習がコロナ禍で中止となり、少しでも高齢者施設を知って頂く取り組みとしてビデオ撮影で、教職員向けの研修資料を作成し提供しました。
- ⑤ 安全な食事の提供と内容の充実を図ります。
 - ・食事の検品作業、食器の確認により衛生管理を徹底しました。異物混入が 4 件と昨年度よりも減少致しました。都度再発防止に向けた作業の見直し・共有を

行いました。引き続き、危機管理の徹底により 0 件を目指します。

- ・ご利用者及び給食委員会を通じて食に関する意見を聴取し、楽しい・美味しいと感じてもらえる食事の提供を行いました。デイサービスでは担当職員と相談をし、楽しみがある食事の提供をしました。又、委託先の栄養士と季節を感じてもらえるような献立を相談し、組み込みました。コロナ禍でクッキングなど個別での行事は取り組みませんでした。
- ・コロナ禍もあり栄養講座は行えませんでした。今後は講座という形でなく、チラシや他の形で発信できる事を考えていきます。

(2) 短期入所生活介護

- ① 営業活動行い、新規利用者の獲得に努めます。また、毎月の事業所への訪問を行い、相談しやすい関係づくりを行い、選ばれる施設を目指します。
 - ・営業活動はほとんど行えていません。チラシを作成し都度配布していますが、利用のない事業所には配布出来ておりません。
- ② ご家族やケアマネジャー向けに食事会を行います。また、行事の際にご家族にも参加推進を行います。
 - ・新型コロナウイルスの影響にて食事会は行えておりません。
- ③ 機能訓練体制加算から個別機能訓練加算への変更を行います。
 - ・加算取得に向けて対応行いましたが、短期入所専従の理学療法士の配置が必要との事で取得出来ていません。今後の取得に向けて理学療法士と相談し、月に数名ずつ実施していています。

(3) 通所介護・認知症対応型通所介護・身体障害デイサービス

- ① ブルーオーシャン導入により業務削減できた時間を有効活用します。
 - ・月まとめの他事業所に対し、状況報告を作成するにあたり、システムの記録検索機能を使用する事で、転記し時間短縮できました。その時間を、行事準備や通所介護計画書作成に活かしました。
- ② OJT を通して個々の能力にあった目標を設定し、内外の研修を通してスキルアップを目指します。
 - ・毎月内部研修を輪番制で行い、介護技術等の復習や福祉用具を使用して介護負担軽減につなげました。外部もオンライン研修も参加する事が出来たので、次年度は今年度以上の外部研修参加できるように平均的に職員のスキルアップにつなげたい。
- ③ ADL 維持加算取得を目指します。6月・12月
 - ・加算取得に向けてバーセルインデックスの入力を1年かけて行ったが、算定要件が満たせず今回は見送りました。次年度の LIFE に向けて情報収集に努めます。

- ④ 低栄養の予防観点から6カ月ごとに栄養スクリーニングを行い、低栄養の早期発見に努めます。
 - ・体重測定を11月から本格的に開始。全利用者の測定を1カ月に1回習慣化する事が出来た。身長も測定した事で、次年度の口腔栄養スクリーニング加算取得に向けて取り組んでいきます。
- ⑤ ご家族には施設行事の参加を呼びかけます。
 - ・コロナ禍において参加の呼びかけは出来ませんでした。リモート参加も含めて次年度に活かしていきたいです。
- ⑥ 地域包括と連携し、地域密着型サービスの充実を図れるように地域行事に参加します。
 - ・地域包括主催の研修と地域の自治会が行っている集まりに参加することが出来ました。次年度も地域行事に参加できるように声掛けを行います。

(4) 訪問入浴

- ① 新規利用獲得の為、計画的に営業活動を行います。
 - ・居宅事務所に現在の空き情報を直接伝える事で、今まで利用のなかった事業所からも依頼を受けるようになりました。年間で19件の新規依頼に繋がりました。引き続き営業活動に力を入れていきます。
 - ・サ高住でのサービス実績がある事をチラシに記載し、依頼があった場合は直接現場を確認し援助を確実に出来る状況を把握して行きました。
 - ・年間で13件の無料体験サービスを実施しました。今後も依頼あれば受け入れをしていきます。
- ② ご利用者の状況に合わせて、柔軟にサービス提供を行います。
 - ・年間で12件の振替依頼を行いました。引き続き可能な限り行っていきます。

(5) 訪問介護

- ① ヘルパーの採用を促進します。
 - ・求人媒体や自施設前の求人ラック、地域に配布したチラシでの問い合わせはありませんでした。令和3年1月から、パート職員1名の勤務時間が延長することになり、常勤換算が4.1から4.9になりました。
- ② 新規利用者獲得に努めます。
 - ・毎月2名の目標は達成できませんでしたが、年間16名の新規利用者を獲得できました。16名のうち14名はみのわの里居宅介護支援事業所からの紹介であり、1名はみのわの里地域包括、1名は他事業所でした。
- ③ 要介護利用者、特に身体介護を増やします。
 - ・身体介護の割合30%の目標は達成できず、月平均すると17%でした。居宅支援事業所に対して、身体介護を中心に紹介していただけるようアプロー

チした結果、身体介護が増えました。自費サービスについては、令和3年1月1日より開始となりましたが、年度内の契約はありませんでした。共生型訪問介護の事業所指定に向けての研修等受講案内はありませんでした。

(6) 居宅介護支援事業所

- ① 定期的な会議や研修の参加、困難事例などの対応を行い専門職として質の高いケアマネジメントを提供します。
 - ・年17件の外部やリモート研修に参加し伝達研修を行いました。次年度もリモート研修に積極的に参加し専門性の強化を図ります。
- ② 地域の人材育成に取り組むと共に地域の身近な社会資源として貢献します。
 - ・他法人との合同研修を年2回行い事例検討と情報共有を行いました。次年度も引き続き行っていきます。
 - ・地域の障害施設とのかかわりや地域の講習会・介護教室など参加しました。次年度も地域とのかかわりを積極的に行います。
- ③ 業務効率を改善し残業時間ゼロを目指しフレックスタイムの推進に努めます。
 - ・事業所の帳票整理を行い環境を整えました。テレワークの開始やミーティング時の音声入力など業務の効率化を行いました。次年度もICT化に取り組み業務効率化を図ります。

(7) 地域包括支援センター

- ① 地域包括支援
 - ・高齢者支援等会議については、会議開催の会場の確保が出来なかったことと地域の方のコロナ禍での開催に対しての理解を頂くのが難しく開催出来ませんでした。今年度は両連合会長にご尽力いただき盾津東公民分館の使用を認めて頂きました。次年度は年度内のマップ作りの完成、配布を目指します。
 - ・多職種連携研修会は、集合会議の開催は出来なかったがメールや書面のやり取りで地域に向けての情報誌（通信）の作成を行いました。
総計1,000部以上の配布を行いました。次年度はZOOMの活用により会議の開催を予定。地域のニーズの拾い上げを行います。
 - ・認知症カフェについては会場の確保が出来ず開催できませんでした。次年度は各自治会の集会所や公民館にアウトリーチで2ヶ月に1回、開催を予定。小学生向け認サポはコロナの影響もあり開催できませんでした。認知症サポーター養成講座は自治会などからの要望があり行えました。次年度も積極的に開催を予定。認知症家族支援については、行えておらず、次年度の開催を目指します。
- ② 介護予防支援
 - ・次年度より予防教室を一新予定。ニーズの拾い上げから新たな教室の立ち上げと、自主グループ化を目指します。又リモート型予防教室の立ち上げを目指し

ます。

- ・積極的な働きかけが十分出来ておらず、新たな担い手の確保が出来ませんでした。今年度新たな予防教室の立ち上げや、リモート型の予防教室を開始し、構成メンバーの一新により新たな担い手の発掘につなげたいです。

(8) 事業全体で取り組むべき事項

① 各事業で継続的に業務改善に取り組みます。

- ・(特養) ICT 委員会でブルーオーシャンの現状と問題点について検討し、報告レベルの調整や項目の統一化により、スムーズに情報共有できるようになりました。
- ・(短期) 短期にもブルーオーシャンを導入し、スムーズに情報共有できるようになりました。又、荷物チェックの簡素化により入所時の時間短縮につながりました。
- ・(デイ) ブルーオーシャンの導入により、看護師の記録時間を削減し、ご利用者と関わる時間が増えました。又、介護職員も含めて昨年と比べると残業時間の削減につながりました。
- ・(居宅) リモート研修やテレワークなど、コロナ禍における業務内容の見直しを行いました。業務効率化のため、ミーティングで音声入力を活用しました。

② BCP に基づき、自主防災及び地域防災に取り組みます。

- ・BCP 会議を開催し災害発生時初動 30 分マニュアルの共有を図りました。
- ・災害発生時初動訓練を実施し、職員の動きや役割分担について確認しました。基本的な動きを確認しましたが、いざとなると混乱する可能性があるため、今後も定期的な訓練の実施が必要と考えます。又、非常口に大きな段差があり、螺旋階段の実用性にも問題があり、スロープの活用や扱い易い救護担架の導入が検討課題です。
- ・その他、避難訓練を 10 月、3 月に行いました。

③ 外国人留学生の支援に取り組みます。

- ・12 月より留学生の受入れを開始。日常会話は可能ですが、込み入った内容は翻訳機を使用。コミュニケーション、指導方法の統一化に配慮しながら支援に取り組みました。
- ・日本語検定に向けて介護業務以外に語学の学習機会をつくりました。
- ・管理統括部職員と連携し生活面や健康面のサポートを行いました。

【4】施設の課題

<施設運営の安定化>

拠点ベースで黒字になりましたが、訪問入浴と居宅介護支援事業所を除く事業において、目標稼働率に届きませんでした。そのため、目標予算に達せず、派遣職員を 2

名の活用したこともあり人件費率向上に至ります。また、新型コロナウイルス感染症対策費用を要したこと、4名の職員採用に紹介会社を使用した紹介料の影響も大きく経費率も向上しました。収支改善のために稼働率、利用数の向上を図るとともに人件費の適正化、事業費、事務費の抑制化により、収支バランスの安定化を図ります。次年度は、介護報酬改正がありますので、各事業での実態把握を行い、新たな加算の取得、既存加算の実働化を目指します。施設サービスでは、入所者の介護度の適正な見直し、入院率・空床率の低減化、在宅サービスでは、居宅・包括との連携強化と情報共有を図るとともに、効率的な営業活動に注力することで、施設運営の安定化を目指します。

新型コロナウイルス感染症において、いつ自施設に感染者が発生するか分からない状況が続きます。感染者が発生すると、ご利用者への支援が十分にできなくなること、収益にも大きな影響が出ますので、職員一同、ご利用者に安心して安全にサービスを提供できるように感染症予防対策に努めます。

<職場環境の適正化と残業時間の短縮>

適切な労務管理を行うことで、就業開始時間と終業時間を適切に管理することができ、仕事に対するメリハリを持つことが定着できています。それにより、職員の健康維持し、適正な賃金の支払い等を行うことで職場環境の適正化が進んでいます。しかし、勤務体制が十分に取れない、業務が終わらない等により残業時間の短縮化が実現できていません。業務効率の改善を行うため、実現できない課題を検討して生産性向上に向けて取り組むことが課題と考えます。

<業務効率の改善（パソコン等の機器の得手不得手の解消）>

新型コロナウイルス感染症状況により、ICT化が予想以上に進みました。介護記録システムの活用においては、特養と同じく通所介護事業でも使用され、業務改善（情報共有と二重記録の削減）に繋がりました。課題として、職員のパソコン等機器の活用の得手不得手での差も大きくありますので、職員全員がスムーズに使用できるようになるように、ICT委員会を中心に職員間でのOJTを行っていきます。

<BCPに基づく活動>

今年度は、BCP会議を開催し、訓練形式での初動期対応の研修を行いました。新型コロナウイルス感染症の状況下であったため、地域の防災活動について自治会等と協議を行えませんでした。地域防災取り組みにおいて課題があります。新型コロナウイルス感染症の中で、地域と共同しての取り組みについてどのように進められるのかを検討する必要があります。

【5】付表

(1) 年間行事実施報告書：特別養護老人ホームみのわの里

月	行事内容		広報委員会 (4月・7月・10月・1月開催)	
4	各階おやつ行事 各フロアにてドーナツ行事	委員会等	防災営繕委員会 (3カ月に1回開催)	
			給食委員会 (毎月実施)	
5	春のドライブ 未実施		施設介護計画委員会	特養事故防止対策委員会 (毎月開催)
			入所選考委員会 (毎月開催)	特養感染症予防対策委員会 (毎月開催)
6	あおぞら保育園交流会 未実施		環境美化委員会 (隔月開催)	身体拘束防止委員会 (4月・7月・10月・1月開催)
			特養研修推進委員会 未開催	安全衛生委員会 (毎月開催)
7	スイカ祭り 各フロアにてスイカを提供		痰の吸引等安全対策委員会 1回/月開催	行事クラブ推進委員会 (毎月開催)
	北宮小学校 七夕訪問 未実施			特養看取り介護委員会 (毎月開催)
	うなぎ昼食会 各フロアにてスイカを提供			I C T推進委員会 (隔月で開催)
8	盆踊り大会 夕涼み会に変更し各フロアで たこ焼きとアイスクリームを 提供する			
9	敬老祝賀会 各フロアにて昼食時に海鮮ちら し、おやつに和菓子を提供する			
	愛保育園児訪問 未実施			
10	秋祭りだんじり見物 未実施			
	ハロウィーン行事 未実施			
	みのわの里 福祉祭 未実施			

1 1	秋のドライブ 未実施	クラブ活動等	クッキングクラブ 未実施
	秋の味覚祭り		折紙クラブ (1月と8月を除く毎月)
	北宮小学校 文化交流 未実施		習字クラブ 感染症予防のため中止
1 2	クリスマス会 各フロアにて実施		カラオケ 感染症予防のため中止
	年末もちつき見学 未実施		法話会 感染症予防のため中止
1	元旦祭 各フロアにて実施		いきいき歌体操 感染症予防のため中止
2	節分祭 各フロアにて実施		
	たこ焼き行事		
3	憩いのお茶会 各フロアにて実施		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会 (月1回実施) ・ホーム喫茶 (毎月) ・希望食 (不定期) ・外食・お寿司行事 (不定期) ・喫茶食 (定期) 		

年間行事実施報告：みのわの里デイサービスセンター

月	行事内容
4	春を感じる花見弁当・近隣公園に花見
5	旬菜弁当・名札作り・タオルでクマ作り
6	梅雨に負けるなアジサイ弁当
7	ポストカード作り
8	暑さに負けるな暑気払い弁当
9	デイサービス敬老祝賀会
10	紅葉弁当・秋祭り
11	みのわ膳・クリスマスツリー作り

1 2	クリスマスオードブル・クリスマス会
1	寿司御膳・みのわ神社にて初詣
2	ほっこり鍋御膳・雛かご作り
3	あさりとタケノコの釜めし

(2) 年間研修実施報告：特別養護老人ホームみのわの里

月	研修内容 (テーマ)
4	新卒研修 (法人全体) 口腔ケア講習 (外部研修)
5	看取りケアについて (内部研修) 感染症に関する研修 (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修)
6	介護保険施設集団指導 (書面と WEB) 人権研修 (虐待) (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修)
7	口腔ケア講習 (外部研修)
8	事故予防研修 (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修) 褥瘡予防研修 (外部研修)
9	口腔ケア講習 (外部研修)
1 0	口腔ケア講習 (外部研修)
1 1	口腔ケア講習 (外部研修) ターミナルケア研修 (内部研修) 感染症に関する研修 (内部研修)
1 2	高齢者虐待研修研 (身体拘束) (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修)
1	褥瘡予防研修 (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修) 腰痛予防研修 (内部研修)
2	災害研修 (内部研修) 腰痛予防研修 (内部研修) 事故予防研修 (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修)
3	事故予防研修 (内部研修) 人権研修 (外部研修) 腰痛予防研修 (内部研修) 口腔ケア講習 (外部研修)

年間研修実施報告：みのわの里デイサービスセンター

月	研修内容（テーマ）
4	デイサービスにおける接遇マナー
5	送迎時の事故再発予防に関する研修
6	感染症及び食中毒の発生予防及びまん延の防止に関する研修
7	排泄介助に関する研修
8	移乗介助に関する研修
9	インフルエンザ 身体拘束・虐待
10	ノロウイルス研修
11	高齢者虐待に関して パワーハラスメント 認知症及び認知症ケアに関する研修
12	緊急時対応について 在宅合同勉強会 ZOOMを主催できるようになるための勉強会
1	腰痛予防勉強会
2	入浴に関する研修
3	利用者のプライバシーの保護の取り組み 褥瘡予防・車椅子移乗・ポジショニンググローブの活用法共有 神経外科医から見た今日の認知症診療～予防からBPSD治療まで 福祉介護人材対策プロジェクト研修会（ZOOM） 人権研修「介護・福祉職の人権擁護とケア」

年間研修実施報告：みのわの里訪問入浴

月	研修内容（テーマ）
4	介護サービス従事者の基本姿勢
5	在宅で行われる医療処置の理解
6	感染症の予防及びまん延の防止について
7	在宅介護の特徴と基本的対応についての理解
8	入浴における周辺介護技術
9	訪問入浴介護サービスの役割と意義
10	入浴のリスクと効果
11	障害形態別入浴介護技術

1 2	認知症と認知症ケアの理解
1	訪問入浴サービスにおける感染症の予防
2	苦情・相談への心構えと対応
3	入浴が身体と心理に与える影響

年間研修実施報告：みのわの里ヘルパーステーション

月	研修内容（テーマ）
4	ホームヘルパーの基本接遇マナー
5	事例から考える曖昧ゾーン
6	熱中症予防を救急の現場から学ぼう
7	事故発生時緊急時対応
8	認知症及び認知症ケア
9	高齢者の低栄養について
1 0	プライバシー保護
1 1	コミュニケーション技術
1 2	法令遵守研修
1	訪問介護における自立支援
2	訪問介護職のためのアンガーマネジメント
3	働きやすい職場づくり

年間研修実施報告：みのわの里居宅介護支援事業所

月	研修内容（テーマ）
4	事例検討会
5	事例検討会
6	訪問診療についての意見交換会（恵和総合クリニック）
7	地域他法人合同事例検討会
8	—
9	事例検討会
1 0	事例検討会 ケアマネジメント研修
1 1	介護教室 介護と医療の事例検討会（オンライングループワーク） 地域他法人合同事例検討会
1 2	中地域委託先介護支援専門員研修 人権研修

1	事例検討会
2	東大阪市介護支援専門員現任者向け研修
3	認知症研修 居宅事業所部会の研修 防災研修
内部研修（随時）	地域福祉研修・災害研修・人権研修・スーパーバイザー研修 対人援助技術研修・リスクマネジメント研修

年間研修実施報告：地域包括支援センターみのわの里

月	研修内容（テーマ）
4	認知症ケア研修
5	生活支援コーディネーター現任研修
6	高齢者虐待対応現任研修
7	地域包括職種別研修
8	認知症初期集中支援チーム研修
9	地域共生社会研修
10	ターミナルケア研修
11	大阪府社会貢献事業研修
12	認定調査研修
1	支援困難ケース事例検討会
2	介護予防ケアマネジメント研修
3	在宅医療推進研修

(3) 年間防災訓練実施報告：特別養護老人ホームみのわの里

月	種別	内容
10	日中訓練	職員とご入居者を対象とした通報、消火、避難訓練
3	夜間訓練	夜間並びに日祝日を想定しての夜勤者と宿直者による職員への通報、消火、避難訓練

(4) 地域包括支援センター実績集計

地域包括支援センター事業実績報告書																			
令和2年度年間分		支援センター名					みのわの里					今年度新規相談実人員							
相談件数		相談者と相談方法					身体状況												
実態把握加算対象	1362	本人	家族	OM	その他	計	不明	未申請	申請中	自立	要支援		要介護計						
加算対象外件数	7	164	203	43	959	1369					1	2	825						
相談件数合計	1369											233		114	5	387	438	825	
		訪問	来所	電話	計		総合事業					要介護度							
		1308	24	37	1369		1	2	3	4	5	要介護計							
認知症相談件数	151	家族形態					相談内容及び申請代行					43	43	11	2	2	60		
権利擁護援助 性数	32	同居 独居 計					介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係	計							
うち虐待関連件数	21	835	534	1369		相談内容	1365	1362	10	35	68								
							申請代行	137											
							介護予防	基本チェック	その他	計									
							相談内容	1	6	27	2872								
							申請代行	137											
サービスの状況と利用希望																			
		ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ	単位地域ケア会議								
現利用											介護支援 専門員	サービス 事業者	医師						
利用希望	57	131	47	3	4	121	3	34	12		医療機関 職員	自治会	民生委員						
		配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中	計	校区福祉委員	関係機関	知人					
現利用																			
利用希望	2	50	17	146				2		629	単位地域ケア 会議加算対象								
地域ケア支援/生活支援コーディネーター 内訳																			
相談方法						個別加算対象	17					認知症支援							
訪問	来所	電話	FAX	計		個別加算対象外						認知症カ フェ(主 権)	認知症カ フェ(その他 (他カフェ))	認知症本人 活動支援	認知症あん しん所かけ 相談	計			
9	1	9		19		地域ケア支援個別計	17					4			4				
				13		集団加算対象	24					高齢者生活支援等会議							
相談者	虐待関連相談件数					地域ケア支援加算合計	41					地域活動団体							
						生活支援集団加算対象	24					福祉・介護職							
		介護支援 専門員	サービス 事業者	主治医	医療機 関職員	関係機関	知人	NPO法人	自治会					校区福祉委員	民生委員	老人クラ ブ	居宅介護 支援	訪問介護	通所介護
地域ケア(個別)	3				1	11						医療機関							
地域ケア(集団)	4	20											医師	歯科医師	薬剤師	その他	計		
生活支援(集団)		3											高齢者生活支援等会 議加算対象						
		ボランティア	自治会	校区福 祉委員	民生委 員	老人クラ ブ	その他	計											
地域ケア(個別)						1		15											
地域ケア(集団)						1		25											
生活支援(集団)						26	1	30											
実施した支援・内容																			
地域ケア支援(個別・集団)																			
ケアマネジ メント支援	ソーシャル ワーク 援助	情報提 供	連携支 援	その他	計	生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援) 担い手支援/社会資源マップ作成					第1層への課題提示								
個別		1	2	16	19	担い手種別	マップ計					第1層への課題 提示加算対象							
集団	2	4	1	14	21	助け合い	つどい	計											
生活支援コーディネーター活動(集団)																			
生活支援の 担い手の活 動状況確認	生活支援 の担い手 養成支援	総合事 業の制 度説明 等	取組の 事例発 表	計	立ち上げ担い手支援					担い手支援									
集団	24			24															

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和 2年度年間分

支援センター名

みのわの里

地域介護予防活動支援

相談・支援件数		グループ種別					
総件数		老人 クラブ	校区福祉 委員会	自治会	老人C ボランティア	その他	計
	うちグループ 活動支援	6				3	9
9	9						
相談方法							
		訪問	来所	電話	その他	計	
		9				9	

教室実施状況

開催件数	
介護予防教室 開催件数	18
家族介護教室開催 件数	1
リモート型教室 立ち上げ件数	

【1】施設方針

- ① 各事業の収益や費用状況を分析し、既存サービスの経営と業務効率の改善に取り組むために、毎月、経営・業績・運営の会議を開催し、事業計画の進捗状況や見込み試算等のデーターを活用や、予算達成率と稼働率の把握と稼働率対策の取り組みを行いました。
- ② 地域の方々が安心して暮らせる支援としての地域公益活動を推進しましたが、事業計画【5】にあげた項目のうち、地域清掃のみできうる範囲で実践いたしました。
- ③ 修繕3か年計画にて、全館室内クロス張り替えと事務所床の張り替え工事を行いました。
- ④ 社会福祉法人に求められる職員像として「人間力」を高めるために職場研修の体系の構築と、OJT、Off-JT、SDS実践を計画しましたが、年度前半は研修の中止が多く、後半になりリモート研修での参加ができました。来年度の目標として新しい生活様式を取り入れ、WEB研修を中心に研修の受講と来年度の職場研修担当者の運営を推進いたします。
- ⑤ 産業医の先生に助言をいただきながら職員が安心して就労できるために休憩所を新たに設置するなど環境を整えました。また引き続き高齢者雇用と障がい者雇用、子育て世代の職員が働きやすい環境の維持ができるよう推進いたします。

【2】数値目標と実績

事業名		収入達成率	稼働率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	100%		63.5%	26.9%	3.8%	5.8%
	実績	89%		77.1%	27.7%	3.9%	△8.29
特養	目標	100%	95.5%	55.7%	33.0%	5.6%	5.7%
	実績	90.9%	91.5%	67.4%	32.9%	5.4%	△5.8%
短期入所	目標	100%	84%	56.4%	23.8%	1.3%	18.5%
	実績	81%	72%	72.2%	28.6%	1.7%	△2.5%
通所	目標	100%	86%	61.3%	18.6%	2.6%	17.5%
	実績	83.8%	84.7%	72.7%	23.1%	2.9%	1.8%
認知症対応型通所	目標	100%	60%	77.4%	13.5%	0.08%	9.1%
	実績	63.3%	47.6%	133%	22.5%	0.1%	△55.6%

介護							
グループホーム	目標	100%	98%	75.3%	26.6%	3.2%	△5.1%
	実績	100.8%	98.7%	82%	26.9%	3.2%	△12.1%
訪問介護	目標	100%	4650 件	107.6%	8.2%	1.0%	△16.8%
			1 日 3.3				
	実績	66%	2920 件	175.5%	11.6%	1.4%	△88.7%
			1 日 2.2 件				
居宅	目標	100%	1642 人	86.7%	8.9%	1.7%	2.7%
			1 人 38 件				
	実績	105.7%	1822 人	92.9%	7.1%	1.6%	△1.5%
			1 人 36.8				
介護予防	目標	100%	3000 件	34.4%	45.9%	1.3%	18.4%
			1 人 43 件				
	実績	105.2%	3090 件	34%	43.8%	2.5%	19.8%
			42.9 件				

※担当件数は年間延べ利用者数と職員常勤1の1か月あたりの担当件数

地域包括	目標	100%	15 件	107.7%	15.9%	0.5%	24.1%
	実績	101.6%	11.4 件	115.8%	17%	0.7%	△33.5%

介護予防支援業務	委託なし					
	委託あり					
	1522		1602			3124

※開催件数は、介護予防教室・家族介護教室・グループ活動支援・地域ケア支援集団・認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・生活支援コーディネーター活動（集団）の1か月あたりの合計件数

【3】拠点各事業の計画

(1) 特別養護老人ホーム

- ① 上半期は職員体制が整わず、業務を通じての教育以外の時間を作ることが困難となり、下半期は看護職員の退職・休職もあり、円滑に連携できませんでした。入院者は昨年から大きく増えて、延べ 2085 名となりましたが 8 月から毎月定例で特養ミーティングを行い入院と入所について話し合いました。
- ② 入所待機者の整理は随時行い、実質的に入所可能な人数を把握して取り組むことができました。がしかし、当施設での新型コロナウイルス感染者が出たこと、またそれ以外の時期もコロナ禍で入所（面談などの部分）と退院（病院内でのコロナ感染状況）に大きく影響が出ました。入所申し込み者を期入所の利用へと連携をとることができました。

- ③ 継続して職員確保に努め、可能な限りフロア対応などで行事等催しをさせていただき季節感を味わっていただきました。
- ④ 高齢者人権、虐待、身体拘束に対しての内部研修を年間2回実施しました。外部研修に関しては、新型コロナウイルス感染症の関係で中止になりましたがWeb研修で受講することが出来ました。身体拘束廃止のための会議は月に1度開催し、年度を通して身体拘束ゼロでした。

(2) 短期入所生活介護

- ① 急な利用依頼や延長利用の依頼に対して、特養入院ベッドを使用しできる限り受け入れを行いました。営業活動については、コロナ禍で継続しての事業所訪問や新規事業所へいくことが出来ず、今後は直接訪問する以外の営業方法も検討していきます。
- ② 入所時の送迎時等に、ご家族に直接様子を聞かせてもらうことで、利用中のサービス提供や個別ケアの向上に取り組むように努めました。また、送迎時にご家族と顔を合わせるにより相談しやすい関係性の構築に努めました
- ③ 特養事業との連携を図り、短期入所利用から9名特養入所へつなげることが出来ました。また、特養への入所相談へこられた2名をまず短期入所の利用をしていただくよう調整を行いました。

(3) 通所介護

- ① 機能訓練指導員が利用者宅に訪問して、利用者家族の目標に合わせた個別機能訓練計画を作成実施し、3ヶ月評価も利用者宅に訪問して、見直しを行い利用者の心身機能向上に役立つことが出来ました。来年度も他事業所との連携により生活機能向上連携加算取得するとともに、利用者のADL維持向上に努めます。
- ② 研修には毎月のペースで参加できており、他の職員に伝達する事で、職員のスキルアップにもつながる事ができた。令和2年に入り感染症予防の為、研修は参加できず、来年度は引き続き、計画的に研修参加行います。
- ③ 毎月、居宅支援事業者や地域包括支援センターに営業や実績報告に出向き、要介護3以上の利用者受け入れ行ってきましたが、全体の20～25%と中重度加算取得行えませんでした。来年度も取得に向けて営業に出向きます。

(4) 認知症対応型通所介護

- ① 令和2年度はコロナ対策への取り組みを最優先する事となり、事業計画の課題を進められない状況が続きました。後半はコロナ過でも行える地域交流を模索、布市の特色を活かし、グループホームとの連携を軸に合同の行事や取り組みを開始しています。またこれまでは6カ月に1回だった運営推進会議を基本2ヶ月に1回の開催としました。その他ブログでの情報発信にも力を入れています。
- ② 積極的に受け入れは行っていますが取得できていないのが現状です。今後も介護支援事業所にPRを行うと共に、実際に受け入れた場合の対応についても具体的に検討し、情報発信を行います。

- ③ 機能訓練の体験、送迎時や担当者会議にて本人・家族様、ケアマネへ提案を行っていますが、現在の取得率は40%となっています。今後も新規利用時に体験や提案、内容の説明を積極的に行い、取得率の向上を目指します。

(5) 訪問介護

- ① サービス提供責任者が待機出来る体制が出来、利用者様・各関係機関との連絡調整と定期的にOJT・OFF-JTを行いながら人材育成に努めました。月末以外は、時間内で事務処理が出来る勤務体制に整えました。また、定期的に訪問しご満足の評価・意見・要望等にお答えできるように取り組みました。
- ② 居宅介護支援事業所に営業活動を行いましたが、身体介護の人数を増やすことができませんでした。要介護・支援利用者数は6.7対3.3となり達成できませんでした。
- ③ 令和3年1月から介護保険適用外サービスが開始し利用者2名獲得できました。

(6) 居宅介護支援事業所

- ① 上半期の職員の異動や下半期の職員の増員によって、最終的に常勤換算数5人となりましたが、異動や増員に伴い引継ぎに要する時間が増えたことと、8月までの一人当たりの担当件数が平均40件であったことから、新規依頼を受けることが難しい時期もありました。相談に迅速に対応できるよう、年間を通して毎週の事業所内会議で各担当件数を共有し、地域包括支援センターとも情報共有を図り、できる限り依頼に対応するよう努めました。結果、1ヶ月平均3.4件の新規依頼を受け、下半期に増員後は、積極的に依頼を受けることができます。
- ② 担当利用者様が入院した場合、できる限り早急に医療機関への連絡と情報提供を行い、退院後の在宅生活がスムーズに送れるように、退院前も医療機関との連携を図り、情報提供の依頼やできる限りカンファレンスに参加するよう努めました。年間を通して新型コロナウイルスによる制限があり、カンファレンスに参加できないことが多かったため、電話や書面での情報共有に努めました。
- ③ 毎週会議を開催し、各ケアマネの困難事例への対応や支援方法を一緒に検討することで、一人で悩まずに多方面からの視点で支援をすることができました。外部研修については、新型コロナウイルスの影響で研修があまり開催されず、書面のみでの開催や、下半期にはwebを使用した研修への参加し、参加した研修の内容については必ず事業所内会議で共有しました。
- ④ 新型コロナウイルスの影響で上半期は検討会が開催できませんでした。下半期後期に、web開催にて他法人と合同で、コロナ禍での対応や感染症についての研修会を開催し、情報共有できました。
- ⑤ フレックスタイムを運用するよう各自スケジュール管理や調整を行いました。職員の異動や増員による担当利用者の引継ぎのため、訪問時間に通常より時間

を要し、一時的に一人当たりの担当件数が多くなるなど、1ヶ月の中で必要な訪問や書類作成等が効率よく進まないこともありました。下半期後期には担当件数も安定し、業務の効率化についても引き続き検討を重ね、効率よく進めるために書類の整理を定期的に行いました。

(7) 地域包括支援センター

① 地域包括支援

- ・地域の高齢者の生活における課題を抽出し、支援の取り組みを進めていく高齢者生活支援等会議において作成した社会資源マップを、石切中学校区内の高齢者世帯を中心に配布しました。
- ・第2層協議体会議について、今年度は高齢者生活支援等会議を3回開催し、第2層生活支援コーディネーターとして地域の課題抽出に取り組みました。コロナ禍で会議の回数が少なく、来年度も、福祉・介護専門職の方々の任期継続が決定しており、今までやってきた会議での課題を解決できるよう、引き続き取り組んでまいります。
- ・認知症についての理解を促進するため、認知症サポーター養成講座は1回開催しました。きつずサポーター養成講座はコロナ禍で小学校での開催が難しく、開催できませんでした。来年度以降の感染状況を鑑み、実施可能な時期に開催を検討いたします。
- ・居宅介護支援事業所や警察から、虐待や家族問題の相談件数が増え、気になる高齢者等の情報を頂き、速やかに支援しました。
- ・多職種連携研修会においては、コロナ禍のため、開催中止となり、居宅介護支援事業所や介護事業所へコロナ感染防止対策でのアンケートを実施し、多職種間の情報共有を図りました。
- ・地域の会館をお借りし、介護予防教室・家族介護教室など開催して介護予防等に努め、また、地域のサロンやグループ活動の後方支援も行いました。

② 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援

今年度も事業計画通り、ほぼ実施できました。目標の数値も超えることができ、引き続き介護予防サービスや介護予防・生活支援サービスなど自立支援に向けて必要なサービス調整を行ってまいります。

(8) グループホーム真寿庵

- ① 地域の中で暮らしているという事を職員はしっかりと理解し、入居者様が地域に出向いて活動することがほとんどできませんでしたが入居者様の要望を確認しご家族の思いや利用者へ寄り添いながらできる限りの支援を行いました。コロナ禍でも行える地域資源を活かした交流の機会について様々な視点から検討し、地域包括支援センターなどの活動に出席の声もかけていただいております。関係性は保ちました。
- ② 入居者様により良い生活をおくっていただく為、職員は専門職としてしっか

りと知識や技能の習得に努めることを計画しましたが、コロナ禍にともなって開催される研修の開催が行われなかった事などもあり、計画的におこなえませんでした。その中でも開催のできたものについてはホーム内でその内容を共有し、ホーム内で出来る研修は動画サイト YOUTUBE 等にアップされている内容で研修の開催をしました。

ホーム内で職員個々に振り返りシートを活用した認知症介護について学ぶ機会を設け、入居者様の安心した暮らしにつながるよう適切なサービス提供に努めました。

- ③ 職員の働きやすさや働きがいについて、理念や方針、事業の計画、規則などの把握とそれについて理解することから職員には機会を設け周知してきましたが、十分な理解に至りませんでした。業務の働きやすさの確認と職員への OJT 研修を実施し、それぞれ職員の目標を明確にしながら勤めることで働きやすさにつなげていくことが出来ました。

また訪問歯科による口腔ケアの実施においては専門職からの入居者様の口腔の健康について維持ができることへの助言をいただき、入居者様のサービスの質の向上に努めることや職員への利用者支援に対する安心感を得ることができました。

【4】単年度高額支出（支払い額）

- ① 事務所フローリング、特養 クロス張り替え
令和2年10月 (21,780,000円)
- ② パソコン購入 特養3台、短期1台、居宅2台、デイ1台、ヘルパー1台、GH
1台 居宅2台 合計11台
令和2年8月 (1,087,390円)
- ③ グループホーム布市真寿庵 ナースコール入れ替え
(1,540,000円)

【5】地域の公益的な取組

- ① かわふくん c a f e（認知症カフェ）
⇒コロナ感染症のため中止
- ② 布市町地域清掃
⇒12月 1月 2月 3月 第3土曜日に実施いたしました。
- ③ 会議室貸出
⇒コロナ感染症拡大予防のため中止
- ④ 東石切公園の花壇植え替え
⇒6月22日 23日
- ⑤ 布市福寿苑ファミリー祭り
⇒中止

【6】別表

年間防災訓練報告書

月	内容
4	新卒職員消火器の取り扱いについて →コロナ拡大の対策のため中止
5	特養3階利用者を対象とした防災訓練 →コロナ拡大防止の対策のため中止
6	災害訓練（HUG）の実施 →コロナ拡大防止の対策のため中止
7	特養4階利用者を対象とした防災訓練
8	職員、デイサービス利用者を対象にした消火訓練
9	夜間・日祝日を想定した職員への緊急連絡訓練 →日程調整できず中止（延期）
10	夜間・日祝日を想定した職員への緊急連絡訓練
11	夜間、特養・GH利用者様を対象とした火災発生時の通報・避難訓練（総合訓練）→日程調整できず中止（延期）
12	特養5階利用者様を対象とした防災訓練
1	夜間、特養・GH利用者様を対象とした火災発生時の通報・避難訓練（総合訓練）→コロナ拡大防止の対策のため中止
2	夜間、特養・GH利用者様を対象とした火災発生時の通報・避難訓練（総合訓練）→コロナ拡大防止の対策のため中止
3	夜間、特養・GH利用者様を対象とした火災発生時の通報・避難訓練（総合訓練）→コロナ拡大防止の対策のため中止
3	地震災害のDVD鑑賞

年間行事報告（特養）

月	行事開催表	委員会活動
4	・日新高校桜祭り（中止）	・広報委員会（月1回） ・給食委員会（月1回）
5	・母の日（中止） ・春の外出（中止） ・DVD鑑賞会（中止）	・環境美化委員会（2ヵ月に1回） ・防災営繕委員会（月1回） ・車輛管理委員会（2ヶ月に1回）
6	・父の日（中止） ・春の外出（中止）	・感染予防委員会（2ヶ月に1回） ・褥瘡委員会（2ヶ月に1回）
7	・花火大会（中止）	・苦情対策委員会（月1回）
8	・夏祭り（8月5日、8月12日）	・事故対策委員会（月1回） ・車椅子管理委員会（月1回）
9	・敬老祝賀会（9月19日）	・入所判定委員会（月1回） ・衛生委員会（月1回）
10	・秋の外出（中止） ・デザートバイキング （10月7日、14日、21日）	・身体拘束廃止委員会（月1回） ・社会貢献推進委員会（月1回）
11	・ファミリー祭り（中止）	
12	・ゆず湯（12月14日、12月15日） ・クリスマス会（12月26日）	クラブ活動等
1	・元旦祝賀会（1月1日） ・初詣（中止）	・家庭科クラブ（週1回） ・ヨガクラブ（月1回） ・化粧クラブ（毎月）
2	・節分（2月3日）	・誕生日会（毎月） ・訪問販売（毎月）
3	・ひなまつり（3月3日）	・ホーム喫茶（日曜以外） ・ショートレクリエーション （毎月）
※誕生会食は毎月提供しています。		

*行事の中止はコロナ感染拡大防止のため。また、各種委員会、クラブ活動等においても同様の理由で中止になっている期間があります。

年間行事報告（通所介護）

月	年間行事	定期行事
4	手作りおやつ (ホットケーキ)	音楽療法・散髪 (月3回)
5	一銭焼き	体操&音楽療法・散髪 (月3回) 映画鑑賞
6	ビンゴ大会	音楽療法・散髪 (月3回) 映画鑑賞
7	手作りおやつ (パフェ)	体操&音楽療法・散髪 (月3回) 映画鑑賞
8	手作りおやつ (和菓子バイキング)	音楽療法・散髪 (月3回) 映画鑑賞
9	敬老会 保育園と交流	体操&音楽療法・散髪 (月3回) 映画鑑賞
10	手作りおやつ (フルーツポンチ)	音楽療法・散髪 (月3回) 映画鑑賞
11	焼き芋	体操&音楽療法・散髪 (月3回)
12	クリスマス会	音楽療法・散髪 (月3回) 琴演奏
1	温泉ぜんざい	音楽療法・散髪 (月3回)
2	たこ焼き	音楽療法・散髪 (月3回) パン訪問販売・ハーモニカ演奏
3	甘酒	パン訪問販売
毎月の 行事	誕生日会・季節食・お楽しみ会	

年間行事報告 (グループホーム)

月	内容
4	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ
5	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ
6	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・音楽会
7	お誕生日会 図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・流しそうめん

8	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・誕生日会・GH夏祭り・美容
9	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・敬老会・美容
10	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・焼き芋・美容・個別支援・ワックス
11	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・美容・個別支援
12	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・クリスマス会・誕生日会・美容
1	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・誕生日会・初詣(布市幸福神社)
2	図工クラブ・おやつクラブ・脳トレクラブ・音楽クラブ・節分祭・誕生日会
3	図工クラブ・おやつクラブ・ひな祭り・誕生日会・美容・ヨガ教室・地域清掃・お花見ドライブ

年間研修報告（特養）

月	研修内容（テーマ）
4	令和2年度 新卒採用研修（OFF-JT）
5	なし
6	なし
7	新人職員虐待・身体拘束研修（OFF-JT）
8	ベッド上の安楽な姿勢（OFF-JT）
9	なし
10	介護福祉士実務者研修（OFF-JT）
	中堅職員虐待・身体拘束研修（OFF-JT）
11	介護福祉士実務者研修（OFF-JT）
12	養護者による高齢者虐待対応について
1	感染対策一（OFF-JT）
2	オンライン栄養士研修会（OFF-JT）
	講演「栄養管理報告書を活用した PDCAサイクルに基づく給食管理」（OFF-JT）

	令和2年度人権養護研修会「DVから子供を守るために」(OFF-JT)
3	講演「栄養管理報告書を活用した PDCAサイクルに基づく給食管理」(OFF-JT)
	東大阪市高齢者虐待研修(OFF-JT)
	トップマネジメントセミナー(OFF-JT)
	栄養関連 介護報酬改定(OFF-JT)
	褥瘡対策・ポジショニング研修(OFF-JT)
	介助時の注意点を話し合うグループワーク(OFF-JT)
	人権研修「介護・福祉職の人権擁護とケア」(OFF-JT)

年間研修報告(通所介護)

月	研修内容(テーマ)
4	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
5	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	東大阪市指定居宅サービス事業者集団指導(SDS)
	認知症ケア研修会(OFF-JT)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
6	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
	認知症の方に対するリハと予防の為の暮らしの工夫(OFF-JT)
	平成29年度中途採用研修(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
	介護現場におけるリスクマネジメント(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
7	認知症の人から私たちのケアについて学ぼう(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	介護支援専門員更新研修実務研修(SDS)
	大阪府認知症介護実践研修(OFF-JT)
	安全運転管理者講習会(SDS)
	平成30年度中途採用職員研修(OFF-JT)
	通所介護・通所リハビリテーション事業者部会

8	みのわの里デイサービス研修 (OFF-JT)
	介護支援専門員実務研修 (SDS)
	大阪府認知症介護実践研修 (OFF-JT)
	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員実務研修 (SDS)
9	介護支援専門員実務研修 (SDS)
10	高齢者施設結核基礎知識講習会 (OFF-JT)
11	東大阪市介護保険事業者連絡協議会交流会 (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
12	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
1	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
2	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)
3	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 I (SDS)
	介護支援専門員更新研修 II (SDS)

年間研修報告 (訪問介護)

月	研修内容 (テーマ)	
4	接遇・マナー研修	OFF-JT
5	食中毒予防研修	OFF-JT
6	熱中症の対策・対応について	OFF-JT
7	訪問時における感染症や緊急時の対応について	OFF-JT
8	ヒヤリハット・リスクマネジメント	OFF-JT
9	認知症及び認知症ケア研修	OFF-JT
10	プライバシー保護・個人情報研修	OFF-JT

	依存症相談対応研修	OFF-JT
11	感染症予防研修	OFF-JT
12	コミュニケーション技法	OFF-JT
	高齢者虐待対応研修	OFF-JT
1	高齢者虐待対応について	OFF-JT
2	メンタルヘルス研修	OFF-JT
3	R3・4月介護保険改定について	OFF-JT
	人権研修「介護・福祉職の人権擁護とケア」	OFF-JT

年間研修報告（グループホーム）

月	研修内容（テーマ）
10	管理者研修（OFF-JT）
3	高齢者虐待防止（OFF-JT）
	管理者研修（OFF-JT）

年間研修報告（居宅介護支援事業所）

月	研修内容（テーマ）
4	法人間 事例検討研修会（SDS） 【中止】
	坂道発信の会（SDS） 【中止】
5	大阪府主任介護支援専門員研修 【延期】
6	大阪府主任介護支援専門員研修 【延期】
7	法人間 事例検討研修会（SDS） 【中止】
	坂道発信の会（SDS） 【中止】
	東大阪市と介護支援専門員の意見交換会 【書面開催】
8	大阪府主任介護支援専門員研修 R2.8月～R3.1月（SDS）
	大阪府介護支援専門員更新研修Ⅰ R2.8月～R3.3月（SDS）
	令和2年第1回 東地域 地域福祉ネットワーク推進会議（SDS）
9	法人間 事例検討研修会（SDS） 【中止】
10	東大阪地域リハビリ勉強会「パーキンソン症例を通して」 【中止】
11	大阪府介護支援専門員更新研修Ⅱ R2.11月～R3.3月（SDS）
12	擁護者による高齢者虐待について（OFF-JT）
	成年後見制度と日常生活自立支援事業との関係を学ぶ 【中止】
1	入退院にかかわる専門職との交流会（OFF-JT）

	感染拡大させない介護・福祉施設（OFF-JT）
2	令和2年度東大阪市介護支援専門員居宅介護支援基本研修（OFF-JT） 【書面開催】
	令和2年度東大阪市介護支援専門員居宅介護支援応用研修（OFF-JT） 【書面開催】
	令和2年度 近畿老人福祉施設協議会 職員研修（OFF-JT）
	2021年度 介護報酬改定ポイント（OFF-JT）
	坂道発信の会（SDS）
3	2021年4月の介護保険制度改正について（OFF-JT）
	人権研修「介護・福祉職の人権擁護とケア」（OFF-JT）
	令和2年度第2回地域福祉ネットワーク推進会議（SDS）
	東大阪市と介護支援専門員の意見交換会 【書面開催】

年間研修報告（地域包括センター）

月	研修内容（テーマ）
8	大阪府市町村高齢者虐待対応ステップアップ研修（OFF-JT） 地域包括支援センター担当職員研修会（OFF-JT） 東地域 地域福祉ネットワーク推進会議（SDS） 大阪府介護支援専門員主任研修1日目（OFF-JT） 大阪府介護支援専門員主任研修2日目（OFF-JT） 大阪府介護支援専門員主任研修3日目（OFF-JT）
9	依存症相談対応基礎研修（OFF-JT） 地域包括支援センター担当職員研修会（OFF-JT） 大阪府認定調査員研修（新規研修）（OFF-JT） 東大阪市認定調査員新規研修（OFF-JT） 大阪府主任介護支援専門員研修4日目（OFF-JT） 大阪府主任介護支援専門員研修5日目（OFF-JT）
10	介護予防ケアマネジメント研修（基礎研修①）（OFF-JT） 大阪府主任介護支援専門員研修6日目（OFF-JT） 大阪府主任介護支援専門員研修7日目（OFF-JT） 大阪府主任介護支援専門員研修8日目（OFF-JT）

1 1	大阪府主任介護支援専門員研修 9 日目 (OFF-JT) 大阪府主任介護支援専門員研修 10 日目 (OFF-JT)
1 2	介護予防ケアマネジメント研修 (基礎研修②) (ウェブ形式) (OFF-JT) 東大阪市キャラバンメイト研修会 (OFF-JT) 大阪府主任介護支援専門員研修 11 日目 (OFF-JT)
1	権利擁護 (成年後見制度等) に係る事例検討会 (OFF-JT) 地域包括支援センター職員基礎研修 (ウェブ形式) (OFF-JT) ZOOMの超入門講座 (ウェブ形式) (SDS) 大阪府主任介護支援専門員実務研修 12 日目 大阪府介護支援専門員実務研修 1 日目 (OFF-JT)
2	地域包括支援センター職員基礎研修 (ウェブ形式) (OFF-JT) 認知症サポートボランティア研修会 (ウェブ形式) (OFF-JT) 地域包括支援センター担当職員研修会 (ウェブ形式) (OFF-JT) 坂道発信の会 (ウェブ形式) (SDS) 大阪府介護支援専門員実務研修 2 日目 (OFF-JT)
3	養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会 (ウェブ形式) (OFF-JT) 東地域 地域福祉ネットワーク推進会議 (SDS) 地域医療支援病院研修会 (SDS) 大阪府介護支援専門員実務研修 2 日目 (OFF-JT)

3	<p>平成31年度緩和ケアフォーラムin枚岡（SDS）</p> <p>平成30年度大阪府主任介護支援専門員研修10日目（OFF-JT）</p> <p>成年後見制度のより良い活用について（SDS）</p> <p>介護予防ケアマネジメント研修（OFF-JT）</p> <p>平成30年度マッセ・市民セミナー（SDS）</p> <p>平成30年度大阪府主任介護支援専門員研修11日目（OFF-JT）</p> <p>東大阪市養護介護施設従事者向け高齢者虐待防止研修会（OFF-JT）</p> <p>第6回多職種連携全体研修会（OFF-JT）</p> <p>認知症総合支援事業取組報告会（OFF-JT）</p> <p>東大阪市第3回CSW連絡会（SDS）</p> <p>第3回東大阪市生活支援コーディネーター研修会（OFF-JT）</p> <p>平成30年度大阪府主任介護支援専門員研修12日目（OFF-JT）</p>
---	--

提出日 年 月 日

地域包括支援センター事業実績報告書

令和2年度年間分	支援センター名 布市福寿苑	今年度新規相談 実人員	504
	担当者名 中山、紀、川口、宮本、木村、松田		

相談件数	相談者と相談方法	身体状況
実態把握加算対象 1583	本人 239 家族 222 CM 32 その他 1091 計 1584	不明 未申請 申請中 自立 要支援 1 2 1 2
加算対象外件数 1	訪問 来所 電話 計 1528 47 9 1584	257 67 24 520 269 789
相談件数合計 1584		総合事業 1 2 3 4 5 6 70
認知症相談件数 159	家族形態	268 33 18 9 4 6 1475
権利擁護援助 件数 25	同居 独居 計 1016 568 1584	
うち虐待関連件数 18		

相談内容及び申請代行	介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係
相談内容	1314	97	17	64	25
申請代行	174		1		
	介護予防	基本チェック	その他	計	
相談内容	42	28	406	1992	
申請代行				175	

サービスの状況と利用希望

	ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ	
現利用										
利用希望	53	149	11	7		98	4	19	13	
	配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中	計
現利用										
利用希望	9	46	25	152			2	5		593

単位地域ケア会議	介護支援 専門員	サービス 事業者	医師
会議出席者	医療機関 職員	自治会	民生委員
	校区福祉委員	関係機関	知人
単位地域ケア 会議加算対象			

地域ケア支援生活支援コーディネーター内訳

相談方法	個別加算対象 50						
個別加算対象外							
地域ケア支援個別計	50						
集団加算対象	25						
地域ケア支援加算合計	75						
生活支援集団加算対象	58						
訪問 来所 電話 FAX 計 21 4 24 49							
相談者	虐待関連相談 件数 23						
介護支援 専門員	サービス 事業者	主治医	医療機 関職員	関係機関	知人	NPO法人	
地域ケア(個別)	22	2	3	22			
地域ケア(集団)	1	2					
生活支援(集団)							
	ボランティア	自治会	校区福 祉委員	民生委 員	老人クラ ブ	その他	計
地域ケア(個別)				1			50
地域ケア(集団)		1			1	20	25
生活支援(集団)			1			57	58

認知症支援	認知症カ フェ(主 催)	認知症カ フェ(その他) (他カフェ)	認知症本人 活動支援	認知症あ んしん声かけ 訓練	計

高齢者生活支援等会議	地域活動団体	福祉・介護職
	自治会 校区福祉委員 民生委員 老人クラブ	居宅介護 支援 訪問介護 通所介護
	2 3 3 3	3 2 2
	医療機関	計
	医師 歯科医師 薬剤師	2 3 3 26
	その他	
		3

実施した支援・内容

地域ケア支援(個別・集団)					
ケアマネジ メント支援	ソーシャ ルワーク 援助	情報提 供	連携支 援	その他	計
個別	4	4	16	11	25
集団			21	1	3
生活支援コーディネーター活動(集団)					
生活支援の 担い手の活 動状況確認	生活支援 の担い手 養成支援	総合事 業の制 度説明 等	取組の 事例発 表	計	
集団	53	5		58	

生活支援コーディネーター(立ち上げ担い手支援)
(担い手支援) 社会資源マップ作成

担い手種別	マップ計	
	2	
助け合い つどい	計	
立ち上げ担い手支援	担い手支援	計

第1層への課題提示
提示加算対象

提出日 年 月 日

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和 2年度年間分

支援センター名	布市福寿苑
担当者名	紀 郁江

地域介護予防活動支援

相談 支援件数	
総件数	
	うちグループ 活動支援
11	11

グループ種別					
老人 クラブ	校区福祉 委員会	自治会	老人C ボランティア	その他	計
				11	11

相談方法				
訪問	来所	電話	その他	計
9		2		11

教室実施状況

開催件数	
介護予防教室 開催件数	40
家族介護教室開催 件数	4
リモート型教室 立ち上げ件数	2

【1】施設運営を振り返って

地域における介護老人保健施設としての役割、機能を果たすため、地域包括ケアシステムの担い手の一つとして施設入所サービス、短期入所療養介護の事業を行いました。サービス提供においては、自立支援と要介護状態の軽減、悪化を防止することを目標とし、ご利用者の人権と健康を守ることに努めました。

今年度は昨年度の経験と実績を活かし、より地域との交流機会を作り、関係を深めていくことを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症への感染対策により介護予防教室や地域の行事に参加することが出来ませんでした。またご家族と交流する機会や行事、クラブ活動等の機会も減少し、処遇と感染対策を両立させることに試行錯誤した一年となりました。

最後に在宅復帰・在宅療養支援機能では一年間加算型を維持することが出来ましたが、一方で施設稼働状況は目標数値を達成するに至りませんでした。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
老健	目標	94.5%	—	58.7%	24.6%	10.8%	5.9%
	実績	88.0%	94.2%	60.3%	26.2%	11.4%	2.1%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

- (1) 自立支援と在宅復帰に関連する課題へのアプローチを行い、在宅復帰率向上を図りました。前年度実績を上回る結果となりましたが、日常生活リハビリの実施が十分とはいえ、目標としていた16%を達成することが出来ませんでした。
- (2) 地域のニーズを把握し、役割が果たせるように施設見学会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症による感染対策により開催することが出来ませんでした。
- (3) 各専門職別にOJTを実践、Off-JTについても前年度を上回る研修機会を設け実施しました。また感染対策を目的とした業務改善を行い、職員の専門職としての知識、技術等の向上を図りました。
- (4) ご利用者と職員の健康管理、異常の早期発見に努めました。骨折などの怪我を伴う事故は激減し、ご利用者が安心して安全に生活できる環境を整備することが出来ました。全体の入院者数は微増する結果となりましたが、環境、感染症対策を強化することが出来ました。
- (5) 災害における被害を受けた際、事業を停止せず継続させることが出来るように事業継続計画の策定や防災備品の整備を計画しましたが、感染症対策への整備を最優先し、計画を達成することが出来ませんでした。

【4】施設の課題

- (1) 施設の課題として、目標数値が未達となった稼働率について、改善・回復が急務と考えています。営業方法や実績の共有について見直しが必要です。また、この先々安定した介護サービスを提供し、収入を得るためには、人材を確保し、専門性と人間力の高い職員を育成しなければなりません。OJTとあわせてOff-JTを推進してきましたが、特に中堅職員以上への育成が課題になります。
- (2) ご利用者やご家族への処遇を見直す必要があります。リスクマネジメントや感染症対策の観点からQOLが低下し、認知症の進行や活動性の低下に繋がっています。安全や健康を守りながらも、一人一人の気持ちや思いに寄り添い、応えていけるケアを実践していかなくてはなりません。

【5】付表

年間行事

月	行事内容
4	花見行事・里喫茶・誕生日会
5	端午の節句・里喫茶・誕生日会
6	創作活動・里喫茶・誕生日会
7	七夕行事・おやつレク・里喫茶・誕生日会
8	たこ焼きパーティー・誕生日会・里喫茶
9	敬老会
10	ハロウィンパーティー・里喫茶・誕生日会
11	入浴行事・里喫茶・誕生日会
12	クリスマス会・里喫茶・誕生日会
1	正月行事・里喫茶・誕生日会
2	バレンタイン行事・里喫茶・誕生日会
3	入浴行事・里喫茶・誕生日会

年間防災訓練実績

防災訓練

月	訓練内容
6	消火訓練
1 2	日勤帯想定防災訓練（避難訓練）
2	夜間帯想定防災訓練（通報訓練・避難訓練）

年間研修実績

施設内研修

月	研修内容
4	人権・身体拘束廃止研修会①
5	食中毒研修
6	人権・身体拘束廃止新人研修会
6	報連相に関する研修会
7	人権・身体拘束廃止研修会②
1 0	感染症（インフルエンザ・コロナウイルス）研修会
1 2	感染症（ノロウイルス）研修会
1 2	身体拘束廃止研修会③
1	褥瘡研修
1	安全対策研修会
入職時	感染症研修

施設外研修

月	外部研修内容
11	コロナウイルス感染対策研修
1	認知症研修
1	高齢者の車椅子シーティングと移乗・座位修正技術
2	介護職・看護職のためのポジショニング研修
3	養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会
3	LIFE活用に関する研修会

介護老人保健施設 長田の里 令和2年度 事業報告

【1】施設運営を振り返って

令和2年度は施設運営を円滑に行うために、新たに課長の配置を行いました。それにより、各部署への伝達や意見集約などが円滑に行えるようになりました。また各部署の役職者への指導も適宜行えるようになり、役職者の更なる成長がみられました。

役職者の「部下・後輩の育成力」も向上がみられ、その結果、サービスの質の向上に繋がった1年でありました。

「安定した経営」「機能強化」「地域包括ケアの構築」をめざして、1年間取組んでまいりましたが、新型コロナというこれまで経験したことがない感染症拡大の影響を受けた1年となりました。まだまだ先が見えない状況ではありますが、少しでも地域に貢献できるように、自分たちにできることは何かを考え、取組んでいきたいと思えます。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	100.0%	60.1%	24.5%	4.3%	11.0%
	実績	—	98.0%	64.2%	24.7%	4.2%	6.9%
老健	目標	95.0%	100.0%	58.1%	26.2%	4.9%	10.8%
	実績	95.7%	100.2%	61.2%	26.7%	4.8%	7.3%
通所	目標	83.0%	100.0%	65.6%	19.9%	1.9%	12.7%
	実績	74.9%	83.4	78.6%	17.8%	1.8%	1.8%
居宅	目標	39.6件 /1人	100.0%	84.5%	4.7%	0.4%	10.3%
	実績	39.8件 /1人	103.7	82.5%	3.4%	0.6%	13.5%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) 介護老人保健施設

①介護老人保健施設の機能と特色を活かし、在宅復帰に向けての支援を強化します。(目標：在宅復帰率18%)

実施状況

在宅復帰に向けてご自宅訪問やご本人・ご家族への助言・指導を積極的に行うとともに、多職種間の情報を密に共有し、日常生活場面での実用性を重視した介護・リハビリテーションの実施を心がけました。

結果、在宅復帰率13.8%と目標には届きませんでした。前年度13.4%

を上回ることができました。

- ②ご利用者の意思を最大限に尊重し、尊厳ある質の高い看取りを行うことをめざし自施設の体制整備を推進してまいります。

実施状況

「終末期ケア委員会」にて看取り指針を策定し、質の高い看取りを実施するために看護師・介護士への研修の実施・必要な備品等の整備を行いました。

- ③地域で介護・リハビリを必要とされているより多くの方に、継続的且つ公益的にサービスの提供を行えるように努めます。

実施状況

より多くの支援を必要とされる方へご利用いただけるように、迅速な入所受入れと積極的なショートステイの提案を実施していきました。

年間稼働率95.7%目標としていた稼働率95%を達成することができました。前年度93.5%を上回り、老健でのリハビリを必要とされている多くの方にご利用いただけました。

また、ショートステイでは、延べ使用者数243名と多くの方にご利用していただけました。

- ④入所者の健康管理に努めます。

実施状況

年間入院者数46名と目標の36名を超える結果となりましたが、前年度72名から大きな改善がみられました。

- ⑤地域福祉の拠点となるような包括的なサービスの提供に努めます。

実施状況

併設の居宅介護支援事業所・通所リハビリテーションとの連携強化を図り、ニーズに合わせて包括的にサービスの提供を行えるように取り組みました。

- ⑥ご利用者の安心安全に施設生活を過ごしていただけるように生活環境を整えていきます。

実施状況

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、地域との交流や外部ボランティアを招いての行事がほとんど実施できませんでした。また、ご家族との面会もできない状況が続いています。

まずはご利用者への感染のリスクを減らすために、感染対策の見直しと徹底を行いました。結果、ご利用者の新型コロナ罹患者はゼロとすることができました。また行事に関しましては、大規模なものは行えませんでした。感染症対策を行ったうえで、「食」をテーマにご利用者に楽しんでいただける企画を立案・実施いたしました。

面会につきましては、Web面会・リハビリ動画の視聴などを取り入れ、ご利用者・ご家族を安心していただけるように取り組みました。

⑥安全で快適な食事の提供に努めます。

実施状況

快適な食事の時間を過ごしていただけるように、月に1度委託給食会社との会議を開催しています。その中で、異物混入ゼロに向けての取組みや季節にちなんだメニューなどを検討してきました。

⑧施設職員の職務能力の向上と意識改革を行い、ご利用者の意向に寄り添ったサービスを提供します。

実施状況

職員のスキルアップのため、月1回実施しております職員研修の見直しを行ないました。伝達の工夫や職員に考える機会を多く設けた研修を企画・実施し、職員の意識・職務能力の向上に努めました。

(2) 通所リハビリテーション

①心身機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法・作業療法、その他必要なりハビリを提供し介護・看護・療法士など多職種でご利用者の生活を支援していきます。

実施状況

「自立支援」をテーマに職員・ご利用者が共通したスローガン「出来ることは自分で頑張る気持ちを強く持ちましょう」を掲げてきました。

E Vを使用してのフロア移動や体温・血圧測定など、今まで当たり前のように、職員が行ってきたことを、ご利用者個々の能力に合わせて、一人で行える方には、ご自分で行ってもらうように改善しました。

結果、職員・ご利用者とも意識が変わり、設定する生活目標も一歩進んだものになるなど良い効果がみられています。

より多くの方にご利用いただきたいとの思いから、目標稼働率を83%に設定しておりましたが、結果74.9%と目標に届きませんでした。外出自粛が求められる現在、安心して通っていただける場所をめざして取り組んでいきます。

②職員のスキルアップ及び人材育成に取り組めます。

実施状況

まずは職員一人一人が、担当するご利用者に必要な支援とは何かをしっかりと考える。それを多職種で共有し、最終的な支援の方法を決定する。こうすることで、自分一人では気付くことができなかつたことや多職種の専門的意見が聞くことができるなど職員のスキルアップに繋がった。

しかしながら、目標としていた多職種での月1回の勉強会・外部研修への派遣が実施できませんでした。

③業務改善を積極的に行い、働きやすい職場環境作りに取り組めます。

実施状況

業務改善は随時見直しを行ってきました。その結果、役職者に負担が偏る傾向が生まれてしまった。今後は業務の振り分けを再検討していく必要があります。

(3) 居宅介護支援事業所

①各人のスキルを高め、業務の効率化を図ります。

実施状況

総合事業を含め、ケアマネジャー1人当たりの年間平均件数は39.8件と多くのご利用者を担当させていただきました。

今年度は新型コロナの感染拡大の影響があり、外部研修を受講することができなかったため、各人は必要とする能力にあった書籍にて自己学習に取り組みました。フレックス制度を活用し、業務効率を図りながらライフワークバランスの実現に取り組みました。結果、残業時間の減少に繋がるとともにご利用者のニーズに合った時間での訪問など柔軟に対応できました。

②地域の諸機関と連携を深める活動をします。

実施状況

ご利用者の体調やADLに変化が起きた際には、必要に応じて病院や介護施設と連携を密に取りながら、ご利用者が安心して暮らしていけるように最善策を取るよう努めてまいりました。

新型コロナの影響もあり、なかなか地域の諸機関と顔を合わせられる機会が少なかったです。ICT環境を整えて新たな形での連携強化を図っていきます。

【4】施設の課題

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大という今まで経験したことがない状況下での運営が続きました。運営する3事業において影響がありました。特に通いの在宅サービスである通所リハビリテーションでは影響が大きく、稼働率、収支とも目標を達成することができませんでした。

そしてなにより、介護老人保健施設として地域に貢献できなかったことが悔やまれる1年となりました。入所していただいている方、サービスをご利用いただいている方、職員の安全を第一に日々感染症対策に追われる1年でした。

まだまだ先行きがみえない中ではありますが、今年度経験したことを活かしながら、安定した運営を行うとともに地域に向けて何ができるのかを考え、実践していくのが大きな課題と考えます。

【5】付表

(1) 行事

介護老人保健施設

月	行事名
4	買い物・誕生日会
5	端午の節句・誕生日会
6	ケーキバイキング・買い物・誕生日会
7	七夕祭り・買い物・誕生日会
8	かき氷・買い物・誕生日会
9	敬老祝賀会・買い物・誕生日会
10	ハロウィン・買い物・誕生日
11	カップラーメンの日・買い物・誕生日
12	クリスマス会・買い物・誕生日会
1	元旦祭・たこ焼きパーティ・誕生日会
2	節分・買い物・誕生日会
3	買い物・誕生日会

通所リハビリテーション

月	行事名
4	誕生日会
5	端午の節句・誕生日会
6	誕生日会
7	七夕祭・誕生日会
8	夏祭り・誕生日会
9	敬老祝賀会・誕生日会
10	スポーツ大会・誕生日会
11	焼き芋大会・誕生日会
12	クリスマス会・誕生日会
1	初詣・誕生日会・鍋の日
2	節分・鍋行事・誕生日会
3	ひな祭り・誕生日会

(2) 防災訓練

月	種 別	内 容
6	消火器訓練	水消火器を使用して、火災発見から消火活動までの一連の流れを習得する訓練
10	総合訓練	夜間を想定した通報訓練・消化訓練・避難誘導訓練（消防署立会い）
12	地震訓練	大地震を想定して、利用者の安全を確保するための訓練
3	緊急連絡訓練	緊急時、全職員への通報訓練及び緊急動員を要請する訓練

(3) 研修

月	内部研修	外部研修
4	新人研修	
5	食中毒予防研修	
6	事故防止・再発防止研修	生産性向上マネジャー育成研修
7	腰痛予防	生産性向上マネジャー育成研修
8	接遇マナー研修	感染症予防知識について（介護職） 生産性向上マネジャー育成研修
9	非常災害対策研修	生産性向上マネジャー育成研修
10	身体拘束予防	成果を上げる業務改善 生産性向上マネジャー育成研修
11	高齢者虐待防止	職場リーダーに求められる統率力の向上 コロナウイルス感染症対策研修（看護師）
12	感染症予防対策	ACP研修
1	認知症ケア	
2	事故防止・再発防止・誤嚥防止	老健施設で働く看護職員が抱える課題と対策 リスクマネジメントによる損失防止策
3	褥瘡予防研修	

【1】施設運営を振り返って

(1) 施設運営で方向性を明確化した。

- ① 入所者支援では、「自立支援」を基本に健康で明るく安心した暮らしを生活の位置付け生きがいのある生活ができるよう環境維持に努めた。
- ② 入居者のニーズに対しての生きがいとして、コロナ禍の中、おやつ会毎月・買物ツアー・地域貢献活動の公益的な取組としては、自治会の老人会長、婦人部代表様とも状況提供等、話し合いを行い地域交流の方向性について情報の交換をした。
- ③ 職員に対して2年度OJTの実施各人の目標管理の推進に努めた。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	95%	99%	41%	49%	10%	0%
	実績	96%	98%	39%	48%	12%	△2%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

令和元年度結果累積入居者数は、21,229人（入居率96.7%）前年度（入居率96.0%）と数値目標としては維持できた、要因として、引続き入居者、退居者をスムーズな受け入を進めることで、目標稼働率の維持ができた、入院率は、前年度より-0.1となるも入院率の低下を目指し令和3年度に向け健康管理の対策が努力目標課題となる。

【3】事業計画の実施状況

- ① 地域に開かれた施設として、コロナ禍の中施設の在り方等、快適な生活を維持できるように努め、施設の環境整備において、館内の感染対策とし、抗菌、消毒空気清浄機等による快適な生活の環境維持に努めた。
- ② 法人の理念である地域への生活支援の拠点として頂けるよう、居住型施設と福祉施設の役割を併せ持つ特徴を発揮していけるよう地域高齢者との情報交換に努めた。
- ③ 入居者に対しての定期的な健康維持、各種サービスへの結び付けによる、継続安心・安全な生活維持管理を確保し施設が感染対策取組の行事参加等の推進による、施設運営に努めた。

【4】施設の課題

- ① 入居者は、身体的介護は必要としないが、様々な事情で居宅での生活が困難な生活をされている入居者も多くなってきており、多様化するニーズに対しての情報収集し利用者の良質の生活を提供できるように努めた。
- ② 入居者が要支援より要介護になられた方に対しては、スムーズに医療機関や介護サ

ービスの提供機関に入居者の身体状況の共有に努め、継続安心・安全な生活維持に向けた取り組みに努めた。

- ③ 施設の老朽化の為、引続き施設の総点検を実施し利用者に継続して、生活をして頂けるよう環境整備を図り引続き快適な生活環境の維持に努めた。
- ④ 職員に対してのOJTの推進による目標管理へ努めた。

【5】 付表

(1) 行事

月	施設内定例行事
4	花見会（ドライブ）感染症の為中止・誕生日会
5	端午の節句（菖蒲湯）・誕生日会・枚岡健康祭り施設合同中止・おやつ会
6	おやつ会・誕生日会
7	七夕祭り・誕生日会・おやつ会
8	夏祭り（4施設合同）中止・おやつ会・誕生日会
9	敬老祝賀会・誕生日会・
10	枚岡神社秋祭中止・太鼓台訪問中止（地域住民慰問）・誕生日会・おやつ会
11	鍋の会・誕生日会・おやつ会
12	クリスマス会・ゆず湯・誕生日会・おやつ会
1	元旦祝賀会・鍋の会中止・誕生日会・おでんバイキング・おやつ会
2	節分祭（豆まき）中止・鍋の会中止・誕生日会・おやつ会
3	ひな祭り・誕生日会・鍋の会中止・おやつ会

※地域自治会高齢者と入居者との交流会月2回開催を中止（コロナ感染対策とし地域自治会との話し合いにより年間の交流会を中止とした）

(2) 防災訓練

月	種別	内容
6	基礎訓練	防災監視盤・非常通報装置・非常用放送設備などの確認及び使用方法を学ぶ基礎訓練、通報、初期消火、入居者の避難誘導。職員4名入居者4名
3	基礎訓練 消防署立会 感染症で立会中止	非常用放送設備を作動させ全館火災放送を流し入居者の避難誘導を行った。 職員3名入居者4名

(3) 研修

月	内容	場所	職種
5	感染症予防委員会	ケアハウスひらおか	介護士・栄養士
6	感染症予防委員会	ケアハウスひらおか	栄養士

7	事故防止委員会	ケアハウスひらおか	介護士・栄養士
1 1	感染症予防対策講習会	クレオ大阪中央	介護士
3	栄養管理報告書を活用した PDCA サイクルに基づく給食管理 事故防止委員会	オンライン研修 ケアハウスひらおか	栄養士 介護士・栄養士

ケアハウス喜里川 令和2年度 事業報告

【1】施設運営を振り返って

ケアハウス : 目標に掲げていました稼働率目標については、退去発生から入居決定までのタイムラグが大きくなったことも影響し、達成には至りませんでした。また、入居者並びにその家族との連携強化、地域のコミュニティーになるという目標に関しては、新型コロナの影響もあり、この2点については未達という結果になりました。

地域密着型デイ : 前年度に引き続き、稼働率の向上を最重要課題として掲げてまいりましたが、達成には至りませんでした。上半期は順調に向上傾向にありましたが、新型コロナの影響等もあり、新規利用者の獲得が思うように進まず、下半期で大きく稼働を下げた結果となりました。

短時間デイ : 地域密着型と同様に稼働率の向上を最重要課題として取り組んでまいりました。新規利用もありましたが、利用中止者も同時に発生し、年間を通じて稼働率は伸び悩む結果となりました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標			50%	44.5%	5%	0.5%
	実績		94.6%	51.6%	49.5%	6.5%	△7.6%
ケアハウス	目標	93%		40%	53.5%	6%	0.5%
	実績	91.7%	93.8%	43.2%	59.2%	8.6%	△11%
地域密着型通所	目標	68%		84%	22%	2%	△8%
	実績	62.7%	97.4%	77.8%	19.4%	2.6%	0.2%
短時間デイ	目標	50%	—	—	—	—	—
	実績	22.1%	—	—	—	—	—

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) ケアハウス

ケアハウスでは①高稼働率の維持、②施設と入居者並びにその家族との関係性向上、③地域のコミュニティーを目指すという3点を計画目標に掲げ事業を進めてまいりました。①高稼働率の維持については、入居待機者は一定程度確保できていたものの、退去後の原状回復工事、入居待機者の意思確認、待機者との入居タイミングの不一致等があり、スムーズな入居受け入れが出来ず、計画達成には至りませんでした。一方、②入居者並びにその家族との関係性向上と③地域のコミ

コミュニティを目指す、の2点については、年度当初から発生した新型コロナ感染の影響により、目標達成に向けた取組の検討が進まず、こちらも達成には至りませんでした。

(2) 地域密着型デイサービス

最重要課題として、稼働率の向上を目指し、上半期については順調に稼働率が向上傾向にありましたが、新型コロナの影響による利用控えや新規利用者の獲得が進まなかった事、下半期に入り利用中止が相次いで発生した事などから年間を通じての稼働率は62.7%にとどまり、計画達成には至りませんでした。また、併に掲げていた「労働環境の整備」については、一部の業務改善等は実施できましたが、「職員の働き甲斐」を創造するという観点では、環境の整備は整っておらず、こちらも目標の達成には至りませんでした。

(3) 短時間デイ

新型コロナの影響もあり、積極的なPR活動ができず、地域密着型同様に稼働向上の目標は達成に至りませんでした。

【4】施設の課題

全事業とも令和2年度に計画していた目標が達成に至っていない事から、それらが、今後の課題になると言えます。ケアハウスでは、今後も高稼働率の維持が課題であり、その為には、退去から入居までの一連の流れを見直し、タイムラグを削減させる事が必須となります。また、『地域のコミュニティを目指す』と、『入居者並びにその家族との関係強化』の2点については、いまだに新型コロナの感染の脅威が続く中では、地域住民、並びに入居者や家族が集う機会を設けること自体が難しい事から、感染状況を見ながらにはなりますが、その時その時の状況に応じた実施策を検討してまいりたいと思います。

地域密着型デイでは、例年掲げている稼働率の向上だけでなく、新規加算の取得と既存取得中加算の上位加算取得が重要課題になると考えています。前年度に達成できなかった「労働環境の整備」を図りつつ、重要課題に事業所全体で取り組んでまいります。また、今年度は地域密着型としての在り方についても、新たな課題として掲げ、様々な活動を通じて地域に貢献できる事業所を目指してまいります。

短時間デイでは、稼働率の伸び悩みが継続しており、今後は他の短時間通所型サービスだけでなく、独自型サービス（旧予防デイ）等とも利用者獲得という点で競争していかなければなりません。その為、地域包括とのコミュニケーションを通じて、利用者ニーズの掘り起こしを行うと共に、当事業所の現状の営業形態の中で、各利用者のニーズに対してできることは何かを考え、利用者ニーズにフィットしたサービス内容を実施していく事が今後の課題と言えます。

【5】付表

(1) 行事

(ケアハウス)

月	行事名
4	花見会
5	菖蒲湯
6	施設内バーベキュー大会、衣類訪問販売
7	おやつレク (ベビーカステラ)
8	おやつレク (かき氷)
9	敬老祝賀会
11	文化祭、衣類訪問販売、おやつレク (たこ焼き)
12	クリスマス会、おやつレク (焼いも)
1	元旦祭、鏡開き
2	節分祭
3	選択食

(地域密着型デイ)

月	行事名
4	花見ドライブ
5	菖蒲湯
6	喜里川ジェンヌ (鳴子よさこい)
7	夏祭り
8	射的大会
10	喜里川オリンピック (運動会)
12	大忘年会
1	喜里川映画祭
2	焼き芋大会

(2) 防災訓練

月	訓練内容
8	避難訓練 (座学による火災発生時の避難方法)
12	防災啓発講習
3	緊急連絡網を使用した通報訓練

(3) 研修

月	研修内容
5	身体拘束研修（スピーチロックについて）
6	高齢期の特徴に関する勉強会
8	感染症研修会（食中毒予防について）
9	事故対策研修（過去の事例検討と予測される事故パターンについて）
11	身体拘束研修会（身体拘束を行う場合とそのルールについて）
12	人権研修（高齢者虐待について）
1	感染症研修会（冬の感染症）
3	事故対策勉強（過去の事例検討と予測される事故パターンについて）

【1】施設運営を振り返って

地域の社会資源としての「ごりょうの家」の確立の為、御領自治会、大東市社会福祉協議会、地域包括支援センター等との協力、信頼関係の構築を目指してきましたが、コロナの影響でかなり制限を受けました。ただ年度後半はオンライン等を使用し、関係性の継続を行うことができました。

収支の黒字化を達成する為に、対面での営業は制限された分、郵送やFAX、電話等での広報活動に努めた結果、認知症デイサービスでは大きく収入を伸ばすことができました。また、だいたいケアプランセンターが同一敷地内に移転したこと連携の強化にも努めました。ただ拠点全体での黒字化を達成することができませんでした。

人材育成（OJT）では、正社員を中心に積極的に進めることができ、全員ではありませんが、パートタイム職員にも実施する事ができました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	73.0%	95.0%	100.1%	15.1%	10.4%	△15.4%
	実績	67.1%		103.1%	17.5%	4.6%	△21.0%
小規模多機能	目標	83.7%	87.2%	91.0%	13.1%	9.7%	△5%
	実績	72.7%		106.9%	17.0%	4.6%	△25%
認知症デイ	目標	57.3%	108.2%	112%	15.4%	12.2%	△28%
	実績	51.7%		89.8%	15.5%	4.8%	△6%
居宅介護支援	目標	78.0%	116.6%	136.0%	21.9%	4.0%	△58.8%
	実績	77.0%		125.7%	28.7%	5.0%	△54.5%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【3】事業計画の実施状況

(1) 小規模多機能型居宅介護

- ・管理者と介護支援専門員の兼務を解消し、より迅速な受け入れ強化に努めました。介護支援専門員は一時的にはできたものの、恒久的には配置できませんでした。引き続き兼務の解消は目指すとともに、主任や副主任を育成することでより受け入れをスムーズに行うことを目指してまいります。
- ・「訪問」のニーズの積極的な受け入れを目指しましたが、ニーズが少なく加算取得まで増やすことができませんでした。当事業単独では難しい場合は、他機関とも連携

しての加算取得も目指していきます。介護報酬改定で新たな加算である「LIFE」にも積極的に取得を目指してまいります。

- ・送迎、夜勤、入浴等、業務を切り分けた雇入れは積極的に行うことができ、時間延長や緊急対応等の利用者ニーズにあったサービスを行うことができました。

(2) 認知症対応型通所介護

- ・コロナ禍でも実績は増えてきており、「認知症専門」の通所介護としてPR活動してきた効果がありました。特に要支援の利用者様の数が増えたことは地域包括支援センターやケアマネージャーに浸透しているからだと考えられます。今後も信頼を裏切らないようなサービスの質を保ちながらまだ当事業所を利用したことのない地域包括支援センターや居宅にもアプローチしていきます。
- ・コロナ禍の中ですが、送迎時に家族様の状態など変化があればケアマネージャーに報告し、必要なサービスの提案などさせて頂きました。コロナが終息すれば「家族会」を開催したいが、いつになるかわからない為、送迎時や電話などでできるだけ家族様と多く関われるようにしていきます。
- ・コロナ禍で他事業所との連携は難しかったですが、複数の事業所を利用されている利用者様には情報の共有をできるように事業所間で連絡を取り合ったり、書類にて報告を受けたり等しながらより良い認知症ケアの実施に努めました。

(3) 居宅介護支援事業所（川福会だいとうケアプランセンター）

- ・令和2年5月にごりょうの家に移転し、小規模多機能型居宅介護と認知症対応型デイサービスとの連携の強化を図りました。相談窓口の強化と関連機関への周知を図り、新規利用者の獲得に努めました。
- ・大東市を拠点に関連機関との連携を図り、地域に根付いた事業展開に努めました。大東市ケアマネジメント研究会、大東市地域ケア会議等へ参加し、地域の関係機関との連携を広げる取り組みを行った。地域の行事参加等は機会が少なかったが、新規相談の受け入れを積極的に行ったことで新たに関わった事業所を増やすことができました。
- ・大東市の認証ケアマネージャーの資格維持に必要な研修等へ参加し、資質の向上及びサービスの質の向上に努めた。大東市からの介護予防の新規利用者の獲得に繋げることができました。

【4】施設の課題

課題としてまず挙げられるのは、収益の安定化、収支の黒字化を達成できなかったことです。令和1年度では、認知症デイサービスの実績向上が一番の課題でしたが、2年度では単月では黒字化を達成する等大きく改善することができました。一方で小規模多機能では定員が20名を超えたあたりで頭打ちになり思うように収益を上げる

ことができませんでした。コロナの影響で、利用見合わせや入所の増加の影響も大きいですが、平均介護度が2.0と若干改善したものの依然低いことも大きな要因です。区分変更してもあまり介護度が上がらない事情もあるので、新規を受け入れる際の介護度や利用曜日の調整（曜日によっては定員に達している）等も考慮していきます。だいたいケアプランセンターが要介護者の割合を高め、併設事業の収益増加につなげていくよう努めます。

地域支援活動は、ほとんどできませんでした。令和3年度ではコロナ禍でもできるところを地域住民や地域包括支援センター等と連携し探っていきたいと思います。

【5】 附表

(1) 行事

月	内容（小規模多機能）	内容（認知症対応型通所）
4	花見	花見ドライブ
5	たこ焼き・ビンゴゲーム	食事会
6	流しそうめん	昼食レクリエーション
7	七夕・ところてん作り	流しそうめん
8	夏祭り	夏祭り
9	敬老祝賀会	敬老祝賀会
10	小運動会・お寿司	室内運動会
11	秋の遠足	作品展
12	クリスマス会	クリスマス会
1	書初め・ぜんざい	ほっこり鍋会
2	節分	節分レクリエーション
3	ひな祭り	お雛様の会
該当月	○利用者様お誕生会	○利用者様お誕生会

※2月以降新型コロナウイルス関連でボランティア、地域活動等は中止。

※月1回 ドッグセラピーは中止

※御領お楽しみサロンは3回開催

※大東市介護者家族の会（サルビアの会）は中止

※不定期 演芸ボランティア（マジックショー、歌謡ショー）は1回のみ開催

(2) 防災訓練

月	内 容	
5	消火訓練、避難訓練	緊急事態宣言の為中止。
8	消火訓練、避難訓練 (夜間帯想定)	小規模多機能(1F)の夜勤帯の火災を想定した訓練。消防隊が到着するまでの間、職員がすべき消火作業、避難誘導方法を身に着ける。 (特に夜勤職員)
10	防災訓練 (緊急連絡網)	非常災害時を想定した職員の緊急連絡網の訓練を行った。
3	総合訓練 (消防署員立ち合い)	小規模多機能(1F)、認知症型通所介護(2F)の利用者が最も多い時間帯の火事を想定する。消防隊が到着するまでの間、職員がすべき消火作業、避難誘導方法を身に着ける。

(3) 研修

月	内容 (小規模多機能・認知症デイ)	内容 (居宅介護支援)
4		
5		
6	センター方式とパーソン・センター 士・ケア	入院時連携加算
7		ヒアリング報告
8	認知症の予防とリハビリテーション	医療との連携 高齢者の消防
9	社会福祉施設などにおける新型コロナ ウィルス感染対策動画研修	高齢者虐待 自立支援マネジメント
10		自立支援マネジメント
11		自立支援マネジメント
12		

1		認知症サポーター養成講座
2		アドバンスケアマネジメントを学ぼう・施設ケアマネジメント実務
3	人権研修 高齢者の皮膚疾患	要支援者の普通の生活を取り戻すために 認知症ケアマネジメント 介護報酬改定のポイント 介護支援専門員スキルアップ勉強会

※上記以外の外部研修は新型コロナウイルスの為に中止になっている。

【1】施設運営を振り返って

昨年度は5つの方針目標を定め、介護老人保健施設すいれん・通所リハビリテーションすいれん・居宅介護支援事業所ケアプランセンターすいれんが相乗効果を発揮しながら継続目標である「地域包括ケア」を担える施設運営に取り組みました。

また、令和2年度は新型コロナウイルスが世界中に流行し、高齢者サービスにも大きな影響を与え、介護方法や感染対策等、サービス提供の方法を大きく変更する必要がありましたが、職員一人一人の努力もあり、大きな蔓延は見られませんでした。

収支の安定化については新型コロナウイルスの影響もあり、入所・通所共に目標を下回る結果となっています。

人員体制や人員配置の整備を行ってまいりましたが、新型コロナウイルスの影響もあり人員確保が難しく、安定したサービスを行えるまでの整備には至っていません。

在宅復帰支援については在宅復帰後も居宅介護支援事業所や通所リハビリテーションと連携する事で切れ目のない支援を行う事が出来ました。

職員教育については、新型コロナウイルスの影響により外部での研修の参加が難しくなり、職員教育に大きな支障がでましたが、施設内での研修や教育に重点を置き育成体制を整えました。

NAS（施設内共有システム）を各事業所が積極的に使用し情報共有が容易になった事で、新型コロナウイルス感染対策に伴う情報共有もスムーズにでき、感染対策をしっかりと行う事ができました。

【2】数値目標と実績 (%)

介護老人保健施設 すいれん		稼働 率等	収入 達成率	人件 費率	経費率	償却 費率	利益率
拠点	目標	—	100%	64.0%	16.7%	14.3%	△8.1%
	実績	—	98.3%	60.1%	28.4%	14.6%	△3.1%
老健	目標	90.5%	100%	60.9%	31.3%	14.4%	△6.6%
	実績	86.2%	99.1%	57.4%	29.5%	14.7%	△1.6%
通所	目標	73.8%	100%	74.0%	21.8%	13.6%	△9.3%
	実績	63.6%	90.8%	71.1%	21.9%	14.9%	△7.9%
居宅 (介護)	目標	474件	100%	158.4%	10.9%	10.6%	△80.0%
	実績	504件	113.6%	123.6%	14.2%	9.4%	△47.1%
居宅 (予防)	目標	379件	—	—	—	—	—
	実績	406件	—	—	—	—	—

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

介護老人保健施設につきましては、5月に居宅介護支援事業所からの紹介が一時的に減少した事で稼働率が大きく低下しました。その後は病院や居宅介護支援事業所からの紹介は継続的に頂いていたものの、年末まで入院者数を抑える事が出来ず稼働回復に時間を要してしまいました。1月は入院者数を大きく抑えた事で稼働が回復し、2月以降は稼働率が90%を超えています。しかし、退所者の内訳では、入院者が7割を超え、在宅復帰率が16%前後、特養等の介護施設への入所が13%前後といった形になっており、今後、入院者の減少と在宅復帰率の向上をどのようにして取り組んでいくのかが稼働の安定や在宅強化型老健移行への課題だと思っています。

通所リハビリテーションにつきましては、積極的に新規の受け入れを行う事により稼働率は向上する事が出来ましたが、コロナウィルスの影響により利用自粛をされる方が多く、計画は未達となっております。現状要支援の方のニーズと短時間利用のニーズもあり、今後サービス内容の見直しを随時行い新規受け入れによる稼働向上及び、利用時間を延長して頂ける様な態勢づくりを行ってまいります。

居宅介護支援事業所につきましては、地域包括支援センターからのご紹介を中心に各機関や利用者、ご家族からも相談を頂けており、計画は達成しておりますが、要介護の方の件数が伸び悩んでいる為、今後も安心してご相談がいただける様な体制づくりを務めてまいります。

人件費率につきましては、稼働の向上に伴い人材確保を行ってまいりましたが、計画通りに行えておりません。今後も積極的な人材確保を行い、育成に努めてまいります。

経費率につきましては、稼働率が未達になった事による減少と、本入所の受け入れを積極的に行った結果、医療費や薬に関する費用がやはり多くなっている事等もあり、今後は必要な経費も踏まえて見直しを行ってまいります。コロナに対する感染症対策に関する支出もありましたが、助成金の申請も行ってまいります。その他の費用につきましてもコスト削減に努めてまいります。

【3】事業計画の実施状況

(1) 施設拠点について

新型コロナウイルスの影響により予定していた地域貢献活動や区民祭りへの出店、各関係機関への研修・会議への参加等が難しくなり、拠点での積極的な活動はできませんでした。

(2) 介護老人保健施設

①業務効率を図りながら人員体制の整備を行いました。

2重業務や自主点検表を確認する事で余分な書類作成や対応を見直しました。また、記録関係の書類作成についても全てPC化を行えるよう職員へのPC研修や書類のデータ作成に取り組みました。人員の体制整備については退職者もあり、人手不足が続いている為、体制整備についてはまだまだ課題を多く残している状況です

②在宅復帰加算型へ移行し、その維持を務めた在宅復帰システムの確立を行いました。介

護老人保健施設の『在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価』の基準に基づき、加算型算定に必要な安定した評価点数を取得出来ています。また、計画的・意図的な在宅復帰支援についても実施出来ており、在宅復帰後のフォローについても、すいれんの居宅介護支援事業所や通所リハビリテーションと連携しアフターケアも充実しています。

③余暇活動の充実を図り、利用者処遇に努めました。

動画視聴等を使用し、ご利用者様の娯楽の場を提供しましたが、新型コロナウイルスによる影響で例年開催していましたが、中止や規模の縮小、実施方法の変更等を行わざるを得ない状況となり、ご利用者様が満足するような取り組みが出来ませんでした。

(2) 通所リハビリテーション

①稼働状況に併せて正職員の採用を行い、コロナ禍で外部研修への派遣が今年度は難しくかった為、内部研修の実施を行い、職員の質の向上を行い、業務改善や感染症に対する対策を取り組んでまいりました。

コロナの影響により行事等も自粛等せざるを得なかった事もあり、ご利用者の方々に満足して頂けるサービス提供が出来ませんでした。

②定期的に居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等へ空き状況や感染症対策の取り組みをPRし、ご利用者様のご紹介も頂きました。

加算取得につきましては、令和2年4月より『中重度ケア体制加算』『サービス提供体制強化加算』を取得しております。

本体施設と居宅介護支援事業所との連携も行き、総合的に在宅復帰を支援する為に退所後の通所リハビリを、安心してご利用頂ける様に取り組みました。

(3) ケアプランセンター

①コロナ禍ではありましたが、状況を踏まえ感染症予防を徹底する事で地域の体操教室の参加や、オンラインツールの環境を整える事でリモート会議など、各関係機関に関しても研修・会議への積極的な参加をする事で、顔の見える関係づくりが行えました。

②介護支援専門員2名体制（管理者兼務）での業務も定着し、利用者・家族・各機関からの相談を頂いた際は、迅速に対応する事で継続してご相談・ご紹介を頂く事が出来ました。現状は男性2名の職員体制ではありますが、今後、異性や複数の職員配置にする事で個々のニーズに合った迅速な対応が図れるように努めます。

③入所相談から施設退所、在宅復帰までの支援方法を整備する事により、利用者・家族が安心して施設入所から在宅復帰ができる様な体制づくりを行う為に、本体施設との連携を図り、質のいいサービス提供ができるように努めました。

【4】施設の課題

施設の課題としましては、人材確保が十分に行っていない事や育成体系の構築を行ってまいりましたがまだ不十分である事。今後は稼働向上と安定を目指す為にも、計画的な入退所を行いながら在宅復帰をいかにスムーズに行って頂けるかが、大きな課題とな

っております。その為にも今後業務改善を通じて、加算の取得や様々な環境の仕組み作りを行い、施設運営の安定化及びサービスの質の向上を行ってまいります。

【5】 附表

(1) 年間行事

老人保健施設		通所リハビリテーション	
月	内容	月	内容
4	屋内お花見	4	誕生会
5	しょうぶ湯	5	誕生会
6	ところてん作り	6	誕生会
7	七夕祭り	7	誕生会
8	ほうずき作り	8	誕生会
9	敬老祝賀会	9	敬老祝賀会 誕生会
10	運動会	10	誕生会
11	文化祭（映画鑑賞）	11	誕生会
12	クリスマス会	12	クリスマス会 誕生会
1	元旦祭	1	お正月遊び 誕生会
2	節分	2	誕生会
3	ひな祭り	3	誕生会

(2) 防災訓練

月	種別	内容
5	基礎訓練	新人職員を対象とした、施設の防災機器・器具の場所及び取り扱い方法を周知行う。
9	消火訓練 合同防災訓練	消防署職員立会の元、水消火器を用いた防災訓練と、夜間想定 of 消防訓練を実施。火災時の対応等についての訓練を行った。
12	緊急連絡網訓練	LINE を用いての緊急連絡網の訓練を行った。
2	避難訓練	施設で火災が発生した際の避難方法の周知を各部署で行う。

(3) 研修

介護老人保健施設

月	内部研修内容
4	・感染症対策研修（手指消毒・手袋装着実施研修）・新職員研修
5	・感染症対策研修（手指消毒・手袋装着実施研修）・避難訓練
6	・食中毒について
7	・事故後の受診時の対応について（高齢者安全対策委員会）
8	・水消火器訓練 ・認知症研修（身体拘束廃止委員会）
9	・認知症研修（身体拘束廃止委員会）・褥瘡ケア研修
10	・褥瘡ケア研修
11	・救急搬送研修・嘔吐処理の研修（感染症対策委員会）・避難訓練
12	・嘔吐処理の研修（感染症対策委員会）・緊急連絡網訓練 ・危険予知訓練（高齢者安全対策委員会）
1	・高齢者虐待研修（身体拘束廃止委員会） ・危険予知訓練（高齢者安全対策委員会）
2	・事例検討研修・高齢者虐待研修（身体拘束廃止委員会）
3	・苦情対応研修（苦情対策委員会）

月	外部研修内容
5	鶴見区介護保険事業者連絡会 総会
6	・「在宅復帰、在宅支援」実地研修プログラム ・リスクマネジメント研修・接遇、苦情対応の研修
7	・大老健懇話会 ・認知症高齢者看護ケア研修会 ・感染症予防知識 ・福祉職員のメンタルヘルス研修 ・求人、広報力の向上研修
8	・相談面接の技術 ・褥瘡予防ケアと用具の選び方、使い方 ・住宅改修と住環境整備の基礎知識 ・社会福祉施設における防災、減災の取り組みについて
9	・鶴見区内老健・特養栄養士連絡会 ・外国人雇用セミナー
10	・職員接遇研修 ・介護老人保健施設における感染症予防について
11	・特定給食講演会

通所リハビリテーション

月	内部研修内容
4	総合研修
5	総合研修
6	感染症（食中毒）予防研修
7	人権・高齢者虐待・身体拘束研修
8	認知症基礎講座
9	事故防止リスクマネジメント研修
10	感染症予防研修
11	接遇マナー研修
12	介護技術向上研修
1	事故防止リスクマネジメント研修 人権・高齢者虐待・身体拘束研修
2	褥瘡予防研修
3	救急対応（地震災害時）研修

月	外部研修内容
9	法人内体験研修
10	法人内体験研修

居宅介護支援事業所

月	外部研修内容
7	・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議（リモート会議）
10	・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議（リモート会議）
11	・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議（リモート会議）
12	・ケアプランに活かすためのリハビリ講座（web勉強会）
1	・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議（リモート会議） ・令和2年度 第1回 鶴見区ケアマネット研修会（リモート会議） 『ケアマネジャーと生活支援コーディネーターによる社会資源の情報共有』
2	・城東区自立支援型ケアマネジメント検討会議（事例提出） ・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議（リモート会議） ・認知症のリハビリについて（web勉強会）
3	・第12回大阪市認知症セミナー（web講習会） ・呼吸リハビリテーションの基礎（web勉強会） ・令和2年度 第2回 鶴見区ケアマネット研修会（リモート会議）

月	内部研修内容
5	<ul style="list-style-type: none"> ・手指消毒、手袋の脱着研修（感染症対策委員会） ・認知症のケアについて
6	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒について（感染症対策委員会）
9	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練（防災委員会）
10	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐物の処理方法について（感染症対策委員会） ・褥瘡の好発部位と除圧について（褥瘡予防委員会）
11	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客満足度と苦情対応（苦情対策委員会）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・危険予知トレーニング（在宅高齢者安全対策委員会） ・苦情対応研修（苦情対策委員会）

月	その他
12	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府介護支援専門員実務研修 実習受入（1名）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府介護支援専門員実務研修 実習受入（1名） ・低所得高齢者支援のためのケアマネジメント実践に関する調査協力（梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科から依頼）
	鶴見区諸口地域の百歳体操参加（7月、10月、11月、3月）

【1】施設運営を振り返って

- (1) ケアフル布施のスケールメリットを活かし、介護保険、障害福祉サービス、自費サービスを一体的に提供し、老々介護や8050問題など、多問題を抱えるご利用者に対し、包括的支援を行いました。
- (2) 収支について、目標予算との乖離が大きく、拠点ベースで赤字となりました。特に、訪問介護のご利用者が冬季に入り、入院、入所が相次いだ為、収入が回復せず低迷が続きました。障害福祉は、コロナ禍ではありますが、外出系の移動支援、同行援護とも大きな影響を受けず、概ね目標達成できました。居宅介護支援は、関係機関との連携に努めましたが、新規利用者を獲得できず、目標達成できませんでした。次年度は、とりわけ、訪問介護の特定事業所加算取得による収入の底上げを図るとともに、人件費の適正化により、収支バランスの安定化を図ります。
- (3) 法人の職種別連絡会に参加し、各種情報共有、意見交換を行いました。スケールメリットを活かした訪問介護の複数契約等については、ご利用者の居住地が各事業所の担当エリアに集中していることから、包括的支援は実現できませんでした。次年度も、法人内の事業所で互いにフォローできるケースがあれば、個別に対応していくよう体制整備します。
- (4) 職種別連絡会に参加しましたが、ケアフル布施が持つ、障がい者支援や高齢者支援の知識や技術を法人内で活かす機会は持てませんでした。次年度は、とりわけ障がい者支援に関する知識や技術、ノウハウ等について、法人全体で共有できるよう、連絡会や勉強会を通じて情報発信します。
- (5) 職員教育について、コアメンバーに対し目標管理を導入し、OJTの推進、人間力の向上に努めました。外部研修については、コロナ禍でもあり、ケアマネジャー、サービス提供責任者とほとんど参加できませんでした。次年度は、リモート等の活用により積極的に研修に参加し、専門的知識、技術の習得に努めます。登録ヘルパーに対する研修は2ヶ月に1回書面で行いました。

【2】数値目標と実績

(%)

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点	目標	—	—	86.5%	5%	0.81%	8.5%
	実績	—	85.5%	98.7%	6.1%	0.9%	△5.7%
訪問介護	目標	11280 件	—	114.1%	6.5%	1.25%	△20.6%
		3.2 件					
	実績	8815 件	70.4%	149.7%	8.8%	1.7%	△60.3%
		3.1 件					
障害福祉	目標	4704 件	—	53%	2.5%	0.18%	44.5%
		2.9 件					
	実績	6624 件	100.5%	57.6%	3.4%	0.2%	38.8%
		3.1 件					

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

※訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1日あたりの訪問件数（下段）

居宅介護	目標	828 件	—	95.5%	8.3%	1.35%	△3.8%
		34.5 件					
	実績	785 件	92.6%	101%	8.3%	1.5%	△10.8%
		32.7 件					

※担当件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤1の1か月あたりの担当件数（下段）

【3】事業計画の実施状況

(1) 訪問介護

- ・ヘルパー採用について、一般募集以外に、他事業所が撤退する情報を受けたので、順次6名の登録ヘルパーを採用しました。
- ・営業活動や関係機関との連携により、月2~3件、新規のご利用者を獲得できました。目標の月6件には至っていません。
- ・コロナ禍により、登録ヘルパーの研修会は、2ヶ月に1回書面で行いました。意見交換シートを用いて、ヘルパー個々の課題を把握し、サービスの質の向上に取り組みました。

(2) 居宅介護支援事業所

- ・地域包括支援センターや各事業所への定期訪問を行い関係づくりに努めました。
- ・利用者に関する情報管理を、ほのぼのシステムに統一化し、更にノートパソコンを導入することで、業務の効率化に努めました。
- ・研修会についてはコロナ禍によりほとんど参加できませんでした。

【4】施設の課題

(1) 訪問介護

- ・12月以降、入院・入所等が相次ぎ、訪問介護（要介護）の稼働率が大幅に低下し、収入が大幅に減少しました。次年度は、安定した収入を確保するため、特定事業所加算Ⅱ及び介護職員等特定処遇改善加算Ⅰの取得を行うとともに、営業活動の促進により毎月6名の新規獲得を目指します。
- ・人材不足によりサービス提供責任者が現場に出る機会が多く負担が増大しています。引き続き、求人媒体やホームページの活用をはじめ、繋がりのある事業所への声掛けも含めてヘルパーの採用を促進します。併せて業務効率の改善によりサービス提供責任者の負担軽減並びに残業、休日出勤の削減に努めます。
- ・コロナ禍において月2回登録ヘルパーに対する研修会を継続し、個別指導を充実させ、サービスの品質向上に努めます。

(2) 居宅介護支援事業所

- ・新規の利用者獲得に苦戦しているため、引き続き、地域包括支援センターの定期訪問に加え、病院の地域連携室の訪問も行います。
- ・現在ケアマネ2名とも主任ケアマネの資格がないため、次年度は次期管理者候補の方で主任ケアマネの研修を受講します。
- ・加算が十分に取れていないため入院時加算や通院時加算を確実に算定します。

【5】付表

(1) ケアフル布施（登録ヘルパー）研修実績報告

月	研修内容（テーマ）
4	接遇について・プライバシーの保護について
6	感染症、食中毒予防及び蔓延防止について
8	緊急時の対応について・事故発生時の対応、再発防止について
10	倫理及び法令遵守について
2	接遇について・虐待防止について

(2) ケアフル布施（サービス提供責任者）研修実績報告

月	研修内容（テーマ）
6	東大阪市指定障害福祉サービス等事業所連絡会
6	東大阪市指定居宅サービス事業者等集団指導
7	処遇改善実績報告書の書き方

(3) ケアフル布施介護支援センター（ケアマネジャー）実績報告

月	研修内容（テーマ）
11	訴訟問題と対応策についての研修

【1】令和2年度総括

法人理念・ビジョン・経営方針を実現・実践するための法人組織を構築するため、職員の成長支援やモチベーション向上に向けた制度設計・仕組みづくりの検討を行うことを目的とし、職員の業務における成績や能力、仕事への意欲などを総合的に評価する人事考課制度の導入、等級制度をもとにした賃金体系案の策定、各職務における職務内容の明確化等、人事制度の根幹をなす制度設計及び制度運用に注力しました。

【2】検討内容

(1) 給与規程改定(案)の検討

(2) 人事考課導入

評価ツールとして、人事考課シートを策定(管理栄養士・栄養士・介護長・主任介護士・副主任介護士、看護師長・主任看護師・副主任看護師)から人事考課を開始。

(3) 新型コロナ禍における休業補償の検討

(4) 管理者の勤怠管理責任と職員の時間管理

労使それぞれの義務・時間管理の考え方(始業・終業・休憩、残業等)明確化し、時間管理ツールを策定

(5) 定年退職後の再雇用者の評価ツール

(6) 就業規則18条(退職)に関わるフローチャートや通知文の作成

(7) 嘱託職員雇用規程の見直しと改定案作成

(8) 退職時の業務引き継ぎの検討

(9) 入職時の誓約書の見直し

【3】令和3年度の課題

(1) 人事考課を推進する。

令和2年度から一部の職務において人事考課を開始しており、他の職務においても人事考課を推進するための課題抽出及び改善に向けた検討を行います。社会人機軸・職務機軸・等級機軸をベースに人事考課ツールを作成します。

(2) それぞれの職務の専門性の追求

職務の専門性を追求するためには、アセスメント、マネジメント、モニタリングについて十分理解し、適切に対応していくことが求められます。

また、各職務内容一覧を基にした職務内容から、資格占有の職務内容を除いて、部下、後輩等次世代に指導・引継を行っていき、業務効率を改善しつつ継続的な育成システムとしての人事制度を検討していきます。

(3) 等級概念・キャリアパスの見直し

法人のキャリアパスについて、職位と職能をリンクさせるだけでなく、等級概念を整理し、その等級に求められる職責、職能を検討することで、キャリアパスの改善を行います。

(4) 職員処遇（賃金体系）の更なる検討

職務職責に応じた給与を支給するとともに、職員のキャリアパスを形成する上で、キャリアに応じた給与体系で担保することを更に構築と併せて規程類を整備していきます。

【1】令和2年度総括

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大というこれまで経験したことのない1年となりました。そのため、法人や各拠点がこれまで実践してきた地域に向けての取組みがほとんど実施できませんでした。

各施設が開設当初より実施してきた施設と地域をつなぐ象徴である大規模な祭りや保育園・小学校との世代間交流はもちろん、買い物支援やサロンなどより生活に密着した活動も制限せざるを得ない状況でした。

地域貢献という社会福祉法人の責務を果たすことができなかつた1年ではありましたが、法人や各拠点の活動を見直す機会と捉え、次年度の活動につなげていきます。

【2】検討内容

新型コロナ禍のなか、まだまだ先行きが見えない状況で、社会福祉法人として・地域福祉の拠点として、何ができるのか・何をすべきなのかを考え、次年度以降の活動について検討しました。

【3】令和3年度への課題

まずは、各拠点の活動として既存の活動のブラッシュアップが必要であると考えます。そのためには感染症拡大下でも実施できるように、新しい生活様式や感染症対策に適応したものにしていく必要があります。

次に地域共生社会の実現に向けて法人の課題として、地域ニーズの発掘・認知症理解の推進・コロナ禍のなかにおける地域公益活動・医療との連携・社会福祉連携法人制度の理解の5つを挙げ、計画を立てて取り組んでいく必要があります。

また、社会福祉法人にはどのような状況下においても、必要としている方に必要とされるサービスを提供し続ける責務があります。そのために、災害及び感染症に対応したBCPの作成が急務であると考えます。

【1】令和2年度総括

令和2年度の活動計画に基づいて活動を行いました。初年度での取り組みをコロナ禍で行うにあたり、WEB会議が中心となりましたが会議として今後どのような内容を取り組んでいくのか、現状川福会での課題の抽出等を中心に担当職員の意識統一を中心に行っております。

主な取り組みとしましては、採用から育成までの現状の把握と課題の検討や、法人研修の新たな取り組みについても検討を行いました。

【2】検討内容

(1) 人材採用と職員育成の現状を明確にし、今後の採用計画案を検討

各施設からの面接や採用状況の報告を毎月集計行い今後の採用計画にどの様に活かしていくかを検討しております。

各施設における現時点での人財育成の問題点の聞き取りを行い、課題抽出を行っております。

法人全体で使用しているWEBでの求人のレイアウト等掲載内容の見直しを行い、面接結果の報告に対する検証を行い、今後の採用計画についても検討を行いました。

(2) 採用から育成までを一貫した視点で検討を行い、職員育成の環境の整備とキャリアパスの有効活用

現在使用している採用時の書式の見直しと検討を行いました。育成面での問題抽出も行いましたが、具体的な内容には至っておりませんので、今後も引き続き検討を行ってまいります。

(3) 専門学校や教育機関等の外部機関との連携を行い、人材採用・育成に繋がる仕組み作りを検討

コロナ禍でなかなか外部機関との育成に繋がる連携は行えませんでした。人材採用に関しましては、WEBでの法人説明会の実施や、WEB面接等新たな取り組みを行う事は出来ました。

(4) 人材採用に繋がる新たな取り組みを模索し、採用後の育成も検討

法人研修のWEBでの実施を行う事を検討し、新しい人材育成の体系を検討行いました。

(5) 女性活躍新法に基づき、管理職に占める女性割合を30%以上にする為の育成環境の検討

女性管理職の育成環境を整えるための課題抽出を行いましたので、今後管理職の育成体系の構築を検討してまいります。

【3】令和3年度の課題

会議の内容としてかなり幅広い検討が求められる事が多く、より詳細な計画性が必要となってきましたので令和3年度は、担当と年間の話し合う内容を事前に計画行いそれぞれで、検討を行い検討された内容を形にしていく事が会議としての課題となっております。

令和2年度はコロナ禍による様々な対策が必要となっておりましたので、新たな育成体系や採用活動も検討していく必要があります。

【1】令和2年度委員会の総括

法人理念に沿い、ご利用者にとって安心・満足のサービスとは何かを常に考え、自分たちがとらえているご利用者像とニーズが、本当に現在の日本の高齢者のニーズにかなったものか、そして法人の現在のサービスの質がそれを担えているかを検証し、問題提起と提案をすることを目的としてまいりました。

より良いサービスの提供が継続できるように、法人内の各拠点における課題事項など情報の収集・把握を行い、拠点間で広く連携していくことで「サービスの質の向上」「ご利用者満足」「職員の資質向上」に努めてまいりました。

ご利用者個々に生活の背景や状態の違いがある中で、川福会のサービスに満足していただけるよう、定期的な効果測定や都度の振り返りを行ってまいりました。

【2】検討内容

サービス向上委員会ではご利用者に満足していただけるサービス提供の為、次のような内容の取り組みを行っております。

(1) 「ご利用者満足度アンケートの実施」

取り組み	実施評価
サービス内容の見直しとご利用者様の満足度を把握するため、ご利用者様に満足度アンケートを各施設・事業所種別ごとに連絡会をとおして実施し、集計・開示を行い、そこで浮き上がった課題点とその傾向等について各施設事業に提供し、各施設事業のサービスの改善と向上に向けて取り組んでおります。	令和元年度ご利用者満足度アンケートは法人連絡会を通じて全事業対象に実施をしました。実施した時期は11月より順次開始を行い、結果の開示は改善策を検討したものを令和3年2月以降に事業所ごとにご利用者、家族へ向け施設内掲示等の方法を取り開示を行いました。

(2) 「スローガン作成」

取り組み	実施評価
法人理念の周知だけでなく、法人全体が一体となり、サービス向上に取り組んでいくことを目的として半期ごとにスローガンを掲げております。 最初は、全施設事業にスローガンの募	令和2年度上半期、介護老人保健施設すいれんで「助け合い」「支え合い」「認め合い」繋がるありがとう」を作成。下半期は特別養護老人ホームみのわの里で「川のような穏やかな心と、福を

<p>集を行い、そのすべての思いを集め、創業者の思いと合わせて『私たちの思い』としてパンフレット化し、教育の機会ごとに私たちの原点として確認しております。</p>	<p>呼び込む笑顔で、会う人すべてに幸せな気持ちを与えたい」を作成しました。上半期・下半期共に各拠点では掲示を行うとともに理念とあわせて唱和を行うなどし、周知を図りました。</p>
---	--

(3) 「表彰・顕彰制度の実施」

取り組み	実施評価
<p>サービス提供内容の把握及び情報の共有、法人内での事業所の優れた取り組み内容を連携するため、半期ごと「表彰顕彰制度」を実施し、前回で第10回目の節目を迎えました。</p> <p>職員同士の働きがいや喜びの共有、新たな取り組みへ意欲の向上をめざし実施しているものです。</p>	<p>今年度は感染症予防対応のため一同に会しての表彰・顕彰制度の実施を行うことができませんでした。今できることとして、各拠点事業が取り組んでいる内容を「新型コロナウイルス」に関連するお題に統一し募集を募り表彰顕彰制度を実施しました。12作品の応募があり。コロナ禍であっても、入居者、利用者、ご家族に対しての「安心」を考えた取り組みを共有することができました。</p>

(4) 「第三者評価受審後の水平展開」

取り組み	実施評価
<p>特養3施設において、第三者評価を受審。第三者が見たうえで、各拠点での現在地を知ることができました。受審したら終わりではなく、サービスの向上につながる取り組みとは何かを第三者評価受審後の評価をもとに協議を行いました。</p>	<p>特養3施設で、ハード面や課題の違いもあり、3施設でそれぞれ優先順位を立てて実行しております。サービスの質の向上という面で、「人権」をテーマに考える必要があることから、地域包括支援センターみのわの里が主体となり、外部講師を招き、ZOOMハイブリッドで全施設が同時に研修に参加できるよう実施しました。オンラインでの初めての試みだったが、様々な職種が参加でき、感染症予防に留意し実行できた。</p>

【3】令和3年度の課題

① 令和元年度に取り組んでまいりました【2】の4項目について、一段とブラッシュアップしていく必要性があると考えます。

(1) ご利用者さま満足度アンケートについて

継続して実施していきます。ただし漫然と実施しても意味のないものになってしまいます。このアンケートを、「振り返り」「ニーズ把握」「業務改善」などにしっかりと役立てられるようにしていく必要があります。そのためにも各連絡会との連携をより一段と深めていく必要があります。

(2) スローガン作成について

法人理念をより分かりやすく、より身近に感じてもらえるように半期ごとに、各連絡会で作成を依頼しています。各施設で提示の協力を得るなどして、浸透はしています。

しかしながら、長年実施している中で職員の入替わりがあり、当初の目的が薄れてきているのも事実です。また、限られた職員で作成するのではなく、少しでも多くの職員が作成に関われるような形で作成していくことが必要と考えます。

(3) 表彰顕彰制度について

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染症予防のため、例年のように一同に会しての開催を実施できませんでした。しかし、今だからこそできることや取り組んでいくことの共有化が重要であるという視点から、「新型コロナウイルス」に対する取り組みについてお題を統一して実施しました。

新型コロナウイルスの感染症状況を受けて、職員、入居者、ご家族、地域の方々に対しての『サービス向上』とは何かを考えて実行している取り組みを共有することができました。今後も感染症対応を視野に入れた表彰顕彰制度を実施していくことが課題です。

(4) 第三者評価後の水平展開について

特養3施設が、第三者評価を受審。受審後サービスの質の向上の観点から受審後第三者から見た、現在地を知り、見える化されることで、何をどのようにすればよいのかという指標が明らかになりました。今後は各拠点でのハード面やソフト面の違いはあるが、介護員連絡会を通じて課題を共有し改善し、サービスの質の向上を図っていく必要があります。

(5) 苦情解決報告会について

苦情は「宝」という認識のもと、苦情解決報告会における、苦情内容について

今後協議を行い、サービス向上の観点からのアプローチを検討・実施していきたいと考えています。更なるサービスの向上に繋がるよう分析・検討・改善実施することが課題です。

【1】令和2年度総括

今年は新型コロナウイルスによって世界中がかつて経験した事のない大変な一年となり川福会でも年内恒例としていました、新入職員歓迎ボーリング大会及び懇親会やバーベキュー大会、その他同好会活動等多くの行事を自粛する事となりました。

職員の健康についても、法人の健康を図る指針になり得ることから、人間ドッグや市町村がん検診を多くのスタッフが受診できるようアナウンスしてまいりましたが、新型コロナウイルスの影響で医療機関の予約が取れなかった等、行事だけでなく様々な面で影響を受け、職員の方々に十分な福利厚生の提供ができませんでした。

【2】検討内容

(1) 新人歓迎ボーリング大会・秋のバーベキュー・各同好会の活動

新型コロナウイルス感染症の影響により中止した為、今年度の活動はありません。まだまだコロナ禍が続くと思われる為、コロナ禍の中、どのような形で開催していくのか課題と考えています。

(2) 市区町村が行うがん検診への補助

実施者の増加を狙い、昨年同様、案内状の作成や近隣市の検診種類をまとめた物を配布してアナウンスしてまいりました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、検診の自粛や病院から予約を受け付けていないといった事も見られ実施者は少ない状況でした。また、検診の助成制度を利用しない理由についても検討を行い、検診に行く時間を作るのが難しい事やかかりつけ医が助成対象でない他市区町村にあり、かかりつけ医に見てもらいたいといった気持から市区町村が実施しているがん検診を利用しないのではないかと意見が出ています。助成については、そういった形でも受けられる体制を検討してまいりましたが、かかりつけ医との実態把握が難しいといった面もあり、今後も検討が必要となっています。検診のための時間確保については今後、法人衛生委員会と協力しながら検診へのアプローチ方法と検診者数の変化を見ながら十分に検討できるデーターを集め、検討を進めていきます。

(3) 人間ドッグ利用助成

昨年同様、永年表彰で表彰された職員を対象に案内状を作成し、配布することで受診率向上に取り組みました。しかし、がん検診同様、新型コロナウイルスの影響

響により、検診の自粛や病院から予約を受け付けていないといった事も見られ実施者は少ない状況でした。来年度の検診率向上への取り組みについて、対象者だけでなく対象者以外の方にも人間ドッグの助成制度を理解してもらえるようアナウンス強化を検討・実施を行ってまいりました。

(4) その他

昨年より新型コロナウイルス感染症の影響により上記の福利厚生の実施が困難な状況もあった為、新人歓迎ボーリング大会及び人間ドッグ利用助成対象者を次年度に引き継ぐ形となります。

【3】令和3年度への課題

令和2年2月より新型コロナウイルス感染症が国内に感染が広がり始め、生活様式の見直しや感染リスクを考えてのイベント中止等、世の中でも多くの影響がでた1年であり、まだまだ元の生活に戻るには時間がかかると思われます。

職員の方々にはコロナ禍の中、日々の業務や感染対策、日常でも行動を制限される事も多い状況です。こうした状況から、心身共にフラストレーションが溜まりやすい環境にある事やこのような状況だからこそ福利厚生の充実が必要であると考えられる為、来年度はコロナ対策を重点課題と位置づけ、コロナ禍でも出来るイベントの開催や職員全員に日々の感謝の品をお渡しできればと考えています。また、昨年引き続き職員全員に平等な福利厚生制度を目指して検討してまいりたいと思います。

【1】令和2年度総括

昨今、介護業界の人材不足が深刻な問題となっており、人材確保に向けた取り組みがより一層重視されます。介護の仕事の魅力を幅広く発信し、効率的・効果的な採用活動が展開できるよう、今年度は、優先課題としてホームページのブラッシュアップ及びSNSの活用に取り組みました。又、前年度に引き続き、各拠点の広報活動について情報共有し、ブログ、広報誌等の課題整理を行いました。法人のイメージアップ戦略についてはコロナ禍により、採用活動が縮小傾向だったこともあり、次年度の検討課題となりました。

【2】検討内容

(1) 各拠点の広報活動の課題解決

介護職員採用パンフレットの確認、各拠点の新パンフレット（三つ折りパンフレット）の作成状況の確認、広報誌の活用、ホームページ及びスタッフブログ管理について意見交換し、情報共有ならびに課題整理を行いました。JOBギア（採用ホームページ）の運用について、求人票の作成、掲載、取り下げ作業など、各施設で操作できるよう調整を行いました。

(2) ホームページのブラッシュアップ

ホームページのコンテンツ、レイアウト等をあらためて精査し、課題抽出、解決すべき点を整理し、大幅な見直しを行いました。TOPページの新着情報とスタッフブログを目立つよう表示し、「かわふくん」のデザインも変更しました。各施設案内の画像、表示調整を行い、スタッフブログにカテゴリ検索機能を付けるなど、閲覧者にとって見やすさを追求しました。JOBギアの写真も導入当初のすいれん職員のままだったので、各施設の職員の写真に変更しメリハリをつけました。アクセスレポートのデータを参考に、JOBギア導入後の効果測定を行い、追加プラン（アイデムへの求人掲載）の検討を行いました。一方で、現在、月1回各施設で、自施設のページを見直すルールとなっていますが、情報更新されていない施設もあり、改善に向けて、周知徹底を図りました。

(3) SNSの活用

インスタグラム導入にあたり、「かわふくん」のぬいぐるみ又はバルーンを作成し、インスタグラム内で「かわふくん」が施設訪問や行事、就職活動の様子を活動日誌のような形で掲載するよう方向性を決めました。写真の投稿

がメインとなり、投稿頻度を増やす方が、閲覧者にとって興味を引きやすいことから、全施設で週5回の投稿を目指すことを検討しました。実際の運用についてはゴールデンウィーク明けに試験的に行う予定です。

(4) 法人のイメージアップ戦略

新型コロナの影響により、例年と比べ採用活動が縮小傾向にあり、法人のPRやイメージアップにつながる広報活動は展開できませんでした。引き続き学生等をターゲットに、法人の「強み」「良さ」を知ってもらえるよう、イメージアップ戦略に取り組む必要があります。

【3】令和3年度への課題

(1) 法人の広報活動の課題抽出

各拠点の発信力、訴求力が高まり、広報活動が活性化するよう、法人の広報活動について情報共有し、課題抽出・改善に向けた取組みを推進します。

(2) ホームページを活用した広報の検討・ホームページの改善

ホームページの中身を精査し、閲覧者が確実、かつスムーズに情報収集できるよう、内容について充実、発展させます。とりわけ、JOBギア（採用ホームページ）のキャリアパスや教育制度の充実、さらにはホームページの動画やYouTubeの有効活用など、ブラッシュアップに取り組めます。

(3) SNSの活用による広報の検討

ソーシャルアカウント（インスタグラム）の導入に向けて、具体的な運用、管理方法、ホームページとの連携等について検討します。

(4) イメージアップ戦略

法人の採用活動を活性化するため、法人の「強み」や「良さ」に着目し、PR動画やJOBギアとの連携など、イメージアップ戦略に取り組めます。

【1】令和2年度総括

法人全体で実施するストレスチェックの実施結果から、各拠点のストレス発生日合を提供し共有することで、早期に対策を講じられるように支援。高ストレス者発生時の専門的対応の構築と定着を狙い、現在社会の課題に取り組む。

その他、新型コロナウイルスの発生から緊急事態宣言発令と世界的に生活状況が大きく変化したことにより、令和2年度の計画が実行できない状態となりました。

【2】検討・実施内容

法人委員会にて実施事項

(1) 法定実施

- ・健康診断（夜勤実施者は年2回）

枚岡地区（福寿苑、枚岡の里、ケアハウス喜里川、ケアハウスひらおか）については「枚岡病院」にて実施。それ以外の地域（みのわの里、布市福寿苑、真寿庵、長田の里、ごりょうの家、だいたいケアプランセンター、すいれん、ケアフル布施、法人本部）は「恵生会病院」（検診バス）にて実施。

- ・ストレスチェック

「こころの保健室」にて実施。分析結果を各拠点へ共有。実施率の向上へと向けた取り組みを検討。

- ・ハラスメント対策の強化

多様なハラスメントへの対策を検討。コロナ禍の影響により来年度への課題とする。

(2) 自己啓発支援

- ・ストレスとの向き合い方研修について

集団研修がコロナ対策で実施困難となる。WEB講習を検討したが実施に至らず。

(3) 健康促進

- ・市町村がん検診の受検率向上

福利厚生委員会との合同課題として、がん検診の受検率向上へ向けた取り組みを実施検討。

各拠点（事業所）にて実施事項

(1) 各事業場の現場見回りの実施

危険箇所等の発見と改善。産業医による職場環境の見回り。

(2) 安全衛生委員会の開催

毎月定期開催。各協議事項の検討や研修等を実施。

(3) 新型インフルエンザ蔓延予防（コロナ感染対策）

スタンダードプリコーション（標準予防策）の確立と周知徹底。消耗品の確保と在庫維持。（BCP計画策定及び見直し）

【3】次年度への課題

（1）精神不調者への企業対応の実施

セルフケア講習会のWEB開催の企画実施と検証。

休職期間や短縮勤務・配置転換など、実質的な手立てについて組織として対応策の構築。またその際の身分・給与体制、休職期間及び短縮勤務中に不足する部門の人員雇用の有無、退職に関連する内容等の検討。

（2）相談機能の充実と利用時の利便性向上。（産業医、専門医の見直し）

現状構築されている相談機能を多角的に取り入れ、事業場や職員利用時の利便性を改善。

（3）市町村がん検診受検率向上を福利厚生委員会と協同実施。

各拠点の年間受検者数収集と把握、分析を経てフィードバックする。

【1】令和2年度総括

令和2年4月より、リスクマネジメント推進担当者会からリスクマネジメント推進委員会に名称を変更し、法人の委員会として活動を行いました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症状況に伴い、4月には1回目の緊急事態宣言が発出され、その後も、感染状況が収まらなかったため、委員会は、1回だけの会議開催でした。主にメールを活用して委員会メンバーとの意見交換や状況共有、各拠点への情報発信に努める活動を行いました。

委員会の目的

利用者や地域の方々に福祉サービスを提供する過程で発生する様々なリスク（事故・苦情・感染症・災害等）の発生を防止、解消する体制を確立し、福祉サービスにおける危機管理に関する取り組みを行い、適切、安全な福祉サービスの提供及び利用者処遇の向上に資することを目的とする。

上記の目的を担当者会のメンバーが共有し、様々なリスクに対する「予測」と「準備」ができるように、また、前年度の課題の検討を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策と各拠点の状況共有が主な取り組みとなり、下記の取り組みを行いました。

- ①看護師連絡会と共同し「新型コロナウイルス感染症拡大予防対策ガイドライン」の作成。
- ②各拠点間での、日々の新型コロナウイルス感染状況や対応についての情報共有。
- ③法人内で、新型コロナウイルス感染が判明された拠点での取り組み（保健所からの指示指導等）を各拠点で情報共有。
- ④新型コロナウイルス感染状況により、6月と1月に開催を予定していた、令和2年度の第三者委員苦情報告会の開催が出来なく、各第三者委員へ書面での報告の取り組み。
- ⑤ヒヤリ・ハット報告書について、各拠点での提出状況の確認と統一書式の見直し。

【2】検討内容

取組内容)

①新型コロナウイルス感染症に対する取組

- ・5月中旬より、看護師連絡会と共同して「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」の作成を開始し、8月中旬に法人のガイドラインとして発出しました。各施設で、設備等で異なる部分もありますが、法人のガイドライン（基本指針）として、感染症予

防の共通対応できるように努めました。

- ・各拠点での新型コロナウイルス感染状況が共有できるように、統一した報告書を作成しました。法人内の各拠点や近隣の施設等での陽性者の判明状況等を共有することで、職員の感染症対策に対する意識づけが出来ました。
- ・法人内の拠点で、複数の入所者・職員の陽性が判明し、所轄保健所等による指示・指導を受けました。その指示・指導事項を各拠点に情報発信し、対応事項等についての質問を受け付け、返答することで感染予防対策の構築に努めました。

② 第三者委員苦情報告会の開催中止に伴い、書面での各第三者委員への報告の検討

新型コロナウイルス感染症状況により、今年度6月・1月に開催予定していましたが中止となりました。そのため、各第三者委員へ報告書を郵送し確認と意見を頂きました。そのご意見に対して、今年度は、各拠点の長が返答しました。その内容をホームページに掲載し、職員への啓発を行い、苦情は「宝」であり、他人ごとではなく自分事として受け止めるように資質向上に努めました。

③ 「ヒヤリ・ハット報告書」の啓発活動

昨年度、「ヒヤリ・ハット報告書」の書式を統一し、「ヒヤリ・ハット報告書」の意義を啓発してきました。各拠点での、提出数が増えています。職員の気づきが増えることで事故防止できるとともに、利用者処遇の向上にもつながります。ヒヤリ・ハット報告書の分析と啓発が出来ている拠点もあります。拠点ではなく、法人全体としての分析が出来るように仕組みの構築が必要です。

【3】令和2年度への課題

- ① 新型コロナウイルス感染症において、いつ収束するのか予測もできない状況が続きます。法人内の拠点で、いつ陽性者が判明されるか分かりません。安全に安心して、各事業のサービスが提供できるように、時勢にあった感染症対策を講じていけるように、委員会を中心に情報発信していく必要があります。
- ② 「ヒヤリ・ハット報告書」の提出が増え、分析できている拠点もありますが、法人として分析して、「いつ」「どこで」「どのような環境で」「なぜ起こったのか」「どのように改善したか」等を拾い上げて、発信し事故のリスクを減らしていく仕組み作りが必要。
- ③ 第三者委員報告会の苦情内容等の分析を行い、法人としての課題を見つける役割を担い、その課題解決に必要な研修等の取り組みをサービス向上委員会に繋げる仕組み作りが必要。また、「宝」を周知できていないこと、全職員に対する周知方法の課題は継続しています。